

# F D

2023年度

北海道医療大学 F D研修報告書

〈基本編・テーマ編〉

学生を中心とした  
教育をすすめるために

北海道医療大学 全学F D委員会

## 目 次

---

### <基本編>

#### 北海道医療大学全学FD研修

-ユニバーシティ・アイデンティティを考える-

|  |    |
|--|----|
| はじめに   | 1  |
| 実施概要（趣旨など）   | 2  |
| 参加者名簿  | 4  |
| 学長講話   | 16 |
| 「医療系総合大学教員としての使命と目標<br>～新医療人育成の北の拠点を目指して～」<br>学長 浅香 正博 |    |
| レクチャー  | 27 |
| 「当大学の理念・目標・方針に基づく授業<br>～基本的な確認事項について～」<br>医療技術学部 藏満 保宏 |    |
| ワークショップ（プロダクト）   |    |
| Aグループ  | 45 |
| Bグループ  | 46 |
| Cグループ  | 47 |
| Dグループ  | 48 |
| アンケート  | 52 |
| FD委員感想   | 60 |

## <テーマ編>

### 北海道医療大学全学FD研修

学生を中心とした教育をすすめるために

-低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系AI活用への探索-

|                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| はじめに                  | 65                 |
| 実施概要（趣旨など）            | 66                 |
| 参加者名簿                 | 67                 |
| レクチャー①                |                    |
| 「生成系AIの現状と活用」         | 75                 |
|                       | 薬学部 二瓶 裕之          |
| レクチャー②                |                    |
| 「合理的配慮の考え方と実践」        | 85                 |
|                       | 心理科学部 柳生 一自        |
| ワークショップ内レクチャー①        |                    |
| 「発達障害に対する臨地実習での合理的配慮」 | 97                 |
|                       | リハビリテーション科学部 下村 敦司 |
| ワークショップ（プロダクト）        |                    |
| 1グループ（テーマ1）           | 100                |
| 2グループ（テーマ2）           | 103                |
| ワークショップ（感想）           | 105                |
| FD委員感想                | 113                |
| 総合評価                  | 116                |

# 全学 FD 研修 [基本編]

「学生を中心とした  
教育をすすめるために」  
-ユニバーシティ・アイデンティティを考える-

期 日：令和 5 年 4 月 4 日（火）

会 場：当別キャンパス [ZOOM 開催]

はじめに

北海道医療大学 全学 FD 委員長  
荒川俊哉

本年度の新任教員を対象とした FD 研修会（基本編）が、4月4日に開催されました。今回もここ数年と同様、「学生を中心とした教育をすすめるために」をメインテーマに、午前中に浅香学長の講話と蔵満委員による授業の進め方のレクチャーを、午後に「ユニバーシティー・アイデンティティーを考える」をサブテーマとしたワークショップが行われました。コロナ禍で行う FD 研修会も 4 年目となり、ZOOM のブレイクアウトルームを使ったワークショップもすっかり定着いたしました。また、ジャムボードを使ったオンラインディスカッションを利用したグループがでるなど、教員の IT リテラシーも益々向上してきているように感じました。更に今回は若い新任の教員のために「大学教員の仕事と心構え」、「助教の職務」、「ユニバーシティー・アイデンティティーの定義」などについての事前レクチャーを行ったことから、午後からのワークショップがよりスムーズに行う事ができたと思います。本年度も充実した、ワークショッププロダクトが出来上がりました。新任の教員の皆様には、この経験をこれからの教育に十分にいかして頂ければ幸いに存じます。

## 令和5年度 全学FD研修<基本編>

メインテーマ：「学生を中心とした教育をすすめるために」

\*サブテーマ：「ユニバーシティ・アイデンティティを考える」

主 催：北海道医療大学全学FD委員会

日 時：令和5年4月4日（火） 10：00～16：00

会 場：Zoom

参加対象者：2023年度新規採用(4月1日付)教員及び

2022年度中途採用(4月2日付以降)教員：計18名

運 営 委 員：令和4年度の全学FD委員

FD委員長：歯学部 荒川教授

FD委員：薬学部：小島教授、歯学部：會田教授

看護福祉学部：守田教授、塚本教授、心理科学部：百々教授

リハビリテーション科学部：鎌田教授、中川教授

医療技術学部：藏満教授、坊垣教授

全学教育推進センター：鈴木准教授

歯科衛生士専門学校：千葉専任教員

講 師：浅香学長、藏満教授（FD委員）

事務担当：高見事務局次長、茂庭学務部次長、橋本教務企画課員

### 【趣旨】

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

### 【目標】

- 1) 本学の教育の三方針、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを理解し、本学の「ユニバーシティ・アイデンティティ」とは何かを考える。
- 2) 講義を行う上での様々な注意点や留意点を理解する。

### 【研修形態】

- 1) 能動的体験型研修とする。
- 2) 肩書なしの対等な意見交換をする。
- 3) 建設的な意見交換から建設的対応策を生み出す。

## 【スケジュール概要】

| 時間          | 内容  | 担当者  |
|-------------|---|--|
| 9:50        | 参加者集合   |  |
| 10:00       | 開会  | 【進行：荒川委員長】   |
| 10:00-10:10 | 《開会挨拶とオリエンテーション》<br>・研修の意義と進行内容の説明  | 《荒川委員長》  |
| 10:10-11:00 | 《講話》<br>医療系総合大学教員としての使命と目標<br>-新医療人育成の北の拠点を目指して-  | 《浅香学長》   |
| 11:05-11:35 | 《レクチャー》<br>・当大学の理念・目標・方針に基づく授業<br>～基本的な確認事項について～  | 《藏満委員》   |
| 11:35-12:40 | 昼食・休憩   |  |
| 12:40～      | 《ワークショップ》   | 【午後進行：中川委員】  |
| 12:40-13:00 | *ワークショップテーマの説明<br>*プロダクトの作成作業について<br>*ワークショップのすすめ方<br>*ブレイクアウトルームの説明                                    | 【説明：鈴木委員】<br><br>＜ファシリテーター＞<br>各グループ3名以上<br>Aグループ<br>(會田、百々)<br>Bグループ<br>(小島、鎌田、鈴木)<br>Cグループ<br>(守田、中川、千葉)<br>Dグループ<br>(塚本、坊垣) |
| 13:00-14:50 | 《ブレイクアウトルーム入室》<br>*自己紹介、役割分担(進行・記録・発表)の決定(10分)<br>*グループ討論(100分)<br>「テーマ：本学のユニバーシティ・<br>アイデンティティに即した教育法」 |  |
| 14:50-15:00 | 休憩  |  |
| 15:00-15:50 | 発表(発表・質疑応答 10分×4グループ)   | 【発表進行：坊垣委員】  |
|             |   | 【午後進行：中川委員】  |
| 15:50-15:55 | 総評  | 《荒川委員長》  |
| 15:55-16:00 | アンケート記入・閉会  |  |

令和4年度全学FD研修 基本編 参加者名簿(五十音別)

|    | 氏名      | 職位   | フリガナ       | 学部           | グループ |
|----|---------|------|------------|--------------|------|
| 1  | 江上佳那    | 助教   | エガミカナ      | 歯学部          | A    |
| 2  | 岡田悠之介   | 助教   | オカダユウノスケ   | 歯学部          | B    |
| 3  | 金山裕望    | 助教   | カネヤマユミ     | 心理科学部        | A    |
| 4  | 上河邊 力   | 助教   | カミコウベチカラ   | 心理科学部        | B    |
| 5  | ギリ. サリタ | 特任助教 | ギリ. サリタ    | 先端研究推進センター   | D    |
| 6  | 煙山修平    | 助教   | ケムリヤマシュウヘイ | 歯学部          | C    |
| 7  | 郷 賢治    | 助教   | ゴウケンジ      | 歯学部          | D    |
| 8  | 進藤つぐみ   | 助教   | シンドウツグミ    | 薬学部          | B    |
| 9  | 関 有里    | 助教   | セキユウリ      | 歯学部          | B    |
| 10 | 藤田尚正    | 助教   | フジタナオマサ    | 歯学部          | A    |
| 11 | 古川えり    | 助教   | フルカワエリ     | 看護福祉学部       | C    |
| 12 | 蓑輪映里佳   | 助教   | ミノワエリカ     | 歯学部          | D    |
| 13 | 柳生一自    | 教授   | ヤギユウカズヨリ   | 心理科学部        | D    |
| 14 | 山中大寛    | 助教   | ヤマナカマサヒロ   | 歯学部          | C    |
| 15 | 横関健治    | 助教   | ヨコゼキケンジ    | 歯学部          | A    |
| 16 | 依田泰知    | 助教   | ヨダタイチ      | リハビリテーション科学部 | A    |
| 17 | 米田龍大    | 助教   | ヨネタリュウタ    | 全学教育推進センター   | B    |
| 18 | 若松千裕    | 助教   | ワカマツカズヒロ   | リハビリテーション科学部 | C    |

参加者合計:18

## 2023年度 全学FD研修 〈基本編〉

### 学生を中心とした教育を 進めるために

サブテーマ  
ユニバーシティ・アイデンティティを考える



主催：全学FD委員会

2023年4月4日（火） Zoom研修会



## 研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

## 研修の目標

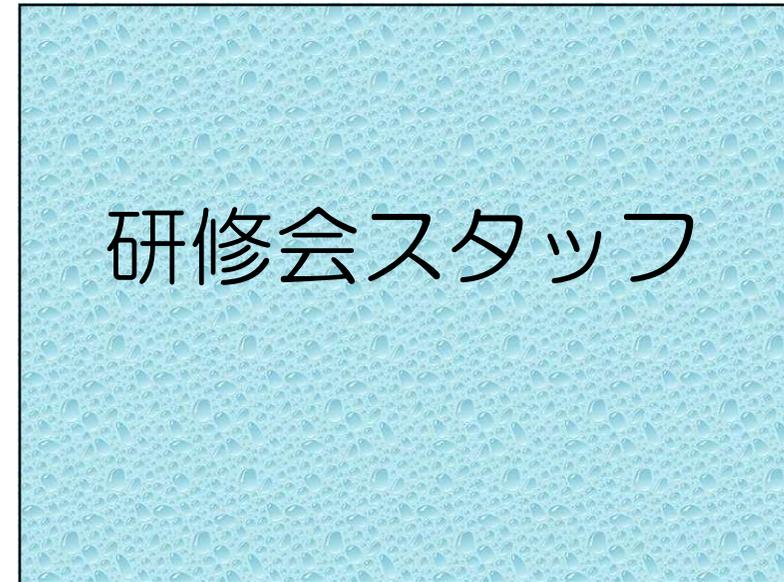
- 1) 本学の教育の三方針、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を理解する。
- 2) 大学教員としての自覚を持って、どのように講義を行うのかを理解し、またその際の様々な注意点や留意点を理解する。
- 3) 本学の「ユニバーシティ・アイデンティティ」とは何かを考える。

## 研修会スケジュール

## 研修会スケジュール

|       |  |                    |
|-------|--|--------------------|
| 9:40  | FD委員集合(通信状態等チェック)  | 午前進行: 荒川委員長        |
| 9:50  | 参加者集合  |                    |
| 10:00 | 開会、委員長あいさつ/スケジュール確認ほか  | 荒川委員長              |
| 10:10 | 学長講話:<br>「医療系総合大学教員として使命と目標<br>～新医療人育成の北の拠点を目指して～」                     | 浅香 正博 学長           |
| 11:05 | レクチャー:<br>「当大学の理念・目標・方針に基づく授業<br>～基本的な確認事項について～」                       | 藏満委員               |
| 11:35 | 昼休憩  |                    |
| 12:40 | 参加者集合<br>ワークショップ作業解説<br>ワークショップの進め方、ブレイクアウトルームについて等                    | 午後進行: 中川委員<br>鈴木委員 |
| 13:00 | ワークショップ<br>「本学のユニバーシティアイデンティティに即した教育法」<br>(自己紹介、役割分担(記録・発表等)を決める時間を含む) |                    |
| 14:50 | 休憩   |                    |
| 15:00 | 発表(1グループ 10分)  | 発表進行: 坊垣委員         |
| 15:50 | 総評・アンケート提出   | 荒川委員長              |
| 16:00 | 閉会   |                    |

スケジュールは配布済みのファイルもご確認ください



## 研修会スタッフ

---

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 学長    | 浅香正博                      |
| FD委員長 | 荒川俊哉 歯学部教授                |
| FD委員  | 小島弘幸 薬学部教授                |
|       | 會田英紀 歯学部教授                |
|       | 守田玲菜 看護福祉学部教授             |
|       | 塚本容子 看護福祉学部教授             |
|       | 百々尚美 心理科学部教授              |
|       | 鎌田樹寛 リハビリテーション科学部教授       |
|       | 中川賀嗣 リハビリテーション科学部教授       |
|       | 藏満保宏 医療技術科学教授(レクチャー担当)    |
|       | 坊垣暁之 医療技術学部教授             |
|       | 鈴木喜一 医療技術学部/全学教育推進センター准教授 |
|       | 千葉利代 歯科衛生士専門学校専任教員        |
| 事務局   | 高見裕勝 事務局次長                |
|       | 茂庭智広 学部次長、教務企画課 橋本悠平      |

---



## 2023年度全学FD研修（基本編） 参加者

| 薬学部         |   | 看護福祉学部           |   |
|-------------|---|------------------|---|
| 進藤つぐみ       | B | 古川えり             | C |
| 歯学部         |   | 心理科学部            |   |
| 江上佳那        | A | 金山裕望             | A |
| 岡田悠之介       | B | 上河邊 力            | B |
| 煙山修平        | C | 柳生一自             | D |
| 郷 賢治        | D | リハビリテーション科学部     |   |
| 関 有里        | B | 依田泰知             | A |
| 藤田尚正        | A | 若松千裕             | C |
| 菱輪映里佳       | D | 全学教育推進センター       |   |
| 山中大寛        | C | 米田龍大             | B |
| 横関健治        | A | 参加者内訳            |   |
| 先端研究推進センター  |   | 5学部1センター1研究所 18名 |   |
| GIRI Sarita | D |                  |   |

## 参加者のグループ分け

| A              | B        | C        | D               |
|----------------|----------|----------|-----------------|
| 江上佳那(歯)        | 進藤つぐみ(薬) | 煙山修平(歯)  | 郷 賢治(歯)         |
| 藤田尚正(歯)        | 岡田悠之介(歯) | 山中大寛(歯)  | 菱輪映里佳(歯)        |
| 横関健治(歯)        | 関 有里(歯)  | 古川えり(看)  | 柳生一自(心)         |
| 金山裕望(心)        | 上河邊 力(心) | 若松千裕(リハ) | GIRI Sarita(先研) |
| 依田泰知(リハ)       | 米田龍大(全セ) |          |                 |
| グループ担当ファシリテーター |          |          |                 |
| 會田委員           | 小島委員     | 守田委員     | 塚本委員            |
| 百々委員           | 鎌田委員     | 中川委員     | 坊垣委員            |
|                | 鈴木委員     | 千葉委員     |                 |

※荒川委員長は、各グループを巡回

## 講話

北海道医療大学 学長

浅香 正博

医療系総合大学教員として使命と目標  
～新医療人育成の北の拠点を目指して～

## レクチャー

当大学の理念・目標・方針に基づく授業  
～基本的な確認事項について～

藏満保宏

医療技術学部教授 FD委員

## 昼食・休憩



午後の再集合時間 : **12:40**  
(時間厳守)

**2分前には再入室をお願いします**



2023年度 全学FD研修 <基本編>

## ワークショップの進め方 プロダクトの作成について

2023年4月4日(火曜日) Zoom研修会

**主催：全学FD委員会**

担当：鈴木委員(全学教育推進センター・FD委員)

## ワークショップテーマ 説明①

本学のユニバーシティ・アイデンティティー  
(UI) に即した教育法

大学を取り巻く環境は、ユニバーサル化<sup>(※)</sup>と少子化による存続競争が激化する状況です。

そこで、本学の理念や方針等から、特徴的なUIを考察し、学内外に対しその特徴を印象付ける具体的な教育法(教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイル)の展開について議論してください。

※ユニバーサル化：進学率が50%以上となった段階

## ワークショップテーマ 説明②

本学の理念や教育の三方針、3つのポリシー<sup>(※)</sup>を理解し、本学のUIとは何かを考える。

その上で

- 本学のUIとなりうる本学の良さ、特長を洗い出す。
- 本学のUIとなりえる特徴を念頭におき、戦略的にアピールできる「学生を中心とした教育」を考える。
- 戦略的にアピールできる「学生を中心とした教育」の手法を具体的に示す。

(※) アドミッション、ディプロマ、カリキュラムの各ポリシー

# 作業解説

プロダクト作成の作業ステップを例示します  
(いろいろな進め方があると思いますので進め方の一例として参考にしてください)

## <step1>

### 【課題を具体的に定義する】

議論を効率的に進めるには、課題を具体的に定義し、スタート地点をしっかりと共有することで議論がまとまりやすくなります。

## <step2>

### 【アイデアを出し議論する】

グループ内で検討するテーマに対するアイデアを引き出し、議論を活発にします。

ポイントは、

- ・出てきたアイデアを否定しない
- ・傾聴する
- ・議論に参加できないメンバーには話を振る

(アイデアの質は後で検討するのでここでは気にしません)

## <step3>

### 【アイデアを分類し選択する】

出されたアイデアを分類することは、アイデアの良し悪しを議論するよりも効率的になります。

次に、グループのプロダクトとするアイデアを選択します。選択の方法としては、「評価軸<sup>(※)</sup>」を決めて選択していく方法があります。

(※)評価軸:例えば、実行性や効果、かかる費用や時間・・・など

## <step4>

### 【アイデアの詳細を詰めてまとめる】

自由に出されたアイデアは細部が詰められていないので、グループのプロダクトにするために、以下の点を詰めていきます。

- 1.誰が、2.どこで、3.どんな風に、4.誰に対して、
  - 5.どんなタイミングで、6.なぜそれをやるのか
- …いわゆる5W1Hです。

## <step5>

### 【グループ発表】

発表では、以下のポイントを意識します。

- ◇最終的な結論を一言で表現する(40文字以内)
- ◇なぜその方法を選んだのか(理由・基準)
- ◇具体的なアイデアの内容(実行方法・アイデアの詳細)
- ◇アイデアの実行による結果(生じる利益・利点)

## <プロダクトのまとめと発表方法>

■プロダクトの発表資料の作成には、パワーポイント、ワードなどを使用してください。

(プロダクト作成に使用するアプリ等はありません)

■作成したプロダクトは、本研修会終了後、全学FD委員会に提出してください。

提出方法は問いません。

→メールの場合は、fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

→USBメモリなどに保存して提出の場合は、学務部教務企画課/IR課

学生中心とした教育をすすめるために、UIを念頭において、より教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイルを提案してください。

言葉の説明（補足）

## ディプロマ・ポリシー (DP)



### 学位授与方針

◇ディプロマ・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ①学生が身に付けるべき資質目標・能力目標の明確化。
- ②「何ができるようになるか」に対し、卒業認定、学位授与に必要な学修成果を具体的に示す。
- ③策定においては、学生の進路に資するよう社会における顕在・潜在ニーズも十分に踏まえる。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（平成28年3月31日）より

## カリキュラム・ポリシー (CP)



### 教育課程の編成・実施方針

◇カリキュラム・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ①ディプロマ・ポリシー(DP)を踏まえた教育課程の編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価方法等を具体的例示。
- ②能動的学修、大学教育の質的転換に向けた取組の充実。
- ③DPに基づく体系的な教育課程の構築に向けた、初年次教育、教養・専門教育、キャリア教育等、多面的観点から検討。
- ④多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるような観点をもった初年次教育の充実。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（平成28年3月31日）より

## アドミッション・ポリシー (AP)



### 入学者 受入方針

◇アドミッション・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ①各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。
- ②入学者に求める能力は何か。
- ③入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。(どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど)

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室資料（平成27年3月）より

## ユニバーシティ・アイデンティティ

「大学がイメージの統一を図り、その組織の存在を人々に印象付けて組織の内外ともに活性化を図るための行為」

ビジュアル・アイデンティティ (VI) : 大学が社会に送り出すあらゆるもの（研究・教育に関する情報と人、サービス、設備、広告、校章に至るまで）をシンボルやデザインによって統一性や計画的多様性を持たせる

マインド・アイデンティティ (MI) : 新たな教育理念の確認・確立、目標設定、長期的戦略計画の立案、内部資源の再評価・再編成などが行われる

ビヘイビア・アイデンティティ (BI) : 大学の理念、機能、役割を社会に向かって明確に示し、その存在理由を主張し、社会と組織内部の支持と理解を求める

その結果を踏まえた外部への情報発信を中心とするコミュニケーション活動で、実態とイメージの一体化をはかる統合された組織行動

日経広告研究所1994:17-18

## 関連の参考資料

本学の基本方針

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/philosophy/basic-policy>

教育理念・目的・目標

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/philosophy/rinen/>

行動指針

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/philosophy/guideline/>

大学の三方針(ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー)

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

シラバス(学部別にサイトが用意されています)

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/for/student/syllabus/>

学生便覧(学生便覧の後半に北海道医療大学学則が掲載されています)

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/>

学校法人東日本学園 中期計画

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/about/summary/med-term>

入試情報WEBサイト

<https://manavi.hoku-iryu-u.ac.jp/>

オープンキャンパス

<https://sites.google.com/hoku-iryu-u.ac.jp/opencampus202303/spring>

## ワークショップの流れ

12:40-13:00

- ・ワークショップテーマ、プロダクトの解説
- ・ワークショップの進め方、ブレイクアウトルームの説明

13:00-14:50

- ・**ワークショップ**(各グループ)

14:50-15:00 休憩

15:00-15:50

※発表グループ交代等の時間調整含む

- ・**発表、質疑応答**(4グループ10分)

## ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて?



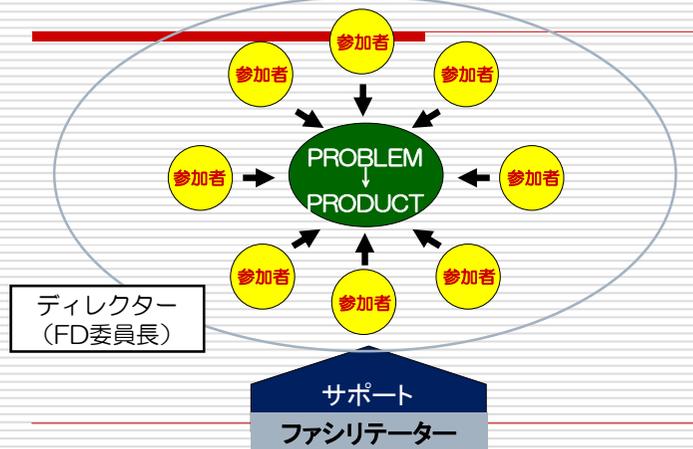
## ワークショップとは?



- ・ 多人数を対象として、**参加者1人1人の参画意識を高める**ために、**小グループ**に分かれて**討論と作業**を行い、**結論**を出していく方式をいう。

- ・ **一定の時間内**にある**成果(プロダクト)**を生み出すという手段をとる。

## ワークショップとは？



## ワークショップの流れ

### 1. プレナリーセッション

全体 : 導入講義・課題の確認



### 2. スモールグループディスカッション (約100分)

グループ別 : 課題について討論・プロダクト作成



### 3. プレゼンテーション (1グループ10分)

グループ別 : 発表・質疑応答



## ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が **Resource Person(主役)**
3. **積極的に建設的、前向きな意見**を述べる
4. **どんな質問・意見でも無意味ではない**  
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった**正解はない**
6. **先生はいない**
7. **時間を守る**





## スモールグループディスカッション

### 1. 参加者の自己紹介(1人1分程度)

(氏名・所属と併せて、時間があれば、私のいち押し、「実は私○○です」, Good&New[24時間以内にあった「良かったこと(Good)」「や」新しい発見(New)"]などを交えた自己紹介も行ってください)



### 2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)



### 3. グループ討論

・発表内容の確認

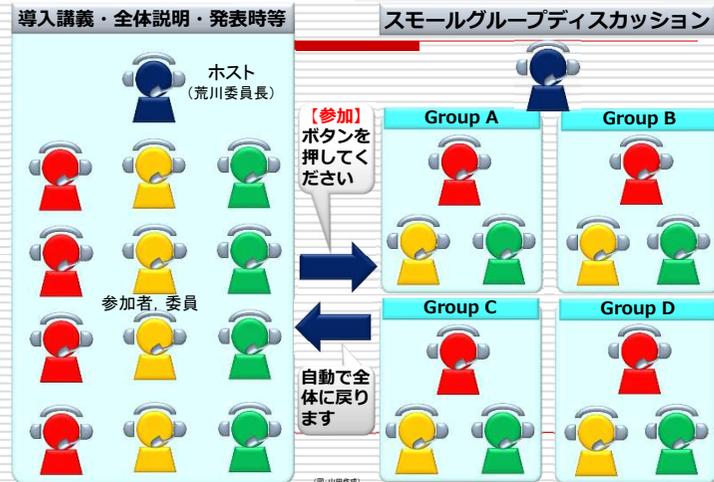
## 役割分担

- 進行 . . . . . [ ]
  - グループ討論時の司会進行を行う。
- 書記・PC入力 . . . [ ]
  - グループ討論時、Zoomで画面共有しながらPC入力(書記)を行う(プロダクト作成)
  - 作成したプロダクトはPC等に保存(終了後提出)。
- 発表者 . . . . . [ ]
  - 全体発表時にグループプロダクトをZoomで画面共有して、発表を行う。
- ファシリテーター (FD委員)
  - グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
  - グループ討論のタイムキーパーも行う。



## Zoomのブレイクアウトルームとは

複数のグループに分割(例示は4グループ)



休憩



グループ発表の開始 : **15:00**

(時間厳守)

**14:58** までにお集まりください。

グループ発表

総 評

(全学FD委員会 委員長)

アンケート



研修の評価

皆さんの感想をお聞かせください  
(上記QRコード又はチャットに送信されたURLを利用してください)

! アンケートの回答をもって終了です!  
お疲れさまでした

## 学長講話

医療系総合大学教員としての使命と目標  
～新医療人育成の北の拠点を目指して～

# 医療系総合大学教員としての使命と目標

新医療人育成の北の拠点を目指して



北海道医療大学 学長  
浅香正博

## 本学の沿革

学校法人東日本学園設立(1974)



2019年度から、医療技術学部として臨床検査学科が設置された。  
これにより北海道医療大学は6学部9学科を有する日本でも有数の規模の医療系大学となった。

歯学部附属歯科衛生士専門学校 (1984)

健康科学研究所 (2002) ※現：先端研究推進センター

大学教育開発センター (2007) ※現：全学教育推進センター

リハビリテーション科学部 (2013)



## 学生数・教員数

(2021年5月1日現在)

| 学部名                | 学生数    | 教員数  | 教員1人あたりの学生数 |
|--------------------|--------|------|-------------|
| 薬学部                | 1,026名 | 67名  | 15.3名       |
| 歯学部                | 426名   | 101名 | 4.2名        |
| 看護福祉学部             | 642名   | 67名  | 9.6名        |
| 心理科学部              | 263名   | 18名  | 14.6名       |
| リハビリテーション科学部       | 821名   | 48名  | 17.1名       |
| 医療技術学部             | 201名   | 18名  | 11.2名       |
| 歯学部附属<br>歯科衛生士専門学校 | 72名    | 5名   |             |

●教員1人あたりの学生数 10.7名

全国私立大学  
教員一人当たり  
学部学生数  
平均19.4名  
(2021学基本調査)

※歯学部附属歯科衛生士専門学校の学生数・教員数はリハビリテーション科学部にて算出

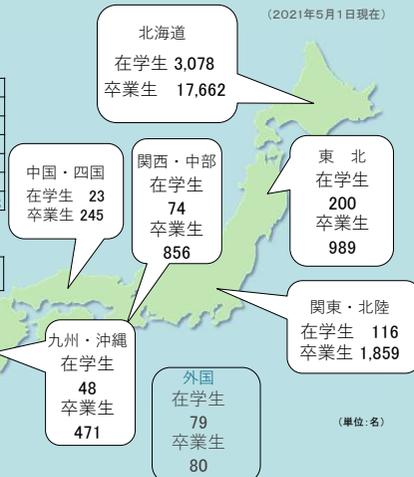
## 在学生・卒業生の出身地分布

(2021年5月1日現在)

| 学部           | 在学生   | 卒業生    |
|--------------|-------|--------|
| 薬学部          | 1,002 | 6,180  |
| 歯学部          | 426   | 3,370  |
| 看護福祉学部       | 642   | 5,162  |
| 心理科学部        | 263   | 1,786  |
| リハビリテーション科学部 | 821   | 734    |
| 医療技術学部       | 201   | -      |
| 計            | 3,379 | 17,232 |

| 大学院 | 在学生 | 修了生   |
|-----|-----|-------|
| 計   | 167 | 1,543 |

| 専門学校          | 在学生 | 卒業生   |
|---------------|-----|-------|
| 歯科衛生士科        | 72  | 1,615 |
| 看護学科          | -   | 470   |
| 介護福祉学科        | -   | 866   |
| 言語聴覚士療法(専攻)学科 | -   | 436   |
| 計             | 72  | 3,367 |



## 本学の国家試験合格率（2021年度）



## 本学における学生教育への対応

- 1 教育の質の向上と、教育内容・方法の充実  
2007年4月 大学教育の総合的検討・立案・実行する「大学教育開発センター」設置  
2019年4月より、**全学教育推進センター**に名称変更
- 2 教員の自己評価と学生の評価  
教員評価制度(2007年から実施)と評価結果の利用  
学生による授業アンケート(1993年度から実施)
- 3 充実した学生生活の確保  
Student Campus Presidents (SCP)の導入(2008年度から実施)

## 北海道医療大学教育の3方針

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。
2. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」からなる学士課程教育を組んでいる。

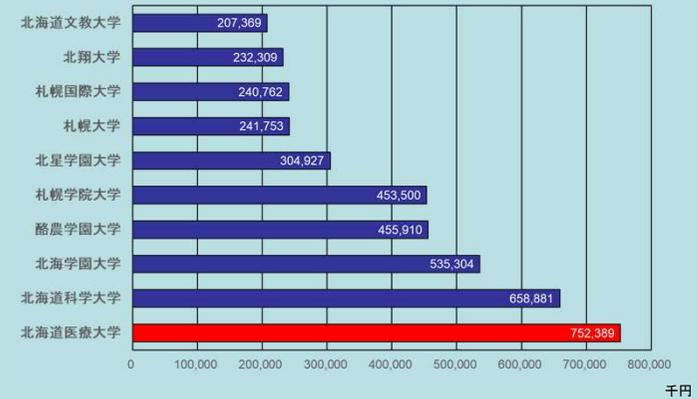
### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

各学部・学科の教育理念・目標に沿った学士課程の授業科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識を身につけ、かつ各学部が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与する。

## 大学経費の問題

- ・ ヨーロッパの高等教育機関はほとんどが国公(州)立
- ・ アメリカでも約75%が州立
- ・ 日本は80%が私立(世界の中で特異)であり学納金への依存性が先進諸国のなかで例外的に高い
- ・ 学納金に見合った大学側の対応が必要(学生中心の教育)
- ・ **私立大学の収入の大半は授業料であることを忘れてはいけない。**
- ・ 国から配分される運営費交付金は10億円に満たない。
- ・ **国立大学は、東大810億円、京都大541億円、北海道大363億円と桁違いに多い。北海道教育大は65億円、旭川医大でも54億円給付されている。**

## 道内私立大学経常費補助金 (令和3年度)



## 安定した経営を維持するためには

- ・ 授業料収入の増加または安定化が第一。
- ・ そのためには、定員割れがあってはいけない。
- ・ 定員割れをなくすためには多くの人を受験してくれなくてはならない。
- ・ 多くの人を受験してくれるためには、魅力的な大学にしなければいけない。
- ・ 北海道からのみ学生が受験してくれるだけではなく、全国から来てくれるのが理想である。
- ・ 魅力的な大学にするために何をすべきかを教員の方々は考えてほしい。

## 国家試験の合格率を上げる

- ・ 入り口対策
  - 入試の際、優秀な学生を集める。
  - 医療大学のブランド性を上昇させる。
  - 国試の合格率が高い。
  - 特別な教育体制を構築する。
  - 北海道だけでなく、全国から受験生を集める。
- ・ 出口対策
  - 国試対策をきめ細かく行う。短期間合宿など。
  - 優秀大学の教育システムを学び応用する。
  - 魅力的な授業を行う。

## 進学目的・入学後の学習意欲

### 進学動機

|                 |            |
|-----------------|------------|
| <b>将来目標型</b>    | <b>48%</b> |
| 一般教養を身につけたい     | 11%        |
| 専門知識を学びたい       | 57%        |
| 学問・研究による真理探究    | 19%        |
| <b>近未来目標型</b>   | <b>35%</b> |
| 資格免許取得、就職に有利    | 51%        |
| 学歴              | 12%        |
| <b>楽しみ・無目的型</b> | <b>18%</b> |
| とくに目的はない        | 12%        |
| 青春をエンジョイ        | 12%        |
| スポーツ・文化活動       | 4%         |
| 友人を得る           | 4%         |

### 大学に入って学習意欲が高まったか？

|          |     |
|----------|-----|
| 高まった     | 13% |
| かなり高まった  | 3%  |
| 低くなった    | 37% |
| かなり低くなった | 21% |
| わからない    | 26% |

## 健康にとっての運動の意義

Heller教授: ニューヨーク大学メディカルセンター

ヒトの骨や筋肉は不規則な変わった形をしており、この筋骨格の構造から **人体は動くためにできている** ことがわかる。

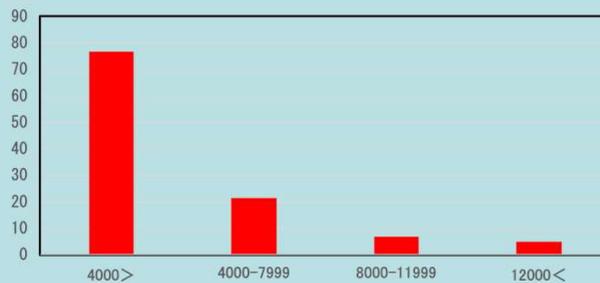


- ・ 有酸素運動は免疫系を刺激する。
- ・ 精神機能を向上させる。
- ・ 筋肉や骨を強化する。
- ・ 心疾患、がん、糖尿病などの慢性疾患リスクを低減する。

## 1日の歩数と死亡リスク

JAMA 2020 323:1151

1年に1000人あたりの全死因死亡率



## 最も平均余命を延ばすスポーツは？

デンマークで行われた大規模研究 Mayo Clin Proc 2018  
運動をしない人とする人の比較を8577人を対象として25年間にわたって行った。

- ・ スポーツによって延びた平均余命の年数
1. **テニス** 9.7年
  2. バドミントン 6.2年
  3. サッカー 4.7年
  4. サイクリング 3.7年
  5. スイミング 3.4年
  6. ジョギング 3.2年
  7. ジムでのエクササイズ 1.5年

## 健康な生活習慣とは？

JAMA Oncology 2016

1. 喫煙をしない。
2. 飲酒習慣がないか適度の飲酒
3. BMIは18.5～27.5(170cmで53-80kg)
4. 激しい運動(無酸素運動)を週に75分以上  
中程度の運動(有酸素運動)を週に150分以上

これら4項目をすべて満足することが健康な生活習慣と考えられる。

## 健康になれる生活習慣とは？

- ・ 運動は必須であり、食事はバランスよく取る必要がある。
- ・ 食事は白米は取り過ぎないこと、野菜、果物を多く取る必要がある。
- ・ 赤い肉類を取り過ぎない。
- ・ タバコは吸わない。アルコールは適量を守る。
- ・ 太りすぎない。やせすぎない。

## コロナウイルスとは？

- ・ あらゆる動物に感染するコロナウイルス科のウイルス。
- ・ これまで6種類が存在した。今回のコロナウイルスは7種類目の新種である。
- ・ 5番目がSARS, 6番目がMERSウイルスである。
- ・ 10-15%の風邪の原因とされている。多くの場合、軽症でおさまる。
- ・ 新型コロナウイルスは新たなタイプのウイルスで感染速度や致死率などがわかっていない。

## 新型コロナウイルスの発生状況

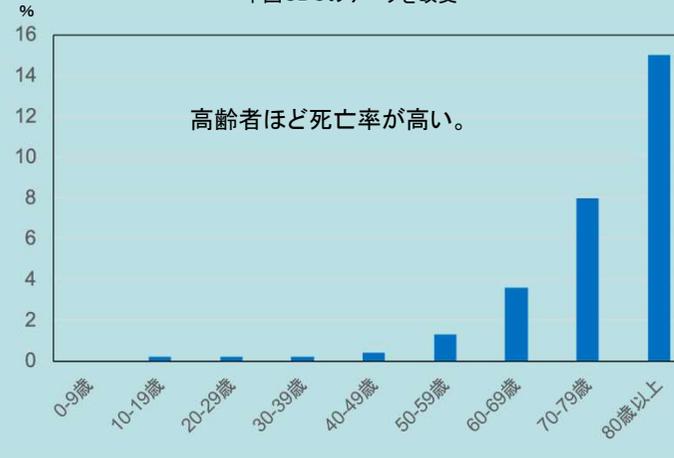
- ・ 2019年12月12日、中国の武漢で最初の感染者が診断された。
- ・ 2020年1月5日、感染者59名うち重症者7名。
- ・ 1月16日、日本で初の感染者。
- ・ 1月20日、習近平国家主席が重要指示。
- ・ 1月23日、武漢を封鎖。571名感染、10名死亡。
- ・ 1月28日、日本政府が感染症法の指定感染症に指定した。

## コロナウイルス感染の経過

- 2020年2月28日、**北海道が緊急事態宣言**。
- 同日、北海道医療大学は3月から全学生の講義を休講、卒業式、入学式の中止を決定。
- 3月4日、日本の感染者が1000人を超えた。
- 3月24日、WHOがCOVID-19を**パンデミック指定**。
- 3月24日、2020年開催予定の東京オリンピックの延期が決定。
- **4月8日、日本で緊急事態宣言**
  
- 2021年、3月25日、世界で1億3千万人が感染、275万人が死亡。日本では46万人が感染、9000人が死亡。

## 新型コロナウイルス感染症の年齢別致死率

中国CDCのデータを改変



## コロナウイルスの臨床的特徴

- 呼吸器の感染が主体。肺炎を起こしやすい。
- 飛沫感染、接触感染が大半。
- 潜伏期は平均約5日、最長14日程度。
- 遷延する発熱が特徴。咳、筋肉痛、頭痛、味覚、嗅覚障害。
- 重症例は高齢者に多く見られる。
- 重症例は高血圧、糖尿病、心疾患、ぜんそく、透析など合併症を有する人に多く見られる。

## コロナウイルス感染症の診断

- 臨床的診断  
臨床症状：発熱、咳、倦怠感；特異的ではない  
胸部写真では診断しにくい。  
胸部CTで淡い病変が見られる。
- PCR法  
世界的に最も良く行われている。  
偽陰性がしばしば見られる。
- 抗体測定法  
これからのコロナウイルス感染診断の主流になる。  
IgG抗体で既感染をチェックできる。中和抗体。

## コロナウイルス感染症の予防

- 飛沫感染と接触感染が主体。
- 3密;密閉、密集、密接を避ける。カラオケが最悪。
- 飛沫は2m離れると感染しない。
- 部屋の湿度を上げすぎない。
- 体外へ出ると3時間くらいで死滅する。
- プラスティック表面で3日、痰や糞便で5日、尿中では10日も生存する。
- 手指の消毒、流水による手洗いが重要。

## コロナウイルス感染症の予防

- アルコール消毒は有効: エンベロープウイルスのため確実な効果あり。
- マスクは感染防護にあまり有効ではない。
- 感染者が他人に感染させないために有効。
- 咳エチケットを守る。



## 基本的な感染予防、健康管理

～「もちこまない」「ひろげない」ための対策～

- ✓ 新型コロナウイルス感染症は、発症する2日前から感染力があります。
- ✓ 体調の良し悪しによらずマスク、手指衛生の実施が重要です。
- ✓ 健康管理による対策は、「もちこまない」「ひろげない」対策として、現実的で継続可能な対策と考えられます。
- ✓ 本対応の継続によって、公欠者が今後も一定数発生し学習計画に支障がでる可能性はあるが、運用に理解をお願いします。

## 臨床実習等に関わる対応

- 臨床実習を行う学生、教員を対象として2020年8月より新型コロナウイルス唾液PCR検査を実施した。
- 歯学部 of 植原講師のグループによる献身的貢献。

約1000例に実施したが、陽性例はなし。

- 臨床実習等に関わる感染対策は、各学部で学習内容が様々であることから、各学部毎に指針を作成する。
- 作成した指針は感染対策委員会で審議承認されてから運用する。

### 新型コロナウイルス感染の経過

- 2020年、2月28日、北海道が緊急事態宣言。
- 同日、北海道医療大学は3月から全学生の講義を休講、卒業式、入学式の中止を決定。
- 3月24日、WHOがCOVID-19をパンデミック指定。
- 3月24日、2020年開催予定の東京オリンピックの延期が決定。
- 欧米各国で非常事態宣言。米国で39万人が感染。
- 4月8日、日本で緊急事態宣言
- 5月の連休明けより、北海道医療大学はオンライン授業を開始した。
- 医療大学生一人につき、5万円の自宅学修支援金の給付を行った。

### 新型コロナウイルス感染症への北海道医療大学の取り組み

- オンライン授業を主体にして講義を行った。
- 通学の際、全員がマスクをする。
- 感染を起こしやすい場所は、通学電車内、講義室、食堂である。ここで3密を避ける。
- 唾液飛沫が感染源として重要なので、電車内で会話を避ける。大声を出さない。
- 医療大学学生は感染に注意するだけでなく、自分が感染源になる可能性があることを常に自覚し行動してほしい。

### 新型コロナウイルスワクチン接種への北海道医療大学の取り組み

- ワクチン職域接種に即手を上げた。
- わが国で最も早く10月21日より学生、教職員とその家族に対してワクチン接種を開始した。
- 打ち手として歯科医師を90人確保できた。
- 医師、歯科医師、看護師、薬剤師など北海道医療大学の保有する人材を駆使することで問題なく9月29日に終了した。
- 学生、教職員を合わせてほぼ90%の摂取率であった。

Health Sciences University of Hokkaido

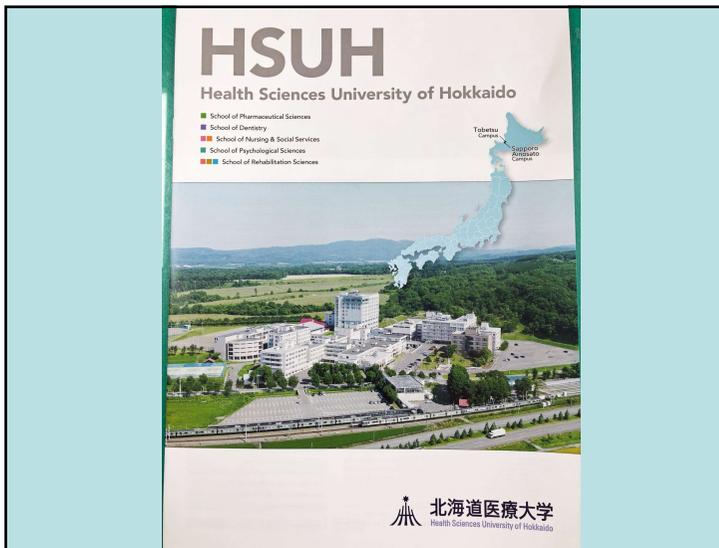
コロナワクチンの職域接種をいち早く実施

医師による問診

北海道医療大学における多職種連携の実践の場であった

看護師や歯科医師による接種

接種後の経過観察



## 学生に健康を守ることの大切さを教える

- 医療人になるためには健康の重要性をしっかりと認識する必要がある。そうでなければ他人の健康を守ることはできない。
- 学生生活を健康に過ごせるよういくつかのアドバイスが必要。
- バランスの取れた食生活、適度な運動、十分な睡眠が重要。
- 喫煙は絶対に止めよう。



## 教職員の健康を守るために

- 北海道医療大学の保健センターは教職員の健康を守ります。
- 月曜日から金曜日まで毎日内科の医師が診療しています。
- 水曜日は心の健康についての診療を受けることができます。
- けがや骨折にも対応できます。
- 入院が必要な場合はすぐ対応できます。
- これだけの機能を持った保健センターは北海道医療大学のみです。



## レクチャー

当大学の理念・目標・方針に基づく授業  
～基本的な確認事項について～



## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

2

## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

3

### 建学の理念：

「知育・徳育・体育の三位一体による医療人としての全人格の完成」

**教育理念：**「**生命の尊重**と**個人の尊厳**を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献する。」

### 教育目標

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
2. 確かな専門の知識および技術の修得
3. 自主性・創造性および協調性の確立
4. 地域社会ならびに国際社会への貢献

**行動指針：**「**学生中心の教育**」ならびに「**患者中心の医療**」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築を追究すること」。

4

### 求められる教員像、教員組織（抜粋）

自主性・創造性に優れ、「**学生中心の教育**」と「**患者中心の医療**」を担う教育・研究能力を有し、地域・国際社会への貢献が可能な人材。

1. 「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」の適切なバランスと連携を図ることが可能な適正な教員数を配置。
2. 専門分野及び関連領域の研究とその研究成果を学生教育や国内外の社会へ還元するために必要な教員を配置。  
（女性33%、若手25%、外国人4%、研究補助者6%以上が目標）
3. 学生への修学支援、生活支援、進路支援に関する指導・助言を適切に行うために必要な教員組織を整備。
4. 教員の募集・採用・昇任は、透明性、公平性を担保しつつ、公募制に加え推薦制による候補者選考も可能。
5. 必要な役割分担と責任の所在を明確に定めた組織体制を整備。
6. 教育・研究・社会貢献を常に念頭に置き、質の高い教育と優れた研究成果を生むため、FD活動を組織的かつ継続的に取り組む。

5

### 北海道医療大学 三方針（抜粋）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけた学生

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「保健と医療と福祉の連携・統合」を基本として、確かな知識と技術、深い教養と豊かな人間性を持ち、広く社会に貢献できる専門職業人の養成に向けた教育課程を編成

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学卒業には全学共通基盤の知識・技術・態度が必要となるばかりではなく高度な専門性の修得が要求される。そのため、各学部学科では学位授与の方針の要件をより効果的に達成しうる資質を持った人材を受け入れる

6

## 本日のレクチャーの内容

- （1）本学の教育理念
- （2）本学が力を入れる教育成果
- （3）授業を行うにあたって
- （4）Google formの使い方
- （5）授業の成績評価について
- （6）著作権について
- （7）私学共済ハンドブックについて
- （8）当別キャンパスでの気分転換

7

## 本学が特に力を入れる教育成果

- ・ **国家試験**受験者の高い**合格率**
- ・ 保健・医療・福祉領域で（指導的）専門家に求められる資質として  
→ **多職種連携**に関する教育の推進・充実

8

### 各学部国家試験合格率（2022年度）

| 名称 | 区分      | 回   | 受験者（名） | 新卒者    |        |           |
|----|---------|-----|--------|--------|--------|-----------|
|    |         |     |        | 合格者（名） | 合格率（%） | 国公立合格率（%） |
|    | 薬剤師     | 108 | 102    | 91     | 89.2   | 84.9      |
|    | 歯科医師    | 116 | 55     | 39     | 70.9   | 77.3      |
|    | 看護師     | 112 | 113    | 113    | 100.0  | 95.5      |
|    | 保健師     | 109 | 11     | 11     | 100.0  | 96.8      |
|    | 社会福祉士   | 35  | 36     | 22     | 61.1   | 65.0      |
|    | 精神保健福祉士 | 25  | 13     | 10     | 76.9   | 78.8      |
|    | 介護福祉士   | 35  | 3      | 3      | 100.0  | 84.3      |
|    | 理学療法士   | 58  | 83     | 83     | 100.0  | 94.9      |
|    | 作業療法士   | 58  | 34     | 32     | 94.1   | 91.3      |
|    | 言語聴覚士   | 25  | 52     | 45     | 86.5   | 86.8      |
|    | 公認心理師   | 5   | 11     | 9      | 81.8   | 48.3      |
|    | 臨床検査技師  | 69  | 56     | 54     | 96.4   | 89.5      |
|    | 歯科衛生士   | 32  | 26     | 24     | 92.3   | 93.0      |

### 北海道医療大学における多職種連携教育

| 薬学部            | 歯学部             | 看護福祉学部     | 心理科学部      | リハビリテーション科学部 | 医療技術学部                             |
|----------------|-----------------|------------|------------|--------------|------------------------------------|
| 多職種連携入門        |                 |            |            |              |                                    |
|                | 多職種連携論          |            | 多職種連携論     |              | チーム医療・コミュニケーション演習<br>医療リスクマネジメント演習 |
| 全学連携地域包括ケア実践演習 |                 |            |            |              |                                    |
|                | 医薬品の科学          |            |            | 薬理学          | 薬理学                                |
|                |                 |            |            | 解剖学実習        |                                    |
|                |                 |            |            | 歯科学総論        |                                    |
| 看護実践学          | 看護福祉概論          |            | 国際福祉経済論    | 地域包括ケア論      | 保健医療福祉演習                           |
| 医療福祉活動演習       | 医療人間学演習         |            | ソーシャルワーク概論 |              |                                    |
| 地域医療学          |                 |            | 地域医療政策論    |              |                                    |
|                | 医療行動科学          | 臨床心理学      |            | 臨床心理学        |                                    |
|                | リハビリテーション科学概論   | リハビリテーション法 |            |              |                                    |
| フィジカルアセスメント    | その他の隣接医学（臨床検査学） |            |            |              |                                    |

※表は一部のみ抜粋

10

**国試合格率を上げて  
ライバル校に差をつけろ！**

11

**研究面ではどうなんだろう？**

12

Search query: (Health Sciences University of Hokkaido[Affiliation]) AND ("2020"[Date - Publication])

Results: 430 results

Showing results for (health sciences university of hokkaido[Affiliation]) AND ("2020"[Date - Publication]) ; "2023"[Date - Publication])

Your search for (Health Sciences University of Hokkaido[Affiliation]) AND ("2020"[Date - Publication]) ; "2023"[Date - Publication]) retrieved no results.

1 Allergenicity and Bioavailability of Nickel Nanoparticles Compared to Nickel Microparticles in Mice.  
Cite Tsuchida D, Matsuki Y, Tsuchida J, Iijima M, Tanaka M.  
Materials (Basel). 2023 Feb 23;16(5):1834. doi: 10.3390/ma16051834.  
Share PMID: 36902949 Free PMC article.

Search query: (Hokkaido University of Science[Affiliation]) AND ("2020"[Date - Publication])

Results: 173 results

RESULTS BY YEAR

1 Adenosine monophosphate deaminase in the endoplasmic reticulum-mitochondria interface promotes mitochondrial Ca<sup>2+</sup> overload in type 2 diabetes rat hearts.  
Cite Osanami A, Sato T, Toda Y, Shimizu M, Kuno A, Kouzu H, Yano T, Ohwada W, Ogawa T, Miura T, Tanno M.  
J Diabetes Investig. 2023 Feb 23. doi: 10.1111/jdi.13982. Online ahead of print.  
Share PMID: 36815317 Free article.

2 Downregulation of extramitochondrial BCKDH and its uncoupling from AMP deaminase in type 2 diabetic OLETF rat hearts.  
Cite Ogawa T, Kouzu H, Osanami A, Tatekoshi Y, Sato T, Kuno A, Fujita Y, Ino S, Shimizu M, Toda Y, Ohwada W, Yano T, Tanno M, Mihi T, Miura T.  
Physiol Rep. 2023 Feb;11(4):e15608. doi: 10.14814/phy2.15608.  
Share PMID: 36802195 Free PMC article.

Search query: (Japan Healthcare University[Affiliation]) AND ("2020"[Date - Publication])

Results: 6 results

RESULTS BY YEAR

1 [Insulin-derived amyloidosis (insulin ball) and skin-related complications of insulin therapy].  
Cite Nagase T, Inoya K, Zako T, Kikuchi M, Katsura Y.  
Nihon Yakurigaku Zasshi. 2023;158(2):173-177. doi: 10.1254/fjy.22109.  
Share PMID: 36858501 Japanese.

2 Do Tapping and Massaging during Tourniquet Application Promote Dilatation of Forearm Cutaneous Veins? A Pilot Quasi-Experimental Study.  
Cite Yasuda K, Okada K, Sugimura N, Yano R.  
Healthcare (Basel). 2023 Feb 10;11(4):522. doi: 10.3390/healthcare11040522.  
Share PMID: 36833056 Free PMC article.

3 Promotion of Parenting and Mental Health Needs among Chinese Women Living in Japan: A Qualitative Study.

研究業績ではライバル校を圧倒的に凌駕している

この調子で研究業績を上げてライバル校に圧倒的な差をつければ道内No.1私大の地位を守っていける

17

## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

18

### 授業を行うにあたって

#### 授業準備

| 問い合わせ先           | 内容  |
|------------------|---|
| 各学部・学科<br>教務担当教員 | 授業資料の印刷、場所<br>周知 (manaba等教育プラットフォーム、<br>Google ; Classroom) |
| 各学部教務課           | 講義室の予約、鍵、使い方  |
|                  | 座席表、出席カード、カードリーダー   |
|                  | 学生へ連絡 (i-portal)  |

19

### 教室に備え付けられているもの

- ・黒板、パソコン・スクリーン → 板書授業でもスライド授業でも対応可能  
ただし、パソコン、スクリーン、暗幕の操作が操作机にすべてある教室とスクリーン、暗幕のスイッチが異なる場所にある教室がある
- ・OHP、DVDプレーヤー、VGA端子、HDMI端子  
→部屋によってあるなしがある
- ・自分のパソコンをつなげることも可能である。  
USBメモリを持参する方が問題が少ない  
→特にオンライン授業時

\* 教室によって装備品が異なります。  
各教室について、事前チェックと動作確認をしてください。

20

## 授業形態と特徴（対面授業）

### 板書授業

- ・学生はノートを取りながら行うので授業に集中できる
- ・ノートをとるのが遅い学生がいるので、進行が遅くなる
- ・字が汚い、読めない、板書だけで理解できないなど時に苦情が出る
- ・事前に板書計画を立てておくと学生が理解しやすくなる

### スライド授業

- ・予定通り授業が進行できる
- ・授業の進行が速くなりがち。学生の理解が追いつきにくい
- ・ハンドアウトを渡す必要がある。渡さないと何も残らない
- ・ハンドアウトを渡すと、ノートをとらず授業に集中しない学生がでる
- ・穴あき（カッコ内埋型）ハンドアウトを配付するなどの工夫が必要である

学生からは、授業のまとめ（確認テスト）が欲しいという意見がある。その時々々のノート記載、内容理解に精一杯になっている可能性がある。

21

## 授業形態と特徴（オンライン授業）

（教員と学生の双方向性の確保をお願いします）

### <Zoom型授業；オンライン会議システムを利用したライブ授業>

- ・対面授業に近い形で授業ができる
- ・チャットを利用することで、双方向性が確保されやすい
- ・ネット環境の影響を受けやすく、内容が理解しづらい学生がでる
- ・授業中ネット不具合を理由に後日視聴申請学生がでる

### <オンデマンド型授業；スライド、動画などをサーバに置き、e-learningシステムなどにより随時配信する授業方式>

- ・ネット環境の影響を受けにくい
- ・時間を気にせず、何度も受講が可能である
- ・双方向性の確保を考える必要がある
- ・受講が後回しになって受講していないコマがたまる学生が出る

Zoom授業解説が、大学のGoogle Drive共有フォルダ内にあります。USBメモリからスライドショー提示にすると動作が重くなるので、デスクトップにいったんアップすることをお勧めします。

22

## 遠隔授業の要件

1. 設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導
2. 学生等の意見の公開の機会

平成13年文部科学省告示第51号第2号規定  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/07091103.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103.htm)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm)

### 学生等の意見交換の公開の機会の確保

- ・掲示板などを設け、学生が書き込めるようにするなどする。
- ・同時双方向型の授業内で自由な発言時間を設定する

### Zoom型授業（注意：Zoomの録画授業はオンデマンド型授業になります）

- ・授業中に1、2を実施し、面接授業に相当する教育効果が担保できればよい。
- ・従来型授業とほぼ同じ授業の進め方で実現可能である。
- ・教員+参加学生全員が授業の意見交換ができる時間を設ける。  
（従来授業では挙手による質問が随時可能であることに対応）

### オンデマンド型

- ・授業終了後すみやかに1、2を実施（毎回の授業実施に併せて）
- ・動画視聴などと設問解答を組合せて行うことで意見交換が可能である。
- ・LMS（Google Classroomなど）などで意見交換ができる場を設ける。

23

## 授業で気をつけたいポイント

- ・集中して話を聞ける時間は、**10～15分**。長くても30分間と思い。5分、10分、15分等と、予め講義内容をモジュール化の準備をする
- ・動（書く、解く、作業する）と静（見る、聞く、考える）を組み合わせる  
→質問、確認テスト、動画、新情報など新しさと変化が注意・集中力に有効
- ・脳を適度に活性化させたり、休ましたりする  
→**雑談や教員自身のエピソード**は、寝ている学生もなぜか起きる
- ・**物理的な筋・関節ストレッチ**などの動作も気分転換（リフレッシュ）として、効果的

24

経験から毎回の授業毎に国試問題を解かせてみると、講義の内容と国試問題の関係を実感してもらえ

25

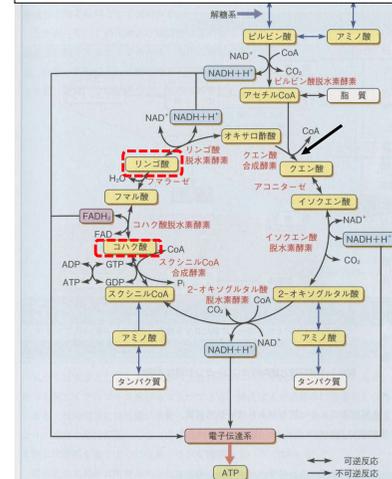
TCA回路に含まれる化合物はどれか。  
2つ選べ

- 1) リンゴ酸
- 2) ピルビン酸
- 3) 乳酸
- 4) アスパラギン酸
- 5) コハク酸

TCA回路に含まれる化合物はどれか。  
2つ選べ

- 1) リンゴ酸
- 2) ピルビン酸
- 3) 乳酸
- 4) アスパラギン酸
- 5) コハク酸

好氣的解糖によりクエン酸回路でグルコースが完全酸化



- ビルビン酸からクエン酸回路を一周するとグルコース由来の炭素はすべて二酸化炭素へ
- 4分子のNADHが合成
- 1分子のFADH<sub>2</sub>が合成
- 1分子のGTP (ATP)が合成

臨床生化学 (MCメディア出版)

### クエン酸回路の中間代謝産物

『クエン酸急いで蹴とばし、すぐに怖くなり踏まれたリンゴ置き去りに』

クエン酸 : (クエン酸)  
 急いで : (イソクエン酸)  
 蹴とばし : ( $\alpha$ -ケトグルタル酸)  
 すぐに : (サクシニルCoA)  
 怖くなり : (コハク酸)  
 踏まれた : (フマル酸)  
 リンゴ : (リンゴ酸)  
 置き去りに : (オキサロ酢酸)

『オクイアサコ不倫』

オ : オキサロ酢酸  
 ク : クエン酸  
 イ : イソクエン酸  
 ア :  $\alpha$ -ケトグルタル酸  
 サ : サクシニルCoA  
 コ : コハク酸  
 不 : フマル酸  
 倫 : リンゴ酸

Michaelis-Mentenの式は下記のように表されるが、  
 基質濃度をKm濃度の3倍で用いたとき、その反応速度は最大反応速度Vmaxの何%になるか

$$v = \frac{V_{max} \cdot [S]}{K_m + [S]}$$

- 1) 50%
- 2) 60%
- 3) 75%
- 4) 80%
- 5) 100%

Michaelis-Mentenの式は下記のように表されるが、  
 基質濃度をKm濃度の3倍で用いたとき、その反応速度は最大反応速度Vmaxの何%になるか

$$v = \frac{V_{max} \cdot [S]}{K_m + [S]}$$

- 1) 50%
- 2) 60%
- 3) 75%
- 4) 80%
- 5) 100%

Michaelis-MentenのKmに1、[S]に3を代入するとv/Vmaxは3/4となり、反応速度はVmaxの75%となる

$$v = V_{max} \cdot 3 / 1 + 3 = 3 / 4 \cdot V_{max} = 0.75 \cdot V_{max}$$

単純計算なので、慌てるな！！

1回の講義で国試問題を5問ほど紹介しているので年間30回の講義だと150問ほど紹介することになる

試験に出題する場合は5択だとウルおぼえでも正解できるので、選択肢をバラバラにして○×で解かせた方が正確に覚える

### 出欠席（担当教員は注意・関心を払う必要があります）

出席率70%以上。15回授業で**5回**以上の欠席は失格。  
 学部、科目によって違いがあります。  
 →毎週欠席者報告、あるいは3回以上で報告、定期試験前に報告などがある。  
 いずれの場合も、必ず**出欠席確認等の管理**を行う必要がある。  
 学生から欠席回数について、疑義申し立てられる場合もある。

対面講義出欠確認方法：点呼、カードリーダー、出席カード、座席表、確認テスト、リアクションペーパー

#### オンライン授業での出欠席確認法

Google Formによる確認テストを利用する方法が多いようです。  
 Google Drive内にGoogle Formの様式があります。

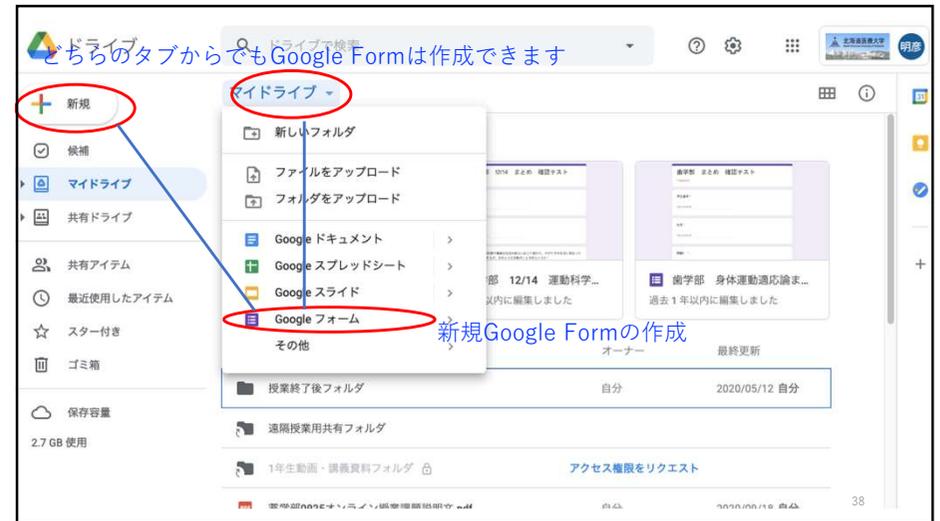
#### Google Formのアクセス方法

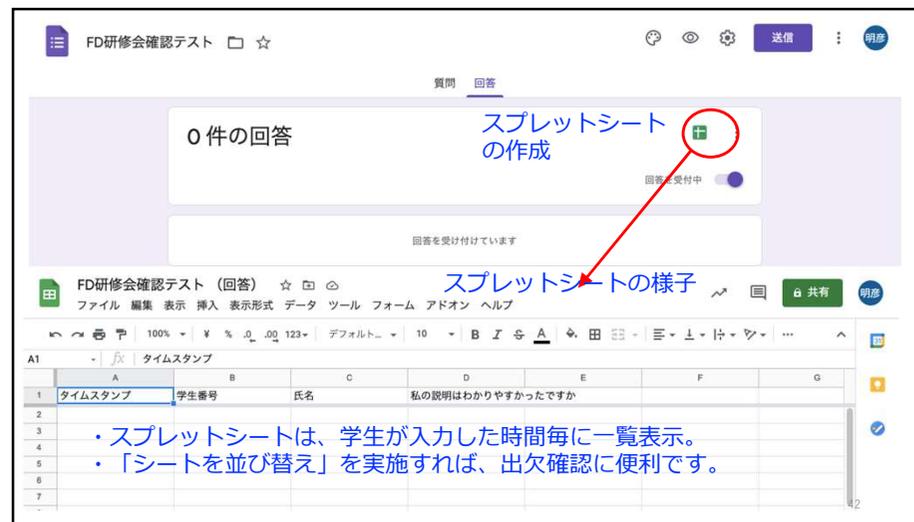
- ・作成したGoogle FormのURLをチャットに貼付、全員に送信。
- ・作成したGoogle FormのURLからQRコードを作成し、スライドに提示。  
 QRコード作成の無料サイト例：<<https://www.cman.jp/QRcode/>>

## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

The image shows two overlapping web pages. The background page is the Google Drive login page, with a red circle around the 'ログイン' (Login) button and a red arrow pointing to the 'メールアドレス' (Email address) input field. The foreground page is the Hokkaido Medical University login page, with a blue circle around the 'ログイン' button and a blue arrow pointing to the 'IDとパスワード' (ID and Password) input fields. Text annotations include 'Google Driveと Google Form' at the top, '北海道医療大学のメールアドレス' (Hokkaido Medical University's email address) next to the red arrow, and '北海道医療大学のIDとパスワードを入力' (Enter Hokkaido Medical University's ID and password) next to the blue arrow.





○月○日出欠確認 (回答) ☆ スプレッドシートの様子

|    | A                   | B                        | C      | D   | E            |
|----|---------------------|--------------------------|--------|-----|--------------|
| 1  | タイムスタンプ             | メールアドレス                  | 学籍番号   | 名前  | 本日の授業はどうでしたか |
| 2  | 2020/04/24 10:29:06 | aaaaa@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A002 | 山田  | 5            |
| 3  | 2020/04/24 10:29:24 | zzzzz@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A004 | 鈴木  | 4            |
| 4  | 2020/04/24 10:29:39 | xxxxx@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A005 | 高橋  | 1            |
| 5  | 2020/04/24 10:30:00 | ccccc@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A001 | 田中  | 5            |
| 6  | 2020/04/24 10:30:21 | vvvvv@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A009 | 佐々木 | 3            |
| 7  | 2020/04/24 10:30:45 | bbbbbb@hoku-iryu-u.ac.jp | 10A008 | 小林  | 4            |
| 8  | 2020/04/24 10:31:03 | sssss@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A007 | 斉藤  | 2            |
| 9  | 2020/04/24 10:31:34 | dddddd@hoku-iryu-u.ac.jp | 10A012 | 加藤  | 4            |
| 10 | 2020/04/24 10:31:50 | ggggg@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A015 | 伊藤  | 3            |
| 11 | 2020/04/24 10:32:47 | hhhhh@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A018 | 伊藤  | 5            |
| 12 | 2020/04/24 10:33:04 | nnnnn@hoku-iryu-u.ac.jp  | 10A013 | 青木  | 5            |

- ## 本日のレクチャーの内容
- (1) 本学の教育理念
  - (2) 本学が力を入れる教育成果
  - (3) 授業を行うにあたって
  - (4) Google formの使い方
  - (5) 授業の成績評価について
  - (6) 著作権について
  - (7) 私学共済ハンドブックについて
  - (8) 当別キャンパスでの気分転換

## 成績評価（学生側から疑義申し立てができます）

評価方法：筆記試験（小テスト、定期テスト）、レポート、授業態度

評価基準（各評価法の割合）のシラバス明示

論述問題やレポート採点での客観的評価手法

- ・ルーブリック方法：学習の達成度を表を用いて測定する評価方法
- ・チェックシート方法

45

## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

46

## 注意事項

**感染対策**：使用した機器消毒、授業時の換気、3密の回避を徹底する。

### 著作権法への抵触

<条文>（改正著作権法第35条運用指針）

学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信（自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。）を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

<https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin2020.pdf><sub>47</sub>

## 著作権法に関する解説

- ・教員が授業に参加する学生のみ閲覧可能な場合は、教育的配慮により、授業資料への複製（転載）、配信が可能である
- ・必要と認められる限度は、クラス単位、授業単位である
- ・授業に用いる場合でも、受講生以外がオンライン上で閲覧できる状況（URLの流出を含む）は著作権法に抵触する
- ・著作権法に抵触する場合は、著作権者に使用に関する許諾を得なければならない
- ・授業資料の2次使用（公衆配信）は著作権法に抵触する（学生などがSNSにアップしないよう授業資料に2次使用禁止を明記）

**\* 本授業資料は当該学生に対する教育資料としてのみ使用するものであり、使用目的外の利用、第三者の転載・転用、公開、移譲を固く禁じます。**

48

### ①「複製」

手書き、キーボード入力、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、既存の著作物の一部又は全部を有形的に複製することをいいます（著作権法第2条1項15号。著作物だけでなく、実演、レコード、放送・有線放送の利用についても同様です）。

該当する例

- ・ 黒板への文学作品の板書
- ・ ノートへの文学作品の書き込み
- ・ 画用紙への絵画の模写
- ・ 紙粘土による彫刻の模造
- ・ コピー機を用いて紙に印刷された著作物を別の紙へコピー
- ・ コピー機を用いて紙に印刷された著作物をスキャンして変換したPDFファイルの記録メディアへの保存
- ・ キーボード等を用いて著作物を入力したファイルのパソコンやスマホへの保存
- ・ パソコン等に保存された著作物のファイルのUSBメモリへの保存
- ・ 著作物のファイルのサーバーへのデータによる蓄積（バックアップも含む）
- ・ テレビ番組のハードディスクへの録画

49

### 改正著作権法第35条

授業の履修者以外がオンライン上で著作物を見られる状況はダメ！

URLが流出されたり、履修者以外に送信されないために、  
どう設定すればよいか？

Google Classroomやmanaba等で履修者のみアクセスできるように設定すれば良い。

- ・ Google の場合、Classroomを介してDriveを利用すれば、Driveの著作権用の設定は不要である。

詳しくは、情報推進課や各学部、学科教務担当教員に問い合わせてください。

50

## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

51



52

ご利用の際は、施設のご利用に「加入者証等」をご提示ください。  
(施設のご利用方法は、加入者証等と記入欄の内容をご確認ください)

・本学は私学共済協会の契約する「健康増進施設」に対する補助補助です。  
・本学は加入者と被扶養者のうち、「利用者共済」欄に氏名を記入した方1名のみが対象です。  
・本学の補助金額及び利用可能施設については制限がありますので、厚生協会の規定を必ずご確認ください。  
・不正な利用が認められた場合、補助金は返金させていただきます。

③私学共済協会の規定施設では利用できません。  
利用方法等で不明な点があれば、下記の各ブロック担当課にお問い合わせください。

| ブロック  | 担当課           | 担当 姓 名                 | 電 話           |
|-------|---------------|------------------------|---------------|
| 北 洋 圏 | 札幌キャンパス生活支援課  | 1500-001 札幌地区担当 山本 佳子  | 011-0222-0204 |
| 東 京 圏 | 大宮キャンパス生活支援課  | 1500-002 大宮地区担当 山本 佳子  | 020-299-0203  |
| 東 海 圏 | 名古屋キャンパス生活支援課 | 1510-001 名古屋地区担当 山本 佳子 | 020-299-0207  |
| 中 部 圏 | 岐阜キャンパス生活支援課  | 1400-002 岐阜地区担当 山本 佳子  | 050-567-1388  |
| 近 畿 圏 | 大阪キャンパス生活支援課  | 1510-004 大阪地区担当 山本 佳子  | 06-5330-0107  |
| 西 部 圏 | 岡山キャンパス生活支援課  | 1510-002 岡山地区担当 山本 佳子  | 086-262-1134  |
| 北 陸 圏 | 富山キャンパス生活支援課  | 1510-003 富山地区担当 山本 佳子  | 082-752-0261  |

※利用時間：月曜～土曜 9時～17時(日祝)

ご利用の際は、施設の窓口で「加入者証等」をご提示ください。  
(施設のご利用方法は、加入者証等と記入欄の内容をご確認ください)

健康増進泊施設利用補助券  
(有効期間)令和5年4月1日～6月30日  
(利用者が複数利用される場合はご記入ください)

| 加入者番号<br>(加入者氏名) | 姓 名   | 職 業   |
|------------------|-------|-------|
| 利用者共済<br>(加入者氏名) | 姓 名   | 職 業   |
| 利用方法等            | 利用 施設 | 加入 施設 |
| 利用 期間            | 利用 期間 | 利用 期間 |

日本私立学校振興・共済事業団

ご利用の際は、施設の窓口で「加入者証等」をご提示ください。  
(施設のご利用方法は、加入者証等と記入欄の内容をご確認ください)

・本学は私学共済協会の契約する「厚生施設」に対する補助補助です。  
・本学は加入者と被扶養者のうち、「利用者共済」欄に氏名を記入した方1名のみが対象です。  
・本学の補助金額及び利用可能施設については制限がありますので、厚生協会の規定を必ずご確認ください。  
・不正な利用が認められた場合、補助金は返金させていただきます。

③私学共済協会の規定施設では利用できません。  
利用方法等で不明な点があれば、下記の各ブロック担当課にお問い合わせください。

| ブロック  | 担当課           | 担当 姓 名                 | 電 話           |
|-------|---------------|------------------------|---------------|
| 北 洋 圏 | 札幌キャンパス生活支援課  | 1500-001 札幌地区担当 山本 佳子  | 011-0222-0204 |
| 東 京 圏 | 大宮キャンパス生活支援課  | 1500-002 大宮地区担当 山本 佳子  | 020-299-0203  |
| 東 海 圏 | 名古屋キャンパス生活支援課 | 1510-001 名古屋地区担当 山本 佳子 | 020-299-0207  |
| 中 部 圏 | 岐阜キャンパス生活支援課  | 1400-002 岐阜地区担当 山本 佳子  | 050-567-1388  |
| 近 畿 圏 | 大阪キャンパス生活支援課  | 1510-004 大阪地区担当 山本 佳子  | 06-5330-0107  |
| 西 部 圏 | 岡山キャンパス生活支援課  | 1510-002 岡山地区担当 山本 佳子  | 086-262-1134  |
| 北 陸 圏 | 富山キャンパス生活支援課  | 1510-003 富山地区担当 山本 佳子  | 082-752-0261  |

※利用時間：月曜～土曜 9時～17時(日祝)

ご利用の際は、施設の窓口で「加入者証等」をご提示ください。  
(施設のご利用方法は、加入者証等と記入欄の内容をご確認ください)

厚生施設利用補助券  
(有効期間)令和5年4月1日～6月30日  
(利用者が複数利用される場合はご記入ください)

| 加入者番号<br>(加入者氏名) | 姓 名   | 職 業   |
|------------------|-------|-------|
| 利用者共済<br>(加入者氏名) | 姓 名   | 職 業   |
| 利用方法等            | 利用 施設 | 加入 施設 |
| 利用 期間            | 利用 期間 | 利用 期間 |

日本私立学校振興・共済事業団

## 本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

55

## Philosophenweg 哲学者の道



ドイツ  
Heidelberg

56



## 参考資料（リンクまとめ）

（リンクの表示は、マウス URL に乗せて、Ctrl+左クリックです）

本学ホームページ（下記のリンクはすべてこちらからのリンクです）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>

本学の基本方針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/basic-policy>

教育理念・目的・目標

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/rinen/>

行動指針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/guideline/>

大学の三方針（ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

シラバス（学部別にサイトが用意されています）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus/>

学則

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/summary/gakusoku/21gakusoku.pdf>

学生便覧

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/>

学校法人東日本学園 中期計画

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/summary/med-term>

入試情報 WEB サイト

<https://manavi.hoku-iryo-u.ac.jp/>

オープンキャンパス

<https://sites.google.com/hoku-iryo-u.ac.jp/opencampus202303/spring>

上記以外についても、大学ホームページの各コンテンツからご覧ください。

ワークショップ  
(プロダクト)

「本学のユニバーシティ・

アイデンティティに即した教育法」

発表資料(Aグループ)

【KJ法に基づく、UIと魅力の検討】(\*:分類)

\*立地環境:

景色がきれい、白鳥が見える、雪が多い、豊かな自然、広い校舎、駅から直結

\*制度:

特待生制度(学費免除)、海外短期留学制度、大学院への進学率が高い

\*学習環境:

学部、学科が多い、大学病院がある、高い国家資格の合格率、国試対策の授業が充実している、入学時の偏差値に比べて国試合格率が高い、多職種連携について学べる、担任制度がある、フォローが手厚い、臨床経験を十分に積める(患者とコミュニケーションを取る機会が多い)、実習先が豊富

【学生と中心とした教育の手法】

自分の所属学部以外の、他の職種の臨床現場やその職務を実習として取り扱う。

【グループ発表の内容】(大学での教育内容)

◇最終的な結論を一言で表現する(40文字以内):

**生涯活きる臨床スキルの基盤を身につけるために、多職種の臨床場面を知る機会を増やす。**

◇なぜその方法を選んだのか(理由・基準):

今までの教育では、所属する学部の専門職に特化しているが、他学部を知る機会が少ない。他の学部の臨床現場を知るとは、生涯活きる臨床スキルにもかかわるので必要であると考えたため。

◇具体的なアイデアの内容(実行方法・アイデアの詳細):

**学部学生を入れ替えて、既存の実習施設に実習に行かせる。**

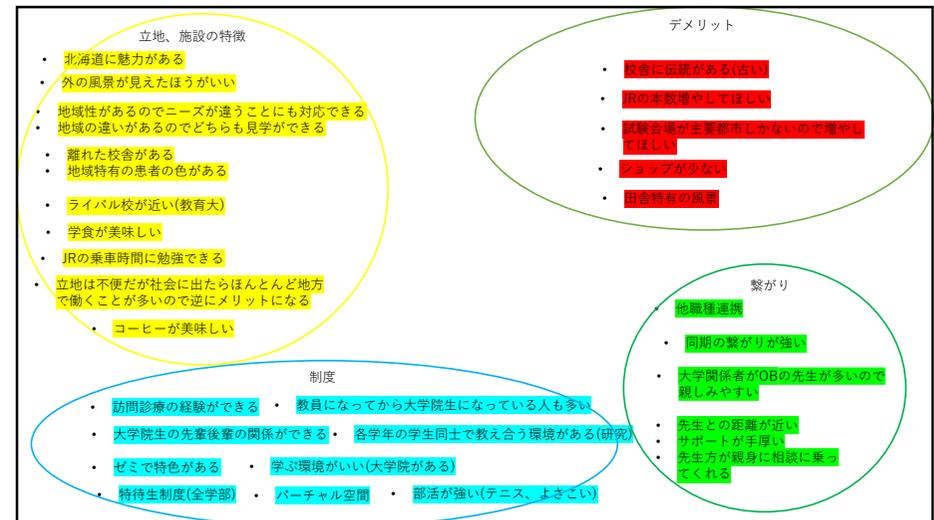
◇アイデアの実行による結果(生じる利益・利点):

**国家試験後の他の業種の実態を知ること、国家試験合格後も学習が続くことを自覚できる。**

**他の職種を知ること、自身の職業IDや臨床現場で働くことのモチベーションを育むことができる。**

# 本学のユニバーシティ・アイデンティティーに即した教育方法

学習意欲を高める工夫とその結果学生が頑張った分だけ形として成果が得られる教育方法が望ましい！！



## 教育法

精神的

- 低学年から勉強の仕方を教える授業(1日の過ごし方)
- 予備校の先生を一年生の時から呼ぶ
- アプリケーションを活用して学習意欲を高める
- 学生のうちから研究ができる
- グループ間での講義があれば良い
- 学力が上がれば使えるシステムがあれば面白い
- 先輩方の先生の話聞ける

物的

- 国家試験対策
- 前日に泊まり込みで先生方が面倒見てくれる
- 少人数の勉強を先生がしてくれる
- 抽選で当たるようにして依存させる
- ユニフォームなどがもらえたら嬉しい
- 学内通貨
- モリタや材料がもらえれば嬉しい
- ポイント制
- 国試後に花火を打ち上げる(お祝いなど)

### 結論

→学習意欲を高める工夫とその結果学生が頑張った分だけ形として成果が得られる教育方法が望ましい！！

**【メリット】**

卒業した後の広い視野を持った医療人になれる。

卒業後に他に様々な学部友達・医療者に相談できる。

学生中心の教育⇒対象者中心の医療・福祉につながる。

北海道医療大卒の医療人としての評価（ブランド力）が高まる。

**【細分化した他学部との実習】**

★歯学部とリハ科学部と看護学部と福祉学部のコラボレーション

「摂食嚥下障害」の視点で連携、チームカンファレンスの実施

小児・高齢者を対象にして、摂食嚥下障害という視点で行う。

実習先：老健・クリニック・在宅

実習内容：訓練・指導、嚥下食の作成、トロミ水の作成。

実施時期：歯学部：5年生（臨床実習に組み込む）

看護学部：2年生

リハビリテーション科学部：3年生

## 本学のユニバーシティ・アイデンティティ に即した教育法

Dグループ  
郷賢治、菱輪映里佳、柳生一自、GIRI Sarita  
ファシリテーター  
塚本委員、坊垣委員



Health  
Sciences  
University of  
Hokkaido  
の頭文字HH

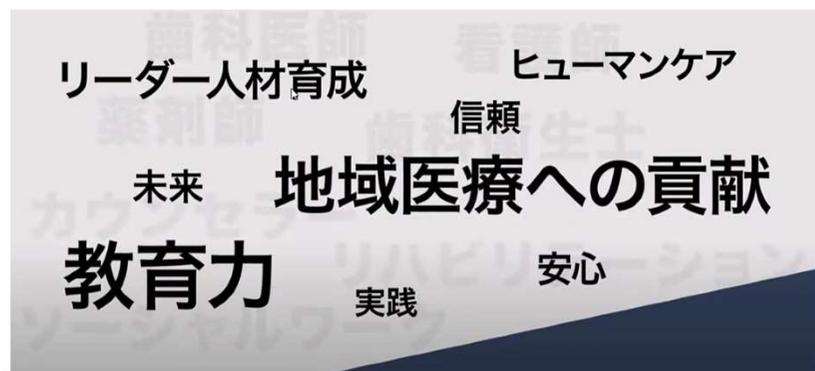


the North Star

連携・統合を目指す本学の教育理念を象徴  
導く「光」

広い教育体系に支えられた学生の豊かな人間性や医療科学・技術の向上

テレビCM



この大学のアイデンティティを表現している

## 北海道医療大学のイメージ

医療連携ができている

海外からみてもうちの大学はフレンドリー

北海道医療大学→現場力大事にしている

一方で・・・

北海道大学や日本医療大学と混同されることがある  
冬の交通手段けっこう大変

という問題点があったり

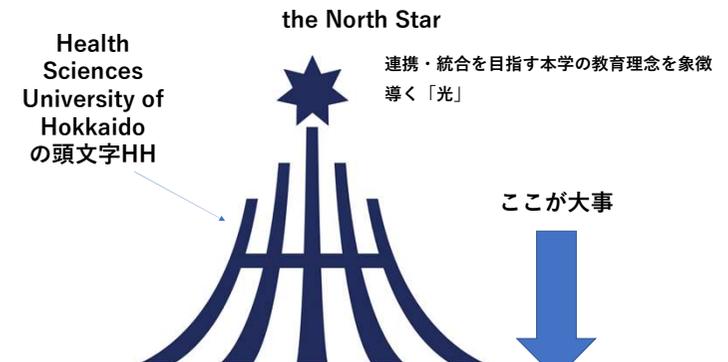
各学部を通しての悩み事

学生の中で成績が良くても、  
現場で壁にぶつかる学生がいる

改めてですが医療大は

他の大学施設で治療が困難だった患者さんを受け入れる、  
過疎地域の医療に寄与する、災害派遣に即時に応じる等

**社会のセーフティネット**  
になっている  
(これが一つのUniversity Identityではないか)



広い教育体系に支えられた学生の豊かな**人間性や医療科学・技術の向上**

コミュニケーション力  
人間力がすごく大切になる。  
そこを育む。

ただ  
学士修得や国家試験に合格しなければ  
現場にも出れない。

問題点として

学力はあるけどコミュニケーション力が足りない  
学力はないけどコミュニケーション力は足りてる

こんな人がある

解決策として

コミュニケーションを行いながらの教育がKeyになる

学生を「承認する」教育

なんでできないのかわからない！

普通だったらできるよね？

こんなことも理解できないの？



**少しでも小さくても  
学生の成長を褒めてあげる**

**私たち教育者が変わることも重要！**

・視覚優先型 (Visual) : 視覚情報の処理に優れている (視覚学習者)

・聴覚優先型 (Auditory) : 聴く事を通して理解することに長けている (聴覚学習者)

・運動感覚/触覚優先型 (Kinesthetic) : 実際に触ったり動いたりすることを通して学ぶ (運動感覚学習者)

29%が視覚優位型、34%が聴覚優位型、37%が運動感覚/触覚優位型

教員が楽しんで仕事をする！  
私たちの余力も大切です！  
Work hard! Play hard!



ア ン ケ ー ト

## 2023(令和5)年度 全学FD研修(基本編)アンケート結果

開催日時:2023(令和5)年4月4日(火) 10:00~16:00

開催方法:Zoom Meeting による開催

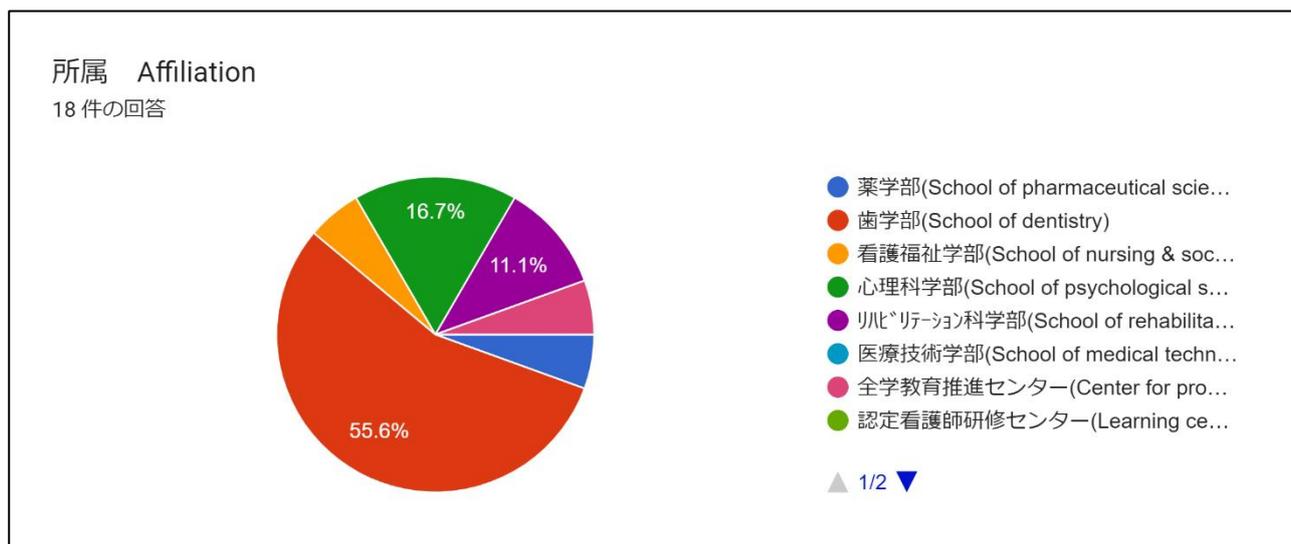
参加対象:2022(令和4年)4月2日以降に採用及び2023(令和5年)4月1日付採用の専任教員

参加人数:18名(薬学部1名、歯学部9名、看護福祉学部1名、心理科学部3名、リハビリテーション科学部2名、

全学教育推進センター1名、先端研究推進センター1名)

アンケートは GoogleForm により実施。

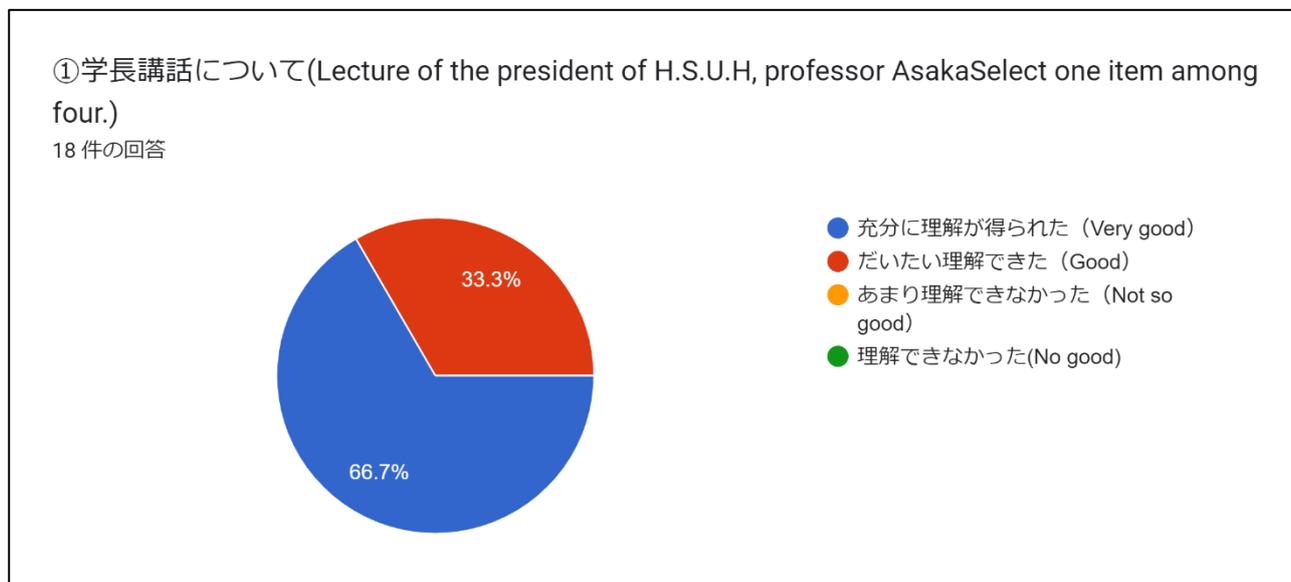
参加対象者の回答率は 100.0%(18名中18名)。



### 1. 今回の新任教員研修における次のテーマについて、習得度を自己評価してください。

#### ①学長講話について

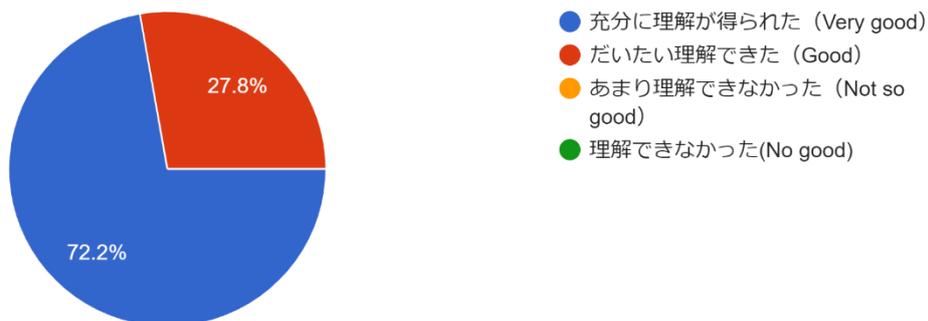
|            |    |
|------------|----|
| 十分に理解が得られた | 12 |
| だいたい理解できた  | 6  |



②レクチャー：当大学の理念・目標・方針に基づく授業について

|            |    |
|------------|----|
| 十分に理解が得られた | 13 |
| だいたい理解できた  | 5  |

レクチャー：当大学の理念・目標・方針に基づく授業～基本的な確認事項について～(5. Lecture of classes based on the philosophy, goals, and policies of the University ～Basic Confirmation Matters)  
18件の回答

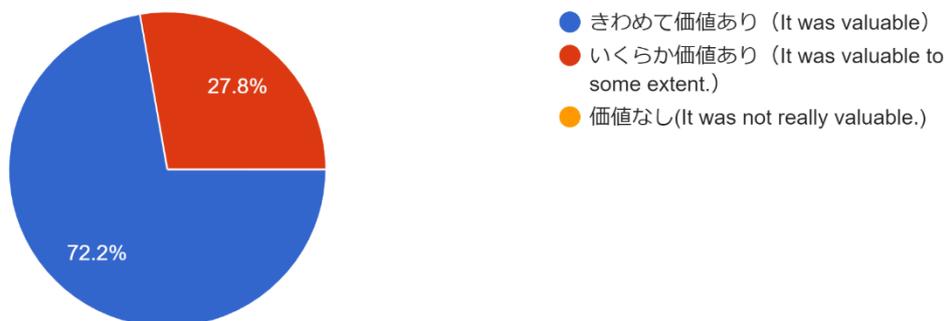


2.ワークショップについて評価してください。

(1)内容についてどう評価しますか。

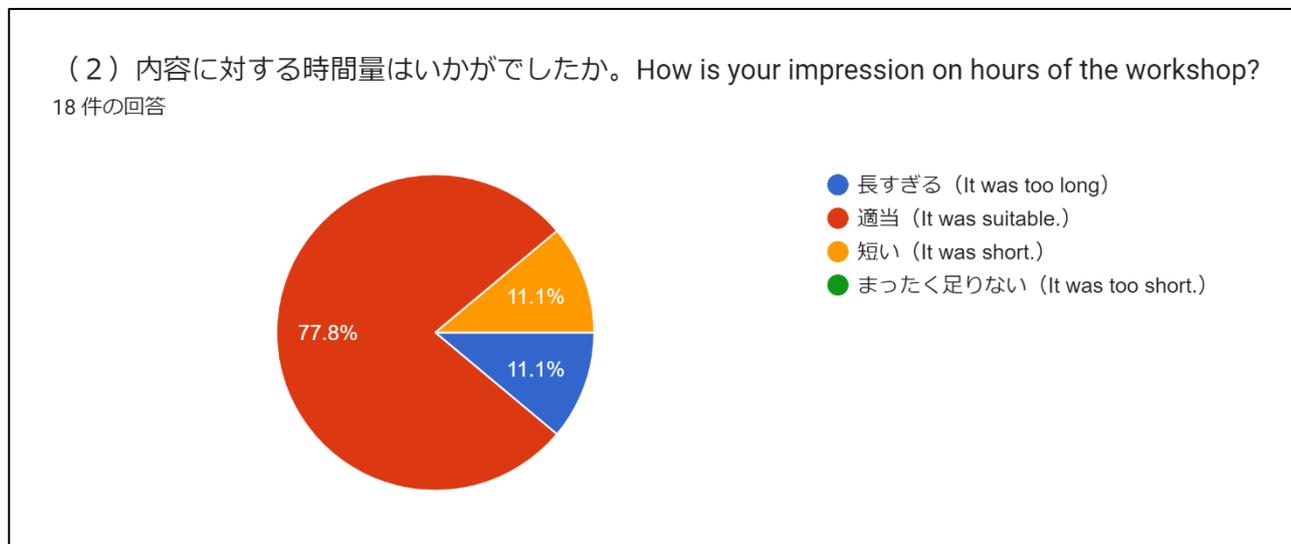
|          |    |
|----------|----|
| きわめて価値あり | 13 |
| いづらか価値あり | 5  |

(1) 内容についてどう評価しますか。How is your general opinion about the content?  
18件の回答



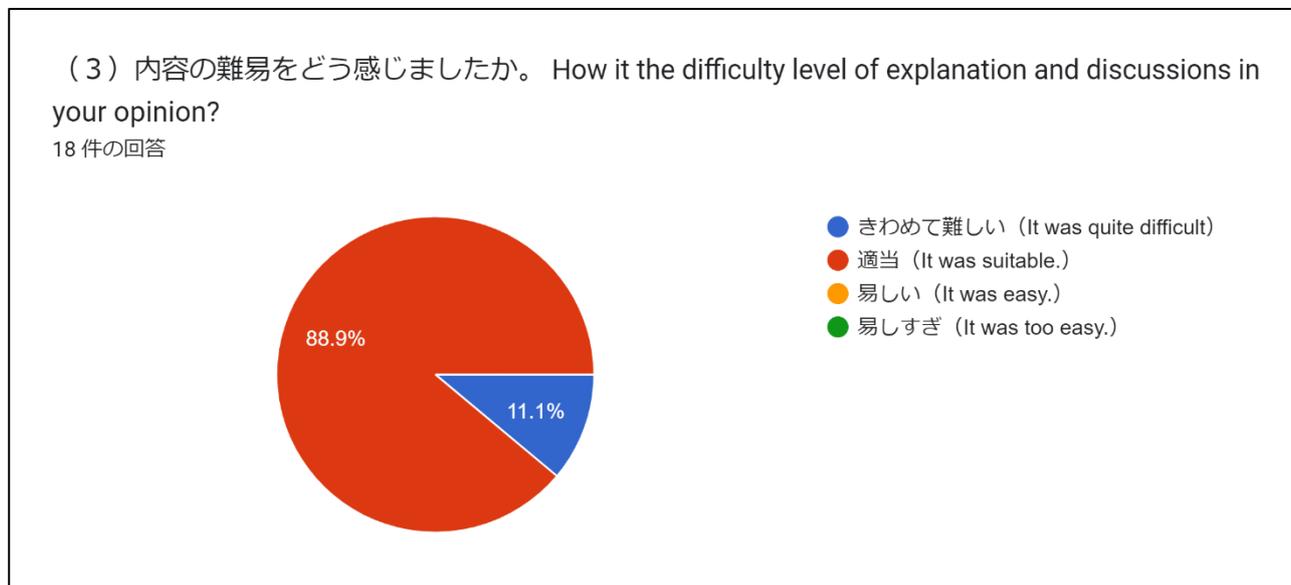
(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。

|      |    |
|------|----|
| 適当   | 14 |
| 長すぎる | 2  |
| 短い   | 2  |



(3) 内容の難易をどう感じましたか。

|         |    |
|---------|----|
| 適当      | 16 |
| きわめて難しい | 2  |

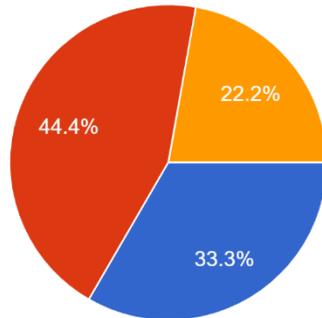


(4)このようなワークショップ形式についてどう思いましたか。

|         |   |
|---------|---|
| きわめて効果的 | 6 |
| かなり効果的  | 8 |
| ある程度効果的 | 4 |

(4) このようなワークショップ形式についてどう思いましたか。How did you evaluate the workshop style instruction course?

18件の回答



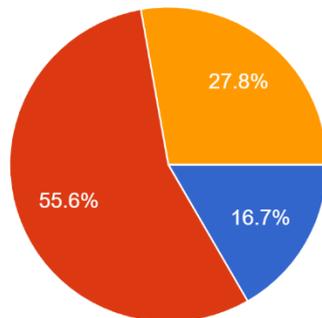
- きわめて効果的 (It was quite effective.)
- かなり効果的 (It was enough effective.)
- ある程度効果的 (It was effective to some extent.)
- 効果なし (It was not so much effective.)

(5)このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

|        |    |
|--------|----|
| きわめて適切 | 3  |
| かなり適切  | 10 |
| 適切     | 5  |

(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。Did the content of the workshop fit to your interest?

18件の回答



- きわめて適切 (It quite fit to my interest.)
- かなり適切 (It fit to my interest enough.)
- 適切 (It fit to my interest to some extent.)
- 不適切 (It did not fit to my interest)

### 3. 今回のワークショップ全体にわたり、とても良かったと思われる点は。

- ・他学部の意見を聞いてよかった。
- ・体験型であること
- ・他学部の教員と話す機会が得られた。
- ・最初の自己紹介で緊張が溶けた。
- ・他学部の意見がきける
- ・I got to communicate and know many sensei.
- ・多職種で議論することができたこと
- ・他学科の先生方と教育という1つのテーマについて長時間にわたりディスカッションし、様々な意見を得られたこと
- ・他学部の先生とお話する機会がないため、各学部の様子を聞いて興味深かったです。
- ・本学の特徴について改めて再認識し、教育に活かしたいと思いました。
- ・様々な学部の新任という同じ立場の皆さんと議論できたことで、多職種への理解の深まりや、教育について考える良い機会となった。
- ・同じテーマで議論しているが、4班それぞれの発表に特色がみられたこと
- ・他学部の先生との意見の交換ができたこと
- ・他学部の先生とお話しをする機会
- ・他学部の先生方のご意見を聞き、自身の教育方法を振り返ることができた。
- ・学生の興味や関心を引き付けるための、具体的な授業法やスライド作成法について聞いた点は大変助かりました。
- ・3方針、ユニバーシティ・アイデンティティ等、今まで意識したことが無い知識、考えを得ることが出来た点が良かった。授業準備の問い合わせ先など掲示していただいたのはとても良かった。
- ・他の職種の先生方の考えを聞いた点がとても良かったです。

### 4. 今回のワークショップ全体にわたり、良くなかったと思われる点(改善点)

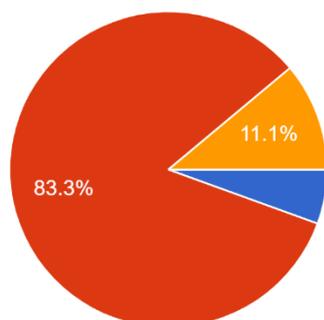
- ・マイクの不具合がおきて迷惑をかけてしまった。
- ・やや長い
- ・課題が漠然としていて、まとまらない。
- ・電波が悪い時があった。
- ・対面の方がやりやすいと感じました。
- ・In person would be great once Covid subsides.
- ・特になし。
- ・特記事項なし
- ・特にありません。
- ・特にありません。
- ・グループワークについて、まだ経験できていないことや、把握できていない部分があり、テーマに沿った話し合いを進めていくうえで難しさを感じた。
- ・4月から赴任された先生にとっては、当大学の学生や教育に対する理解が少し難しいような印象でした。
- ・ディスカッションが始まったときにテーマについて他の先生との理解度にばらつきがあった。
- ・新任は本学の課題についてわからないので、もう少し具体的に課題を設定した方がよい
- ・特になし
- ・グループワークが参加者主体で行われる必要があるというのは理解できますが、もう少しファシリテーターの先生方にサポートしていただきたかったというのが正直なところです。
- ・グループワーク後の休憩時間を増やしてほしい。昼食時間少し減らしてもいいので。
- ・パワポかワードか選択して頂けたら、発表の見やすさに差が出ないと思いました。

## 5. 今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。

|            |    |
|------------|----|
| ぜひ実施すべきである | 1  |
| 実施したほうがよい  | 15 |
| どちらでもよい    | 2  |

5. 今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。 Should we conduct Today's workshop style in the next time?

18件の回答



- ぜひ実施すべきである We should definitely conduct it.
- 実施したほうがよい (It is better to conduct it.)
- どちらでもよい It is no difference for me to conduct it.
- 実施しなくてよい (It is not necessary to conduct i.)

## 6. このワークショップの成果に関連して、今後1年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにしてください。

- ・アウトプットする
- ・よりよい学生教育を行います
- ・学部の違いを意識したい。
- ・仕事を楽しく行う。
- ・学生のモチベーション向上につながるような接し方をしたいと思います。
- ・Communication with more personal
- ・学生のモチベーションを向上させる取り組み
- ・学生の認知機能特性に配慮した教育方法の検討・学習アプリの作成・学生に対する親身なかかわり方の検討と実践
- ・自分の国試勉強の経験を学生に伝える。各学生の特徴を把握する。各学生に合ったアドバイスをできるように努める。
- ・学生さんに報酬を与えてモチベーションを上げることは有効的だと思いました。
- ・自分の学科に関するだけでなく、他学部や全学に対してアンテナを張り、目を向けていくこと。
- ・楽しんで仕事を、学生を褒める、今回のワークショップで繋がった先生と多方面でコラボする、他職種連携の授業に出席する、授業にもっと動画を活用する、1年生のサマースクールに参加する、学習支援が必要な学生の手助けをする、地域医療は継続して寄与する
- ・双方向の講義を心掛ける
- ・大学の置かれた状況について把握したい
- ・学生が北海道医療大学という総合大学に所属していることを自覚できるよう、指導をしていきたい
- ・大学の理念に関する理解を一層深めること、教えていただいたスライド作成法(穴抜きにする)を実践する、学生からこまめに授業についてのフィードバックを得る、担任業務の重要性を認識し個別サポートに力を入れる
- ・授業において 10-15 分程度の小内容ごとにモジュール化する。寝ている学生の興味を持てるような話を差し込む。授業終わりに国試ベースの問題を解かせる。
- ・学生さんに本学のアイデンティティーを再度重要視して、本学に通っているからこそ医療従事者として他の大学より優れた視点で物事が考えられるようにお伝えしていければと考えます。

## 7.全体を通して、今回の新任教員研修に対するご意見を記入してください。

- ・お疲れさまでした。
- ・特にありません
- ・できれば、プロダクトの内容をもう少し明確にしてほしい。
- ・対面の方がやりやすいと思います
- ・とても良い議論の場でした。
- ・It was great experience as a faculty.
- ・大変楽しかったです。自分のモチベーションが上がりました。
- ・これから教育を行っていく上での、大きな方向性について考え直す機会となりました。教員という立場からは、ベテランの先生方の具体的な教授法の例なども聞かせて頂けるとより良くなる可能性があると考えます。
- ・他学部との先生方と関わる機会を設けていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・皆さんありがとうございました。
- ・本学に対する理解を深めることができ、これから教育や臨床、研究を行っていく上での心構えができた
- ・有意義だったと思います。ありがとうございます。
- ・ディスカッションすることにより他学部とも教育の方向性が定まってよかった
- ・より建設的な議論の場になるとよいと思います
- ・自身の所属していない学部について知る機会があり、良い勉強の機会となりました。
- ・お忙しいところご準備いただきありがとうございました。個人的には、午前中のご講演から得ることが多い研修でした。教わった具体的な方法についてはすぐにでも実践したいと思いますし、道内私大における大学の UI もよく理解できました。ワークショップもテーマ自体は有意義で興味深いものでしたので、そこで考えたものを意識しながら今後の業務に活かしていきたいと思います。
- ・グループワークへの不慣れからメンバーに対して迷惑をかけて申し訳なかった。今回のようなワークショップ参加経験を積み重ねることで、今後はより良い参加ができるようになりたいと思えた。
- ・特にございません。企画運営等して下さり、ありがとうございました。未熟ながら、私の意見も聞き入れて下さる先生方に敬意を払いたいです。改めてありがとうございました。

以上

## F D 委員 感想

BグループのワークショップにFTとして参加した。20代後半～30代前半の若い先生5名によるグループ討議となった。本学出身のほぼ同世代が集まったことから、課題「UIを通じた教育法を考える」を設定した後の議論は途切れることなく展開された。UIの議論では本学のメリットとデメリットが列挙され、田舎にあり校舎が古い大学を逆転の発想で如何にブランド力を高めるかについて苦慮している場面が印象的であった。その中で、「医療系総合大学ならではの多職種連携教育の実施」や「学生へのサポートが手厚い」などをもっとアピールすべきとの意見が出された。教育方法の議論では、低学力の学生にモチベーションを上げるための仕掛けが必要であることが議論された。例えば、「医療大アプリ」を作ることで、「学生に問題を解かせてその回答をアップしてもらう」「リアルタイムで正答・正答率と解答が分かるようする」「アプリを経由して学生からの質問を共有化し教員が解説する」「利用頻度をポイント制にして景品を与える」など、若い先生ならではの発想を確認できたのは収穫であった。

(薬学部 小島 弘幸)

今回、浅香学長からの講話の後に行うレクチャーのテーマは「当大学の理念・目標・方針に基づく授業～基本的な確認事項について～」であった。内容は、対面授業ならびにオンライン授業での教育効果を高めるポイントから著作権に対する配慮にまでおよぶもので、藏満委員ご自身の講義スタイルの紹介等もあり、新任教員にとって実用的な内容であったと考える。

午後のグループワークでは、Aグループの討議にファシリテーターとして参加した。

Aグループは役割分担が素晴らしく、討議時間内に発言が途切れることがなく、とても濃厚な議論が交わされていた。できあがったプロダクトも学部・学科横断的なものとなり、本ワークショップの意図が十分に反映されていた。本研修会がオンライン開催になって久しいが、GoogleドキュメントやJamboardを駆使することで対面開催と比べても遜色のない有意義なグループワークを行うことができることを再認識した。

(歯学部 會田 英紀)

今年度のFD研修(基本編)では、自学部の研修参加者へ事前レクチャーを行うという新しい試みが行われ、当学部参加者と1時間程度、事前ディスカッションを行いました。この試みを通して、自らの学びがあったのはもちろんですが、参加者が持つ可能性を引き出し、グループワーク時に深い思索を促せたのではないかと感じました。FD研修のグループワークは時間に限りがあるため、FD委員および参加者双方の深い学びのためにも、今後もFD研修の際の事前レクチャー(ディスカッション)を継続していただけたらと思います。

委員退任のため、ファシリテーターとしてFD研修に参加する機会は今回のFD研修が最後になります。FD研修の際に毎回感じているのですが、「ファシリテーターとして参加者同士の対話や互いの理解を促進する場を提供する難しさ」を改めて感じました。どんな立場でも謙虚に学び、吸収し続ける姿勢を忘れたくないと強く感じた研修会でした。

(看護福祉学部 守田 玲菜)

2023年度FD研修会(基本編)へ参加させていただきまして、ありがとうございました。当日は新入生オリエンテーションのため、午前中は欠席となり申し訳ありませんでした。

午後からのワークショップではグループAへのファシリテーターとして参加させていただきました。グループに参加されている先生方は、事前に研修会資料に目を通されて参加されていたからか、本学のユニバーシティアイデンティティについて、開始当初から活発な意見交換をされていました。これまで何度もFD研修会(基本編)へファシリテーターとして参加させていただきましたが、例年以上に今年度の新任の先生方はさまざま意見を積極的に述べられていて、意義のあるワークショップとなったのではないかと思います。ディスカッションでは、Google Jamboardを利用して視覚的、聴覚的にKJ法を実施されるなど、オンラインでの

利点を活用されていた点が、拝見して大変勉強になりました。オンラインでの研修会開催は、資料の視認性が高く、理解に大変役立つと思います。今後も引き続きオンラインでの開催を希望します。

(心理学部 百々 尚美)

本研修会では、「学生を中心とした教育をすすめるため」をメインテーマに、新人教員研修を旨とした「ユニバーシティ・アイデンティティを考える」がサブテーマとされた。

午前には、浅香学長や藏満教授による「当大学の理念・目標・方針に基づく授業」がレクチャーされた。これらは、基本的に全教員が共有しなければならない内容であると思う。

午後からは、グループ討論テーマ「本学のユニバーシティ・アイデンティティに即した教育法」が行われた。私が参加したグループ(メンバー構成;薬1名、歯2名、心1名、全学1名)では、いずれの方も教員として、最初の赴任地であり、かつ出身校が当大学である共通性から、学生時代の体験を踏まえた具体的観点から、当大学の“らしさ(アイデンティティ)”は語られていた印象である。一方、教育者の観点到し込めるような討論内容に関しては、やや手薄に感じていたため、討論促進の立場からは、葛藤を持ってしまっていたが、話された内容の提示は、過不足なく伝えられた点は、良としたい。

(リハビリテーション科学部 鎌田 樹寛)

私が参加したグループでは、本学のユニバーシティ・アイデンティティは「多職種連携」にあるという流れに落ち着いた。そこで出た意見の中に、「多職種連携」について、講義で学ぶこととは別に、例えばクラブなどの課外での学生活動を行うことで、将来医療の中で連携し合うことになるであろう異職の学生同士が友人になれるのだという指摘があった。この出会いが将来職についた後での多職種間での連携に役立つことになるという趣旨の意見であろう。この話を聞いていて、私は講義で学ぶだけではなく、本学の多彩な学部が存在する状態そのものが、真の連携作りに寄与しているのかもしれないと思った。本学では、座学による「多職種連携」教育のみではなく、医療の複数職に関わる学生と教員が存在することによって、相互に信頼しあう「多職種連携」形成の基盤を育んできたのかもしれないと感じた。

(リハビリテーション科学部 中川 賀嗣)

小生はレクチャー担当だったが、午後から生化学実習担当でWSへの参加ができなかったため、浅香学長のお話と自分のレクチャーのみの参加であった。

毎回浅香学長のお話が一番印象的である。内容のコアな部分は概ね同じであるもののマイナーチェンジが充進されていて非常に有益なお話であった。JAMAからの情報で毎日8000歩以上で致死率が一割程度にまで減少すること、ジム通いよりもテニスのダブルスの方が遙かに延命効果を期待できることなど何時お聞きしても面白く有益である。

(医療技術学部 藏満 保宏)

ファシリテーターとして参加しました。学内から教員採用となった方は本学の背景、教育をご存知のため、あらためて考えるという感じでしたが、学外から赴任された方は、ユニバーシティ・アイデンティティを考えるというよりも、これまでとの違いを知る場との意味合いが強いと感じました。背景の違いからか、学外からの印象についても温度差がある様に感じました。ただ、分野、背景は異なっても、同じ様な問題があり、解決に至っていないことも知ることができました。

(医療技術学部 坊垣 暁之)

今回、午後のワークショップの説明をさせていただきました。せっかくですので、その感想

を書きます。まず、準備段階が大変勉強になりました。逆に言いますと、(事前の説明はありましたが)参加者が理解するのは難しいと感じました。「ユニバーシティ・アイデンティティ」「ワークショップ」「プロダクト」などは、あらためて、単語の意味を調べるところから始めました。UIは、そもそもが大学経営する際の発想であり、今回のテーマを新任教員が完全に理解、消化した上で作業するのは容易ではないと感じました。それでも、難しい課題だからこそ協力して取り組むことで、知識と経験は共有できたという意味で、ワークショップとしては成功したと感じています。

(全学教育推進センター 鈴木 喜一)

今回の研修会ではファシリテーターとしてCグループのWSに参加させていただきましたが、ファシリテーターの役割よりも先生方の意見交換に引き付けられる時間となりました。

WSでは「学生教育における多職種連携授業の在り方」を中心に意見交換をされていました。学生が多職種連携に興味を持つためにはどのような方策が必要かという話し合いの中で出てきた、学部間で学修(実習)を共同するという意見はとても興味深いものでした。カリキュラムなどの違いがあり現実化するのは困難なものかも知れませんが、多学部を有する本学ならではの特色を十分に活かすことができる部分でもあるので、このようなことが実現できたら、本学のアイデンティティを学内外に認知させる活動にも繋がるのではないかと考えました。

ファシリテーターとしての役不足が反省点ではありますが、他学部の先生方の考えや意見を知ることができる新鮮で有意義な時間となりました。貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

(歯科衛生士専門学校 千葉 利代)

# 全学 FD 研修 [テーマ編]

「学生を中心とした  
教育をすすめるために」

低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系 AI 活用への探索

期 日：令和 5 年 8 月 3 日（木）

会 場：当別キャンパス

（対面・Zoom ハイブリッド）

はじめに

北海道医療大学 全学 FD 委員長  
荒川俊哉

8月3日に、「学生を中心とした教育をすすめるために」をメインテーマに、「低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系 AI 活用への探索」をサブテーマとして、「生成系 AI」と「合理的配慮」に関しての全学 FD 研修テーマ編が開催されました。まず午前中に、薬学部教授の二瓶裕之先生に「生成系 AI の現状と活用」について、心理学部の柳生一自先生に「合理的配慮の考え方と実践」についてのご講演をしていただきました。この2つのテーマは、現在の大きな関心事であることもあり、多くの先生にご参加いただきました。また今年の研修は例年とは異なる大きな特徴がありました。それは、午後のワークショップでのより活発な議論の展開を目指して、午前中の講演と午後のワークショップをより有機的に繋げることでした。すなわち、午前中の講師の先生をそのまま午後のスーパーバイザー役として参加してもらい、演習を交えた実践的な研修会とすることでした。午後のワークショップのテーマは、それぞれ、「ChatGPT を活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」と「合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けて」でしたが、二瓶先生には、ワークショップに先立ち「ChatGPT の使い方」の実習をして戴き、またご都合がつかなかった柳生先生に代わって、心理学部の下村敦司先生には「合理的配慮の実践」に関する具体的なレクチャーを戴きながらワークショップを行いました。そのおかげで、より深みのある議論となり、有意義なワークショップとなったと感じました。スーパーバイザーの存在は、所々での的確なアドバイスを戴けるので、よりスムーズに議論が進んだと思います。この研修でのプロダクトを今後の講義に活かしていけることを期待しております。このようなユニークな研修会が実施できましたことに、レクチャーしていただいた二瓶先生、柳生先生、下村先生、参加いただいた先生並びにサポートいただいた FD 委員の先生方に深く御礼申し上げます。

## 2023（令和5）年度 全学FD研修〈テーマ編〉 実施概要

|         |   |
|---------|---|
| メインテーマ： | 学生を中心とした教育をすすめるために                          |
| サブテーマ：  | 低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系 AI 活用への探索            |
| 主催：     | 全学FD委員会                                     |
| 開催日：    | 2023（令和5）年8月3日（木） 9：40 ～ 15：55              |
| 開催方法：   | 対面・Zoomハイブリッド [全体会] と対面 [レク+WS] の併用         |
| 開催場所：   | 当別キャンパス 中央講義棟 C41 講義室 [全体会] / C109 演習室 [WS] |
| ディレクター： | 荒川俊哉（全学FD委員会 委員長）                           |
| 進行：     | 午前：荒川委員長<br>午後：小島委員（ワークショップ解説）、千葉委員（グループ発表） |

### 1. 日程

|       | 進行内容   | 担当  |
|-------|--|---|
| 9：40  | 参加者集合 開会・委員長挨拶、テーマ説明、日程確認ほか  | 荒川委員長   |
| 9：50  | 学長あいさつ   | 浅香正博 学長   |
| 9：55  | <b>【レクチャー（ワークショップテーマに関する話題提供）】</b><br>1) 生成系 AI の現状と活用<br>薬学部：二瓶裕之 教授  |   |
| 10：45 | <小休憩 5分>   |   |
| 10：50 | 2) 合理的配慮の考え方と実践<br>心理学部：柳生一自 教授<br><br><各テーマのレクチャーは 50分>   |   |
| 11：40 | 学長講評   | 浅香正博 学長   |
| 11：50 | 昼休憩（50分）   |   |
| 12：40 | *レクチャー・ワークショップの進め方について、プロダクトの作成について（5分）  | 進行解説：小島委員   |
| 12：45 | レクチャー・ワークショップ（ <u>160分, 15分程度の体験演習、途中休憩5分を含む</u> ）<br>*参加者自己紹介、*役割分担（進行・記録・発表）の決定<br>*グループワークテーマ<br>1) ChatGPT を活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して<br>2) 合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けて | <b>【ファシリテーター】</b><br>FD委員<br>(各グループに配置)<br>スーパーバイザー<br>二瓶教授（薬学）<br>下村教授（言語） |
| 15：25 | 休憩（5分）   |   |
| 15：30 | グループ発表・質疑応答・全体討議（1グループ10分×2グループ）   | 進行：千葉委員   |
| 15：50 | 全学FD委員長総評  | 荒川委員長   |
| 15：55 | ワークショップ参加者アンケート 閉会   |   |

※全体会の対面参加者はレクチャー講師、ワークショップ参加者、FD委員、スーパーバイザーに限定  
（午後のプログラムではノートPC・イヤホンを持参）

視聴参加者は全体会およびグループワークの報告（プロダクトの発表）ともに Zoom 参加  
学長は自室から Zoom 参加

## 2023全学FD研修(8/3)ワークショップ出席者一覧

(職位・敬称略)

| 参加テーマ                                | グループ | 参加者氏名  | 学部・学校  | 学科・科       |
|--------------------------------------|------|--------|--------|------------|
| 1) ChatGPTを活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して | ①    | 鹿内 浩樹  | 薬学部    | 薬学科        |
|                                      |      | 進藤 つぐみ | 薬学部    | 薬学科        |
|                                      |      | 山城 寿樹  | 薬学部    | 薬学科        |
|                                      |      | 根津 尚史  | 歯学部    | 歯学科        |
|                                      |      | 永野 恵司  | 歯学部    | 歯学科        |
|                                      |      | 舩橋 久美子 | 看護福祉学部 | 看護学科       |
|                                      |      | 橋本 菊次郎 | 看護福祉学部 | 福祉マネジメント学科 |
|                                      |      | 泉 剛    | 薬学部    | FD委員       |
|                                      |      | 小島 弘幸  | 薬学部    | FD委員       |
|                                      |      | 桑原 ゆみ  | 看護福祉学部 | FD委員       |
|                                      |      | 鈴木 喜一  | 医療技術学部 | FD委員       |
|                                      |      | 二瓶 裕之  | 薬学部    | スーパーバイザー   |

| 参加テーマ                             | グループ | 参加者氏名  | 学部・学校        | 学科・科     |
|-----------------------------------|------|--------|--------------|----------|
| 2) 合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けて | ②    | 松岡 紘史  | 歯学部          | 歯学科      |
|                                   |      | 新見 千穂  | 看護福祉学部       | 看護学科     |
|                                   |      | 西郷 達雄  | 心理科学部        | 臨床心理学科   |
|                                   |      | 山口 明彦  | リハビリテーション科学部 | 理学療法学科   |
|                                   |      | 依田 泰知  | リハビリテーション科学部 | 作業療法学科   |
|                                   |      | 辻村 礼央奈 | リハビリテーション科学部 | 言語聴覚療法学科 |
|                                   |      | 丸川 活司  | 医療技術学部       | 臨床検査学科   |
|                                   |      | 山形 摩紗  | 歯科衛生士専門学校    | 歯科衛生科    |
|                                   |      | 八木 こずえ | 看護福祉学部       | FD委員     |
|                                   |      | 中川 賀嗣  | リハビリテーション科学部 | FD委員     |
|                                   |      | 千葉 利代  | 歯科衛生士専門学校    | FD委員     |
|                                   |      | 下村 敦司  | リハビリテーション科学部 | スーパーバイザー |

|      |       |     |       |
|------|-------|-----|-------|
| 全体統括 | 荒川 俊哉 | 歯学部 | FD委員長 |
|------|-------|-----|-------|

| 学部別参加数 (FD委員等除く) |    |
|------------------|----|
| 薬学部              | 3  |
| 歯学部              | 3  |
| 看護福祉学部           | 3  |
| 心理科学部            | 1  |
| リハビリテーション科学部     | 3  |
| 医療技術学部           | 1  |
| 歯科衛生士専門学校        | 1  |
| 計                | 15 |

## 2023年度 全学FD研修 <テーマ編>

### 学生を中心とした教育を すすめるために

低学力、要支援学生への対応策の新時代  
～生成系AI活用への探索



主催：全学FD委員会

2023年8月3日（木） Zoom Meeting <sup>1</sup>

## 研修会開催の趣旨 研修会スケジュール

2

### 研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

3

### 研修スケジュール

- 9:40 開会 委員長あいさつ テーマ説明、スケジュール説明ほか
- 9:50 学長あいさつ 浅香学長
- 9:55 レクチャー  
①「生成系AIの現状と活用」  
二瓶裕之 教授（薬学部）  
(休憩 10:45～10:50)
- 10:50 ②「合理的配慮の考え方と実践」  
榎生一自 教授（心理科学部）
- 11:40 学長総評
- 11:50 昼休憩
- 12:40 ワークショップの進め方とプロダクト作成の説明
- 12:45 レクチャー・ワークショップ（160分、15分程度の体験演習、途中休憩5分を含む）
- 15:25 ワークショップ終了・休憩
- 15:30 グループ発表・質疑応答、全体討論（1グループ10分×2グループ）
- 15:50 FD委員長総評・アンケートの実施
- 15:55 閉会

4

### 学長あいさつ

北海道医療大学 学長 浅香 正博

5

### レクチャー①

北海道医療大学 薬学部

二瓶 裕之 教授

<演題>

「生成系AIの現状と活用」

6

## レクチャー②

北海道医療大学 心理科学部

柳生 一自 教授

<演題>

「合理的配慮の考え方と実践」

7

## 昼食・休憩



午後のワークショップの開始時間

**12:40** (時間厳守)

※ワークショップ参加者は予め決まっています。  
自由参加ではありませんので、予めご了承ください。

8



2023年度 全学FD研修 <テーマ編>

## ワークショップの進め方 プロダクトの作成について

2023年8月3日 (木曜日)

主催：全学FD委員会

担当：小島弘幸 (薬学研究科・FD委員)

9

## ミニレクチャーについて

体験演習を組み込んだワークショップを行います。

【体験演習】

- (1) ChatGPTを実際に体験します。「ChatGPTを活用」「低学力学生」「学習支援方法」などのテキストを入力してみます。翻訳された語句から低学力学生への学習支援にChatGPTを活用する可能性について考察します。
- (2) 発達障害に対する臨地実習での合理的配慮を実施する際、相反する「医療系教育の質の保証」と「教育機会の保証」を同時に検討する際に両者間に生じるコンフリクト解決に向けた方策や体制について考察します。

10

## ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて？



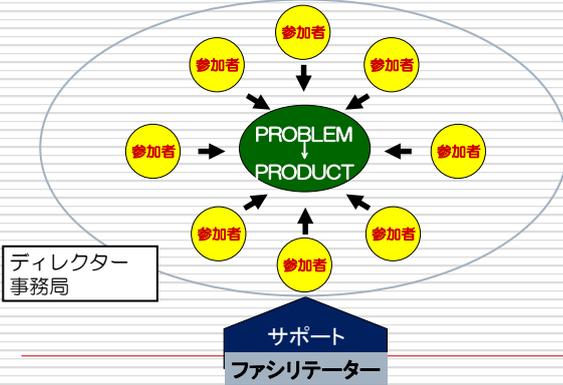
## ワークショップとは？



- ・ 多人数を対象として、参加者1人1人の参画意識を高めるために、小グループに分かれて討論と作業を行い、結論を出していく方式をいう。
- ・ 一定の時間内にある成果(プロダクト)を生み出すという手段をとる。

12

## ワークショップとは？



13

## ワークショップの流れ

### 1. プレナリーセッション

全体：導入講義・作業課題



### 2. スモールグループディスカッション (約120分)

グループ別：課題について討論・プロダクト作成



### 3. プレゼンテーション (1グループ10分)

グループ別：発表・質疑応答



14

## ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが積極的な参加者になる
2. 参加者全員が Resource Person(主役)
3. 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
4. どんな質問・意見でも無意味ではない  
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど〜」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった正解はない
6. 先生はいない
7. 時間を守る



イラスト：富士研WSスライドより

これは歓迎しません... (+o+)



イラスト：富士研WSスライドより

こんな感じで! (??)!

## スモールグループディスカッション

### 1. 参加者の自己紹介(1分程)

(アイスブレイク：氏名・所属・

私のいち押し、「実は私〇〇です」,

Good & New[24時間以内にあった「良かったこと (Good) ”や”新しい発見 (New) ”]など)



### 2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)



### 3. グループ討論

・発表内容の確認

18

## 役割分担



- **司会** . . . . . [                    ]
  - グループ討論時の**司会進行**を行う。
- **書記・PC入力** . . . . . [                    ]
  - グループ討論時、**書記(PC入力)**を行う（プロダクト作成）
  - 作成したプロダクトはPC等に**保存（終了後提出）**。
- **発表者** . . . . . [                    ]
  - 全体発表時に**グループプロダクトをZoomで画面共有**して、**発表**を行う。
- **ファシリテーター（FD委員）**
  - グループ討論・作業が効率的に進むように**サポート**する。
  - グループ討論の**タイムキーパー**も行う。

19

## <ワークショップ>

### 【サブテーマ】

低学力、要支援学生への対応策の新時代  
～生成系AI活用への探索

### 【ワークショップのテーマ】

- (1) ChatGPTを活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して
- (2) 合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けて

## <テーマ説明(1)>

ChatGPTを活用した低学力学生への  
学習支援方法の開発を目指して

低学力の学生が落ちこぼれないように学力を向上させるための支援方法にも限界を感じている

学業不振により留年、休学した学生が最終的には退学に結び付くなど、有効な対策を講じることができていない



### グループ討議への期待

低学力の学生に対し**ChatGPTを適切に活用**することで**学生の学力向上に貢献**する新たな見解

## <テーマ説明(2)>

合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援  
体制の確立に向けて

障害者差別解消法の改正により、これまで民間事業者の努力義務とされていた**合理的配慮の提供**が令和6年4月1日から**義務化**される



### グループ討議への期待

合理的な配慮を必要とする学生への支援について、**周囲の環境調整に留まらない効果的な支援体制**に関する見解

## 作業解説

プロダクト作成の作業ステップを例示します  
(いろいろな進め方があると思いますので進め方の一例として参考にしてください)

## <step1>

### 【課題を具体的に定義する】

議論を効率的に進めるには、課題を具体的に定義し、**スタート地点をしっかりと共有**することで議論がまとまりやすくなります。

## <step2>

### 【アイデアを出し議論する】

グループ内でテーマに対するアイデアを引き出し、議論を活発にします。

ポイントは、出てきたアイデアを否定しない、傾聴する、議論に参加できないメンバーには話を振る。また、アイデアの質は後で検討するので、ここでは気にしません。

## <step3>

### 【アイデアを分類し選択する】

出されたアイデアを分類することは、アイデアの良し悪しを議論するよりも効率的になります。

アイデアを分類した後、グループのプロダクトとするアイデアを選択します。

選択の方法としては、「評価軸」を決めて選択していく方法があります。

※評価軸の例: 実行性、効果、かかる費用、時間…など

## <step4>

### 【アイデアの詳細を詰めてまとめる】

自由に出されたアイデアは細部が詰められていません。グループのプロダクトにするために、選択したアイデアについて、以下の点を詰めていきます。

1.誰が、2.どこで、3.どんな風に、4.誰に対して、5.どんなタイミングで、6.なぜそれをやるのか  
…いわゆる5W1H

## <step5>

### 【グループ発表】

発表では、以下のポイントを意識します。

- ◇最終的な結論を一言で表現する  
40文字程度
- ◇なぜそのアイデアを選んだのか  
他に提出されたアイデアのまとめ、選択理由・基準など
- ◇具体的なアイデアの内容  
実行方法、アイデアの詳細など
- ◇アイデアの実行による結果  
生じる利益・利点など

## <プロダクトのまとめと発表方法>

➤ プロダクトの発表資料の作成には、パワーポイント、ワードなどを使用してください。プロダクト作成に使用するソフトは問いません。

➤ 作成したプロダクトは、本研修会終了後、全学FD委員会に提出をお願いします。

メールの場合: fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp  
USBメモリなどに保存して提出の場合: 学務部教務企画課に持参

学生を中心とした教育をすすめるために、本学の授業環境に適した、より教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイルを提案してください。

## 参加者のグループ分け (敬称略)

| テーマ(1)      |                 | テーマ(2)       |                 |
|-------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 鹿内 浩樹(薬)    | 進藤 つくみ(薬)       | 松岡 紘史(歯)     | 新見 千穂(看護)       |
| 山城 寿樹(薬)    | 根津 尚史(歯)        | 西郷 達雄(心)     | 山口 明彦(リハ)       |
| 永野 恵司(歯)    | 船橋 久美子(看護)      | 依田 泰知(リハ)    | 辻村 礼央奈(リハ)      |
| 橋本 菊次郎(看護)  | 泉 剛(FD委員)       | 丸川 活司(医技)    | 山形 摩紗(歯専)       |
| 小島 弘幸(FD委員) | 桑原 ゆみ(FD委員)     | 八木 こすえ(FD委員) | 中川 賀嗣(FD委員)     |
| 鈴木 喜一(FD委員) | 二瓶 裕之(スーパーバイザー) | 千葉 利代(FD委員)  | 下村 敦司(スーパーバイザー) |

## 休憩



休憩時間 15:25~15:30  
(時間厳守をお願いします)

**15:30** までに、  
着席してください。

【次はグループ発表になります】

31

## グループ発表

(発表時間は、各グループ10分です)

32

## 提出物について

### <参加者>

- グループ代表はWSの成果として、グループで作成したプロダクトをまとめて下記に提出してください。取りまとめの様式、分量などに特に制約はありません。
- ワークショップ参加者は、ワークショップの感想を400字程度にまとめて提出してください。

### <FD委員>

- 研修の感想文を400字程度にまとめて提出してください。

### 提出期限・提出先

- 提出期限：8月31日(木)
  - 提出先：学務部教務企画課 FD研修担当
- \* fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

33

## アンケート

参加者のみなさま、お疲れさまでした。  
最後に、アンケートのご回答、よろしくお願い致します。



<https://forms.gle/Cj2BHtHAo62zrYTU9>  
(チャットにURLを送信しております。ご利用ください。)

34

## レクチャー

- ①生成系 AI の現状と活用
- ②合理的配慮の考え方と実践

## ワークショップ内レクチャー

- ①発達障害に対する臨地実習での合理的配慮

2023（令和5）年度 全学FD研修(テーマ編)  
2023年8月3日（木）9:55～10:45

開催方法：対面・Zoom ハイブリッド [全体会] と対面 [レク+WS] の併用  
開催場所：当別キャンパス 中央講義棟 C41 講義室 [全体会]

# 低学力、要支援学生への対応策の新時代～ 生成系AIの現状と活用

二瓶 裕之  
北海道医療大学 薬学部

Eye-Catching Images

何が  
できる

学生A：コロナ禍において、父の業種での働きぶりを見ることで、医療現場の第一線でどれだけ大変なのかを肌で感じました。これは、私の学びに大きな影響を与え、実学の勉強に対する熱意をより高めました。

学生B：私はコロナ禍でオンライン授業が増え、対面でのコミュニケーションが減ったことで、患者さんとの対話の大切さを再認識しました。これが看護師としての人間力を育むきっかけとなりました。

学生C：私は、コロナ禍での自宅待機中に料理のスキルをさらに高くことができました。また、中国での生活経験から、異なる文化の中で生まれるという視点を持ち、それが栄養学へ

生成系AIの現状と活用

イントロダクション

生成系 AI  
活用への  
探索

融合した生成AI(Chat GPT & DALL E)

何が  
できるの  
か

画像生成AI(DALL E)

対話生成AI(Chat GPT)

何がAIなのか  
何がAIなのか  
性能はどの程度か  
才能を引き出すには  
どのように使うのが  
何がAIなのか

事例

生成系AIの現状と活用

# Chat GPT

生成系AIの現状と活用

# Chat GPT : 何がAIなのか

生成系AIの現状と活用

5

# Chat GPT : 何がAIなのか

文章/画像/音声などを時系列データと捉えてニューラルネットワークモデルで出現を予測

薬剤師業務に必要となる情報通信技術(ICT)や数理・データサイエンス

transformer

予測領域

「もしAならばBである」といった知識を大量に蓄積しているエキスパートシステムとは異なります

生成系AIの現状と活用

6

# Chat GPT : 性能はどの程度か

生成系AIの現状と活用

7

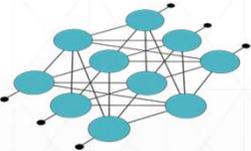
# Chat GPT : 性能はどの程度か

Neural Network  
ニューラルネットワーク

生成系AIの現状と活用

8

# Chat GPT : 性能はどの程度か



ニューラルネットワークの性能は「シナプス」の数で推し量ることができる

- 生成系AIの現状と活用

9

# Chat GPT : 性能はどの程度か

| GTP-3.5 (無償) | GTP-4 (有償) |
|--------------|------------|
| 1,000億個      | 100兆個      |




Chat GPTの性能を推し量るには「GTP-4」モデルで

- 生成系AIの現状と活用

10

# Chat GPT : 才能を引き出すには



膨大な学習データ

↓

貴重な才能が埋没

↓

掘り起こすためのプロンプト

質問

- 生成系AIの現状と活用

11

# Chat GPT : どのように使うのか

| Web版 | API版 |
|------|------|
|------|------|



アカウント登録すれば、プロンプトをテキストボックスに入れるだけで利用可能

```

response = openai.ChatCompletion.create(
    model="gpt-4",
    messages=[
        [{"role": "user", "content": "f21line"},
        [{"role": "system", "content": "f31line"},
        [{"role": "assistant", "content": "f41line"},
    ],
    temperature=0.5,
    top_p=1.0,
    frequency_penalty=0.0,
    presence_penalty=0.0,
    max_tokens=1000
)
    
```

Pythonなどのプログラミング言語を通して利用することとなるが、自分で開発したアプリに組み込むことができる

- 生成系AIの現状と活用

12

# Chat GPT : どのように使うのか

```

response = openai.ChatCompletion.create(
    model="gpt-4",
    messages=[
        {"role": "user", "content": f2line},
        {"role": "system", "content": f3line},
        {"role": "assistant", "content": f4line},
    ],
    temperature=0.5,
    top_p=1.0,
    frequency_penalty=0.0,
    presence_penalty=0.0,
    max_tokens=1000
)

```

Web版GPTでは、2つまとめて送信します

user system

生成系AIの現状と活用

13



# Chat GPTで何ができるのか

### レポート作成

目的 (user)

役割 (system)

### グループワーク

目的 (user)

役割 (system)

### 国家試験問題

目的 (user)

役割 (system)

### API

目的 (user)

役割 (system)

生成系AIの現状と活用

15

# レポート作成

### 質問 (user)

- 医療分野において、どのようにAIが活用されているのかをインターネットなどを使って調べて、調査結果をまとめたレポートを作ってください。
- レポートは、目的、方法、結果、考察の4つの章から成ります。
- 目的には、幾つかあるAI活用の例から、あなたが選んだ活用事例を、何故選んだのか、また、選んだ目的がなぜであるのかを書いてください。方法には、どのようなホームページを使って調査したのかを書いてください。結果には、調査からわかる客観的な事実を書き、考察には、結果に基づいてあなたは何をどのように感じたのかを書いてください。
- レポートの文字数は800文字以内としてください。

### 役割(system)

- あなたは日本の医療系大学の薬学部に在籍する1年生とします。
- あなたは、対話型AIに対する興味を持っていて、最近、自分でも、対話型AIを使い始めてその能力を体験し始めているとします。
- レポートを作成するにあたって、インターネットを調べればすぐにわかるような一般的な内容ではなく、あなたが興味を持っていること、つまり、生成系AIを中心に、深く切り込んだ内容のレポートを作ってください。

生成系AIの現状と活用

16

# 国家試験問題




**質問 (user)**

55歳男性、身長175cm、体重81kg、3年前に健康診断で高血糖を指摘され、医師を診訪したところ、2型糖尿病と診断された。経口血糖降下薬による治療を受けていたが、血糖コントロールが不良のため、6ヶ月前よりインスリン注射開始となった。幸い、かかりつけ薬局が薬局を営む薬局でインスリンがシステムを行ったところ、注射部位に軽い硬結が認められた。

(検査中の薬剤)  
 インスリンアズミット (遺伝子組換え)  
 朝食前12単位、朝食前6単位、夕食前8単位  
 インスリンアズミット (遺伝子組換え) 夕食前12単位  
 テルミサルタン 40mg・アムロジピン配合錠 1回1錠 (1日1回) 朝食後  
 (採血及び検査項目)  
 血圧 118/68 mmHg、AST 15 IU/L、ALT 16 IU/L、γ-GTP 32 IU/L、血清クレアチニン 1.06 mg/dL、eGFR 57.6 mL/min/1.73m<sup>2</sup>、空腹時血糖 110 mg/dL、HbA1c 6.6%、TG (トリグリセリド) 180 mg/dL、低密度脂蛋白 208 mg/dL、HDL-C 44 mg/dL、LDL-C 90mg/dL、尿酸 7.4 mg/dL、尿酸 (U)、尿酸値 (U)、尿中ケトン体 (-)

問 266  
 この患者に対するインスリン注射に関する指導の内容として、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 インスリンによる治療中は、食事療法を中止する。
- 2 治療開始時の追加型インスリン治療は、家で保管する。
- 3 現在の状態では、持続型速効インスリン注射をやめてもいい。
- 4 硬結防止のために、注射部位は前回の注射部位から少なくとも2〜3cm離す。
- 5 硬結程度を感知しやすくするために軟くなっていく。

問 267  
 今回の身体所見と検査結果を鑑み、糖尿病合併症や併存症の進展の防止のために、追加が望ましい薬物はどれか。2つ選べ。

- 1 ビタミンD製剤
- 2 アトバルタスタチン
- 3 ペマフィラート
- 4 トピロキスチット
- 5 グリメピリド

■ 生成系AIの現状と活用 17

# グループワーク



- これから、4名の学生の間でグループワークをします。4名の学生を学生A、学生B、学生C、学生Dとします。学生のキャラクターは下記のとおりです。
- **学生A**：学生Aは薬学部2年生の男子学生です。得意科目は生物であり、成績も優秀である。父親が薬局を運営する薬剤師であり、将来は、その薬局で勤務したいと考えている。**学生B**：学生Bは看護学部2年生の女子学生です。得意とするのはコミュニケーションである。おじいちゃん子で、人にやさしいが、ちょっと、気弱なところがある。**学生C**：学生Cは栄養学部2年生の女子学生です。料理を得意としていて、特に、中華料理が得意です。中国への留学経験もあり、現地で、中華料理を学んでいます。**学生D**：学生Dは医学部2年生の男子学生です。高校の時からすべての強化で特に優秀な成績を上げていて、難関大学の医学部に入学しました。外科医を目指して将来は大学病院に働きたいという夢を持っています。
- 今回は、4名の学生の間で、「コロナ禍を経験したことが、将来、医療従事者として勤務するうえで、どのような効果や影響をもたらすのか」をテーマとしたディスカッションをすることになりました。まずは、全員がコロナ禍における学生生活を振り返って、それが、学生生活にどのような影響を与えたのかの**体験談を話し合う**ことから始めます。そのあと、徐々に、**テーマに沿ったディスカッション**を始めるという感じで、グループワークをしたとき、それぞれの学生が、どのような発言をするでしょうか。
- 学生A：○○○○○  
 学生B：○○○○○  
 学生C：○○○○○  
 学生D：○○○○○
- という形式でディスカッションを続けてください。

■ 生成系AIの現状と活用 18

# API

情報センターでは、Chat GPT-APIサービスを開始します




**シナリオに沿ったロールプレイ**

- systemコマンドに特定の役割を記載することで、例えば、「常に、「調剤薬局に勤務するかかりつけ薬剤師」を演じさせることができます

**オプトアウトによる情報保護**

- 送信したデータがGtp-4の学習用データとして利用されることがありません

**利用コストを公費負担**

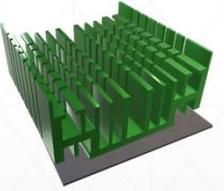
- API Keyを所有するユーザーがすべての費用を負担するので、個々の利用者が費用を負担することはありません

■ 生成系AIの現状と活用 19

# Chat GPTで何ができるのか



+API



**レポート添削**



**日々の疑問の相談役**



- 質問には関われないような小さな疑問
- 授業が面白くないで、学修の大きな障害
- 疑問、解決の糸口を学生に提供

■ 生成系AIの現状と活用 20

# レポート添削

## 医療分野における AI 活用

**目的**

現在の日本の医療現場では AI を導入し医療を行っているため、AI をどのように活用し医療に役立てていくのが次の課題である。

**方法**

医療 AI の活用について検索をする。医療データの収集、医療現場での実用性の検証、医療の向上などが目的である。その中で医療データの収集について調べた。現在は、マイクロナビゲーションと手術支援ロボットの活用が注目されている。マイクロナビゲーションは手術支援ロボットと手術支援ロボットの連携が注目されている。また、手術支援ロボットの活用が注目されている。また、手術支援ロボットの活用が注目されている。

**結果と考察**

医療 AI は現在の医療現場で大きな役割を果たしている。しかし、医療現場に導入するための課題は多くある。その中でも、医療データの収集と活用が大きな課題である。また、手術支援ロボットの活用も大きな課題である。したがって、医療現場での AI 活用を進めるためには、これらの課題を克服することが必要である。

■ 生成系AIからのフィードバック

このレポートでは、「医療分野におけるAI活用」について興味深い報告が読まれました。特に、マイクロナビゲーションと手術支援ロボットの連携による医療データの収集への影響についての分析が面白かったです。また、手術支援ロボットの活用に関する課題についても興味をもちました。

目的の部分では、AIがどのように医療に役立てられているかについて興味をもちました。しかし、もう少し具体的な調査や疑問点に触れると、読者にとって理解しやすくなります。例えば、AI技術が医療現場でどのような課題解決に寄与しているのか、具体的な事例を挙げると良いでしょう。

方法の部分では、検索キーワードや検索の経路についてもう少し具体的に記述していただく。読者が調査プロセスを理解しやすくなります。どのようなキーワードで検索を行ったか、調査の信頼性が向上します。

結果の部分では、複数の検索結果をまとめることができているようですが、それぞれの結果がどのように関連しているのか、または異なる点があるのかを整理して記載すると、分析力が高まるでしょう。

考察の部分では、情報源の信頼性について触れられていますが、さらに具体的な調査や今後の展望についても言及することで、より深い議論が期待できます。特に、具体的な課題や今後の展望について触れると、読者にとって興味をもちやすくなります。また、レポートになること間違いありません。上記の点に注意して、さらに充実した内容に仕上げてください。

■ 生成系AIの現状と活用

21

# レポート添削

## 医療分野における AI 活用

**目的**

現在の日本の医療現場では AI を導入し医療を行っているため、AI をどのように活用し医療に役立てていくのが次の課題である。

**方法**

医療 AI の活用について検索をする。医療データの収集、医療現場での実用性の検証、医療の向上などが目的である。その中で医療データの収集について調べた。現在は、マイクロナビゲーションと手術支援ロボットの活用が注目されている。マイクロナビゲーションは手術支援ロボットと手術支援ロボットの連携が注目されている。また、手術支援ロボットの活用も大きな課題である。したがって、医療現場での AI 活用を進めるためには、これらの課題を克服することが必要である。

**結果と考察**

医療 AI は現在の医療現場で大きな役割を果たしている。しかし、医療現場に導入するための課題は多くある。その中でも、医療データの収集と活用が大きな課題である。また、手術支援ロボットの活用も大きな課題である。したがって、医療現場での AI 活用を進めるためには、これらの課題を克服することが必要である。

ループブック評価の結果を個別最適化してフィードバック

フィードバックを目的としており成績判定には不使用

AIに対する反論や自分の見解を再評価

AIの回答に対する適度な信頼と健全な懐疑心を醸成

■ 生成系AIの現状と活用

22

# 日々の疑問の相談役

**教員には尋ねられないような小さな疑問**

**授業が進むにつれて学修の大きな障壁**

**随時、解決の糸口を学生に提供**

この時間の授業で学んだことを記入してください\*

回答を入力

課題の提出

📎 ファイルを追加

今日の授業テーマに関して生成系AIに相談したいことを記入してください(最大・2000文字)

相談とは、具体的な問題や課題について他の人の意見やアドバイスを求めることです。相談する際には、自分の問題や課題を他の人に明確に説明し、それに対する回答や解決策を求めます。相談することで、意思決定や問題解決の視点を広げられ、より良い視野や新しい視点を導くことができます。

回答を入力

授業の感想やコメントがあれば記入してください(自由記載)

回答を入力

■ 生成系AIの現状と活用

23

# 日々の疑問の相談役

■ 生成系AIからのフィードバック

あなたの学んだことは「出生数」

新規性がある(自分では気づかなかったような新しい視点が含まれていた):

●強くそう思う ●そう思う ●そう思わない ●強くそう思わない

有用性がある(自分が抱える課題や問題を解決するのに役立った):

●強くそう思う ●そう思う ●そう思わない ●強くそう思わない

信頼性がある(正確で信頼できると感じた):

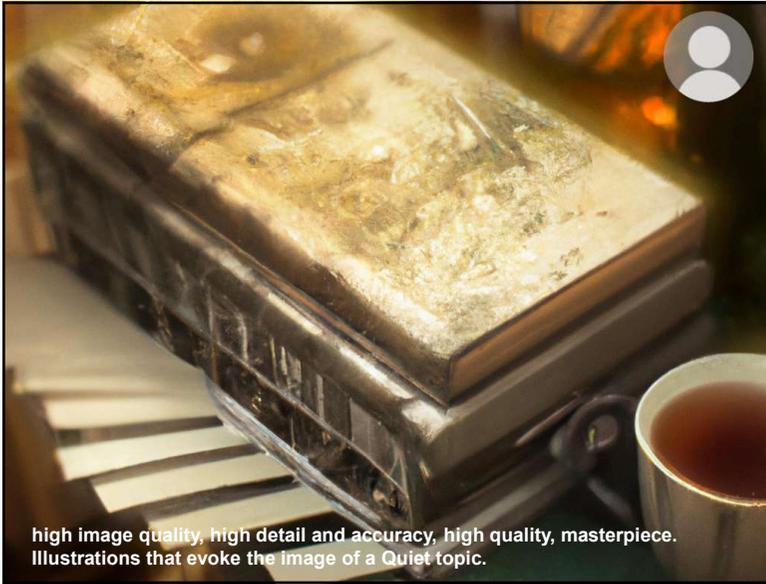
●強くそう思う ●そう思う ●そう思わない ●強くそう思わない

信頼性、有用性、新規性を評価させる

批判的観点を持って信ぴょう性を自身で検証する

■ 生成系AIの現状と活用

24



## アヒルが乗ったアヒル型の自転車

思い  
描いて  
ください

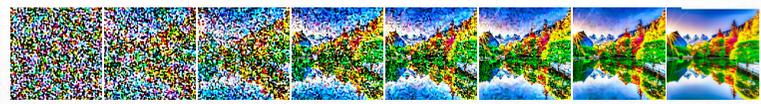
## アヒルが乗ったアヒル型の自転車



## 画像生成AI (DALL E)

## 画像生成AI：何がAIなのか

- 生成AIは文章や画像を作成するとき、具体的な過去の著作からのコピーペーストは行いません。基本的にはゼロから作成します。ただし、そのベースになるのはこれまでに蓄積された情報（著作物）です
- 「武蔵野美術大学「生成系人工知能（生成AI）についての学長からのメッセージ」より



生成のプロセス：どのようなプロンプトであればどのように生成するかを予測

GAN

生成系AIの現状と活用

## 画像生成AI：何ができるのか

思い通りの挿絵や写真を作って、授業教材に使える（学習モデルの利用規約を確認）

生成系AIの現状と活用



high image quality, high detail and accuracy, high quality, masterpiece. Illustrations that evoke the image of a coffee break.

## 融合した生成AI

## 融合した生成AI：何ができるのか

〇〇〇〇〇〇が関わる主要な5領域（医療、教育、産業、福祉、司法）で活躍するエキスパートを演じる生成AIアバターに対話型の調査を行います。



自身の将来像も見据えたうえで、どの領域で活躍するエキスパートに対して調査すればよいのかをグループで話し合ったうえで、グループ毎に、領域とタイプ（AかB）を選んで、生成AIアバターに対話型調査をしてください。次回、アバターが回答を語り掛けてくれます。

- 生成系AIの現状と活用

33

## 融合した生成AI：何ができるのか

|      |                   |
|------|-------------------|
| 科目   | 情報処理演習            |
| 履修者  | 約70名              |
| 授業形態 | 5名程度のグループワーク      |
| テーマ  | インターネットを安全に使うためには |

- 生成系AIの現状と活用

## 融合した生成AI：何ができるのか



批判的視点を持って回答の正確性を検証するなどしてもらっています

- 生成系AIの現状と活用

35

## 生成系AI活用への探索

### グループワーク

- AIアバターなどの直感的なインターフェースを介すことで、例えば、グループワークに、様々な学部所属する学生を演じるAIアバターを参加させれば、AIの発言にリアリティを持たせながら学部の枠を超えた議論を展開できる可能性もあります。

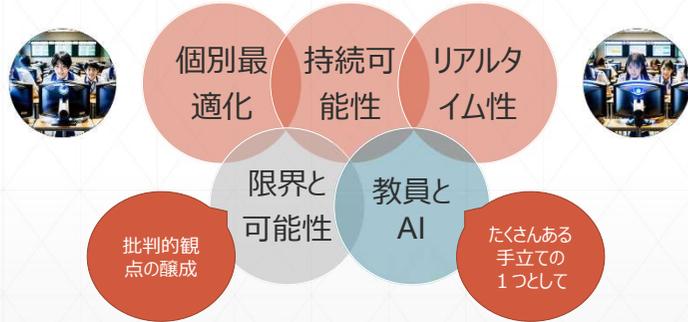
### 学生対応

- 学生の質問を受け付ける相談役として、様々な分野の専門家を演じたり、多様な学生のスキルに合わせた表現方法で回答を提示したりすることも可能です。

- 生成系AIの現状と活用

36

## 生成系AI活用への探索



- Chat GPTの組み込みシステムや画像生成AIサーバを独自に開発・運用し始めています
- 授業に生成AIを使ってみたい、画像生成をしたいなどご要望があればお問い合わせください

▪ ご清聴ありがとうございました

37

## 合理的配慮の考え方と実践



## 合理的配慮とは

- 合理的配慮とは、障害のある人が日常生活や社会生活をおくる上での困難さを、一人ひとりに合わせた周りからのサポートや環境の調整によって軽減するための配慮のこと



・・・ですが、今回は個人的な思いも含めてお話しさせていただきます・・・

## 脳性麻痺の方の介助ボランティア

- 私事：学生時代、重度の脳性麻痺の方の介助ボランティアをしていた。
- 一人暮らしで、24時間介助が必要な方であったが、当時の公的な在宅支援は月10時間くらいのヘルパー派遣のみ。
- 介助ボランティアを電話をかけてはスケジュールを埋めていた。
- 個人的には、おかしいな??とっていた。



## 障害をもった人が一人で暮らす権利はないのだろうか？

- 1950年代、脳性麻痺者の当事者団体「青い芝の会」が結成された。当時は、障害者に対する露骨な差別があり、家族が障害者の存在を隠そうとする傾向も強かった。脳性麻痺者の多くは外出を禁じられ、家族から厄介者扱いされるような状況であった。
- 1960年代から同会員の結婚や地域での自立生活が開始され、「脳性麻痺者が生まれ育った家や施設を出て、生活保護を受けながら地域社会で生活する」ことが行われるようになった。

**権利獲得のための当事者による闘争**

## 私見ですが・・・

- 四半世紀前に比べると、障害を持つ人が自立生活をおくる環境（サービス）は整ったと言えるかもしれない。
- 一方で自ら権利を主張して勝ち取ってきた人たちとは、権利を主張するといった気持ちは薄れているようにも見えた。（最初から与えられたもの）
- かつての障がい者運動を戦ってきた人たちから見ると「最近の若者は・・・」と見えているのかも・・・

**権利獲得のための戦いは終わった？**

## 障害者権利条約と障害者差別解消法

- 2006年、国連で「障害者の権利に関する条約」が合意に達した。審議過程では“Nothing about us without us”の言葉に象徴されるように、障害当事者が積極的に関与した。翌年日本も署名。
- 条約では障害の「医療モデル」から「社会モデル」の変更という考え方が反映されていた。



## 障害の医療モデルと社会モデル

- 「医療（個人）モデル」とは、障害者が困難に直面するのは「その人に障害があるから」であり、治さなければいけない対象となり、克服すべきものとする。それに対して「社会モデル」は、「社会こそが『障害（障壁）』をつくっており、それを取り除くのは社会の責務」と考える。
- 学校や職場、街のづくり、慣習や制度、文化、情報など、健常者を基準にしたものが多い。「社会モデル」では、**そうした社会のあり方こそが障害者に不利を強いている**と考える。「障害があるから不便」のではなく**「障害とともに生きることを拒否する社会であるから不便」**

**人として同じ権利を有しているはず**

## 障害の医療モデルと社会モデル



医療モデル



社会モデル

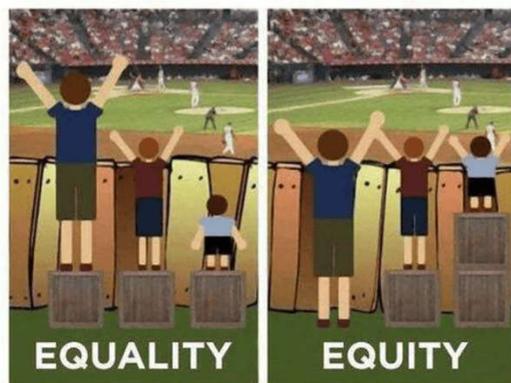
## 障害者差別解消法

- 国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に合わせて、国内法制度の整備の一環として、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、2013年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「**障害者差別解消法**」）が制定され、2016年4月1日から施行された。

## 障害者差別解消法

- **差別的取り扱いの禁止**  
行政機関、民間事業者は、障がい者を理由とした不当な差別的取り扱いを禁止。障がい者の権利利益を侵害してはならない。
- **合理的配慮の不提供の禁止**  
行政機関等が事業を行う際、障がい者から社会的隔壁の除去を必要とする意思表示があった場合、実施に伴う負担が荷重でないときは、社会的障壁を除去するために合理的な配慮をしなければならない。法改正により2024年4月より民間事業者も義務化となる。

## EqualityとEquity（均等と公平・公正）



## 紛争から建設的対話へ

- 障害学生支援の場で「紛争」というと、揉め事をイメージされる。しかし、大学等と学生等とが対立した状況で、自己の利益の実現のため、相互に要求と拒絶を行なっているプロセスを、「紛争」と理解する。
- 例えば、学生がエレベーターの設置を要求したのに対し、大学がコストを理由にその要求を受入れない状況（対立した状況）で、学生と大学が一步も譲らず、エレベーターの設置に関して相互に要求と拒絶をしているプロセスが「紛争」となる。

日本学生支援機構WEBサイトより一部改変

## 紛争から建設的対話へ

- 「建設的対話」とは、学生の抱える困難を解決するため、大学等と学生等がお互いに協調するプロセスをいう。
- 例えば、学生がエレベーターの設置を要求したのに対し、大学はコストを理由にその要求を受入れず、学生の困難を解消する代替案として教室変更措置を提案したとする。学生はその提案を納得して受入れる、加えてインターネット中継も希望し、大学が受け入れる、といったプロセスが「建設的対話」となる。
- ここでは、双方の意向と事情が考慮に入れられつつ、学生の困難の解決に向けた協力がなされている。

日本学生支援機構WEBサイトより一部改変

## アドボケイト（代弁者）としての役割

- 障害をもつ学生は、学生生活のさまざまな場面で、何らかの困り感をもっているかもしれない。
- しかし大学にいるのは数年で、これまで合理的配慮を受けていなかった場合には、自らの当たり前の権利だ、と大学に訴え要望することは難しいだろう。
- 自分の甘え、わがままではないかと考えていたり、あるいは言っても変な目で見られるのではないかと不安になる学生もいるかもしれない。

## アドボケイト（代弁者）としての役割

- 昨今、大学に入学したばかりの学生は、自ら権利を主張して行動を起こせる学生はあまりいないと考えた方がよいかもしれない。
- 障害学生を支援する教職員は最も身近な味方であることが望まれる。学生のアドボケイト（ともに権利を主張してくれる存在）でありたい。
- そうでなければ大学の権利を代表するものになってしまい、適切な合理的配慮には至らなくなる。

## 公平な態度

- アドボケートをしていくということは、学生の希望をそのまま叶えるといったわけではなく、社会正義に基づいた公平な態度も必要となる。支援担当の教職員は、障害学生支援についての専門的な知識を深めていく必要がある。
- 個別に学生との**コミュニケーション**をとりながら、より適切で公平な合理的配慮のあり方を考えていくことが求められる。



## 本質変更不可

- 合理的配慮は、学生間の機会平等を実現するものであり、また教育の本質を変更するものではない。機会平等が損なわれる事態と、事柄の本質が変更される事態は、ときに同時に生じる。
- 例：学生が、得意科目で習得した単位を、不得意な語学系科目・情報系科目の単位として認定してほしい（卒業要件を変更して単位認定をしてほしい）と要望したところ、大学がディプロマ・ポリシーの観点から、要望を認めなかった。この例では、学生の要望が、ディプロマ・ポリシーに照らして教育の本質部分を変更するか否か、他の学生との機会平等を損なうか否かが問題となる。

日本学生支援機構WEBサイトより

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。



紛争

建設的対話

アドボケート

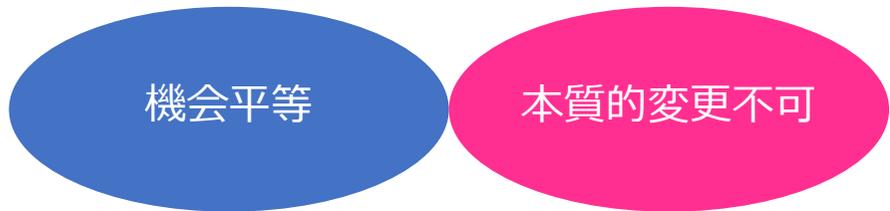
公平な態度

ディプロマ・ポリシー

個人特性への理解

対話・コミュニケーション

# 機会平等と本質的変更不可



# 当学での合理的配慮の実際



## 本学での合理的配慮

- WEBサイト上に案内
- 相談連絡先、申請書など進め方について記載
- 合理的配慮の除外例も記載

### 障がい学生支援相談員

近藤 尚也 講師 (看護福祉学部臨床福祉学科)  
西郷 達雄 講師 (心理科学部臨床心理学科)

## 障がい学生支援

本学では「障がい学生支援規程」に基づき、障がいのある学生への合理的配慮の提供に努めています。修学上の支援を希望する場合は、学生担任または学生支援課に相談してください。

### 【規程】

障がい学生支援規程

### 【合理的配慮の流れ】

1. 現在の状況や配慮・支援を希望する事項について相談  
学生担任または学生支援課にまずはご相談ください。  
困りごとを確認し、関係部署と協力の上、希望する支援内容について相談します。  
※障がい学生支援相談員、学部担当事務課、保健センター、学生相談室も相談に対応しています。
2. 合理的配慮申請書の提出  
希望する申請内容を記入した合理的配慮申請書を学生支援課に提出していただきます。
3. 支援計画の策定・支援開始  
申請内容に基づき、所属学部及び障がい学生支援委員会が支援計画（支援内容）を策定します。支援計画について学生の同意が得られた後、支援を開始します。

### 【合理的配慮に含まれないもの】

以下に該当すると判断される内容は合理的配慮として提供することはできません。

1. 教育に関わる本質的な変更を伴うもの
2. 存続性、有効性において、効果を実した又は過度な負担を課すもの
3. 教育と直接関係のない個人的な生活全般にわたる支援に該当するもの

### 【入学試験における配慮】

入学試験において配慮を希望される方は入試広報課へお問い合わせください。

北海道医療大学WEBサイトより

## 当学でのこれまでの合理的配慮の実際

| 障害等内容 | 配慮・支援内容等  |
|-------|---|
| 2018  | 授業担当者へ配慮依頼(授業中の薬服用、飲料、氷嚢等の使用、楽な姿勢、室温調整、重いものを持たせない等)                         |
|       | UDトーク、iPad導入(教員の音声の文字化)による支援。副担任の配置(相談体制の構築)                                |
|       | 講義中の一時退席、遅刻、後部席配置への配慮   |
| 2020  | 授業や試験時の吸入器の使用、授業時の吸入前後の飲水   |
|       | 空気が悪いときは廊下に出て呼吸を整える。保健室で休ませてもらう、車椅子で迎えに来てもらう。                               |
|       | パソコンの使用許可配慮   |
|       | 発作止めが効かない場合は保護者連絡。体力が無く、基本的に運動は難しい。運動をした後体力が落ちていたり発作が起りやすく、発作止めが効かない場合は親へ連絡 |
| 2021  | 講義科目は、可能な限り録画。一部レジュメの電子配信   |
| 2022  | ネックチーフ使用、携帯加湿器の使用   |
|       | 体育見学  |

## 入学者数に対しての新規合理的配慮

|        | 全学入学者数 | 新規合理的配慮<br>学生数 | 合理的配慮割合<br>(%) |
|--------|--------|----------------|----------------|
| 2021年度 | 720    | 1              | 0.1            |
| 2022年度 | 770    | 2              | 0.3            |

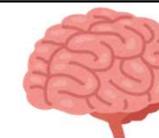


## 特に精神疾患・神経発達症への合理的配慮が少ない

- 5年間で身体疾患8名に対して、精神疾患・神経発達症は3名（神経発達症は1名）、1名は身体・精神疾患重複
- 身体疾患に比べて、**障害の本質が見えにくい**。
- 本人の不適切な言動や行動が、性格的な要素（なまけもの、やる気がない、反抗的など）に捉えられ、誤解されていることがしばしばある。
- 教員からみると、**陰性感情（腹がたつ）**が生じやすい。

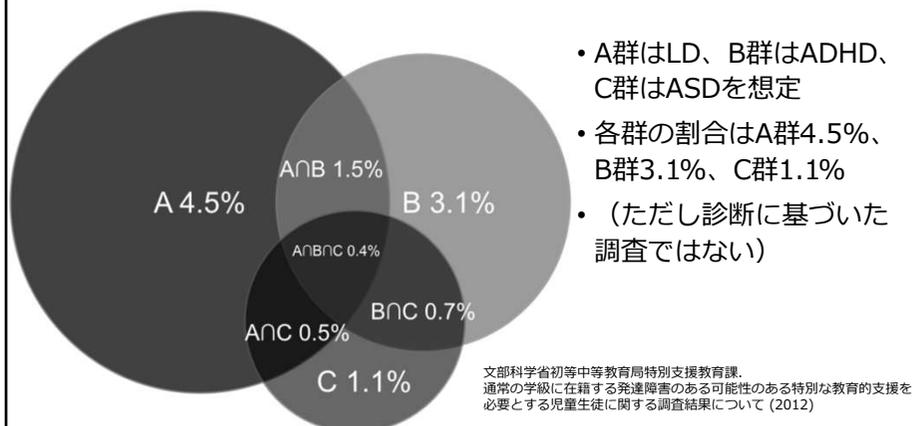


## 神経発達症

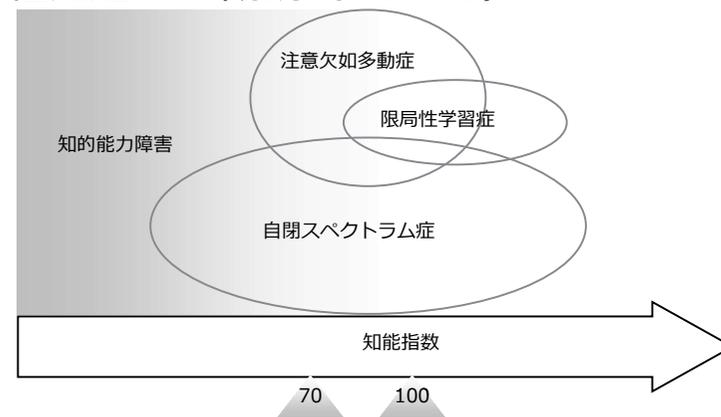


- 神経発達症（発達障害）と呼ばれてきた、脳の機能的な多様性による症候群
- 一つの疾患ではなく、発達期に生じた複数の疾患概念を総称したもの。
- DSM-5における自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）を取り上げる。
- さらに知的能力障害、発達性協調運動症（DCD）、チック症、コミュニケーション症などが神経発達症に含まれる。

## 通常学級にも神経発達症はたくさんいるかも・・・



## 神経発達症の概観 (DSM-5)



## 自閉スペクトラム症



- 社会的コミュニケーションおよび対人相互反応の欠陥および、行動、興味、活動の限定された反復的な様式を特徴とする。
- 暗黙のルールの理解が苦手
- 場の空気を読まない言葉、行動

## 自閉スペクトラム症の大学生



- 教職員からいわれたことを正確に理解できず、指示通りできない、ことなった行動をする。
- 会話で細部にこだわる一方で本質的から外れたやりとりをする。
- 良好な対人関係を構築できず、集団から孤立する。
- 場にそぐわない発言などで、周囲の人の気分を害する。
- 緊張や不安が高まったときに、感情をコントロールできず、急に退室してしまう。

## 授業などでの対応

- 授業や提出物などについてはルールを明確にしておく。  
(曖昧な指示理解が困難)
- 学外実習などでは、事前に実習施設を見学する。  
(言葉から想像するのは苦手だが、実際に見たり経験したことからは学びやすい)
- 援助希求しやすい窓口

## 注意欠如多動症 (ADHD)

- 不注意と多動・衝動性を特徴とする。
- 有病率は子どもの約5%、成人の約2.5%と神経発達症でもっとも多い。
- 多動・衝動性は年少男児に多く、目立つ。
- 不注意のみの症例は女兒や年長者に多い。目立たない。



## 注意欠如多動症の大学生



- 誤字脱字、ケアレスミスが多い。メールなどでも添付ファイル忘れや宛先を間違う
- 大事なもの、スケジュールを忘れる
- 片付け、計画的な行動が苦手
- 優先順位をつけられず、とっちらかる
- 失敗経験が多く、叱責されることが多い場合、自己肯定感が低い学生もいる

## 授業などでの対応

- 気が散りにくい環境づくり (座席、パーティション、雑音)
- 締め切りの延長は、さらに延びるので??
- 長時間の集中が難しく、適宜休みをとる。
- 一緒に計画をたててみる。タスクを細かく分けていく。

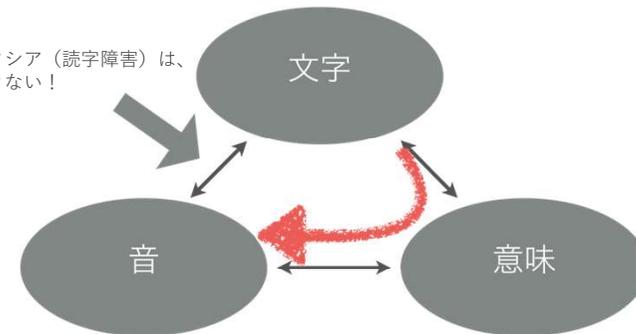
## 限局性学習症 (SLD)

- 読字の困難(dyslexia)、書字の困難(dysgraphia)、算数の困難(dyscalculia)があり、適切な介入が行われても存在する。
- 暦年齢・知的能力に比較して、著明にかつ定量的に低く、学業や職業遂行能力に影響を及ぼす。
- 知的能力障害や感覚器の障害ではない。



## 意味・音・文字

ディスレクシア（読字障害）は、  
ここができない！



## 限局性学習症の大学生



- 読み：読むのに時間がかかる。読んでも頭に入っていない。英語が極端に苦手。
- 書き：漢字が書けない。手書きの提出物の文字が乱れる。自分で書いた文章をあとで読めない。

## 授業などでの対応

- 試験時間の延長
- 読み上げソフト、アプリの活用
- 漢字のルビ振り
- レポートはパソコンで
- 音声入力ソフトの活用
- 口述試験
- 書籍の電子化
- 板書の撮影

## 神経発達症がなぜ大学で配慮されにくいのか？

- 診断をうけておらず、本人にもその自覚がない。
- 診断や自覚があっても、合理的配慮を受けられるといった知識がない。
- 合理的配慮について知っていても、窓口を知らない、申請する気持ちになれない。

**啓発活動とアドボケイトとが必要かもしれません**

## 合理的配慮の難しい場面

- ディプロマ・ポリシーが求めるような、学びの本質的な部分と障害学生のもつ困難が近接する場面
- 例えば、実習場面で患者さんに共感的に話を聞かなければいけない課題を「コミュニケーション」に障害を抱える学生に求めなければいけないとき

**午後のワークショップで取り上げていただきます**

## 合理的配慮の実践へ向けての課題

- ✓対象となる障害の判断（その根拠資料のあり方）
- ✓合理的配慮として何をどこまでするのか
- ✓個人の教員（あるいは相談担当者）が決めるのではなく、大学全体として、実践を積み重ね共有していく必要がある

## Take Home Message

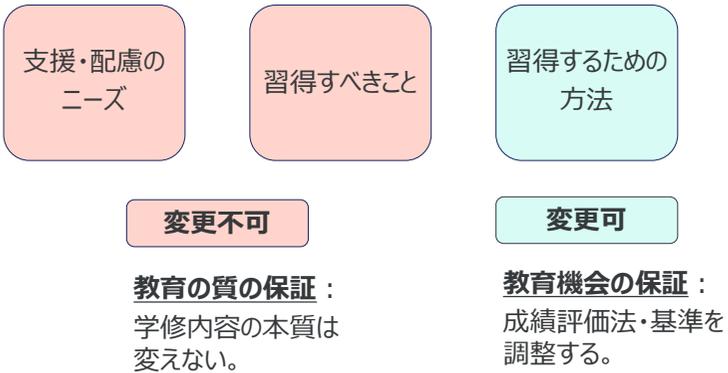
- ✓学生だけでなく国民みな、合理的配慮を受ける権利がある
- ✓紛争→建設的対話→アドボケイト
- ✓見えにくい障害には、教職員の知識を深める努力も必要



Thank you for listening!

## 合理的配慮を必要とする学生への 効果的な支援体制の確立に向け － 発達障害に対する 臨地実習での合理的配慮 －

## 合理的配慮の基本的な考え方



## 医療系教育の質の保証に必要なこと

- 学修内容の本質は変えない。
- 医療職として**プロフェッショナリズムを育成**する（資料）\*。
- 臨地実習では、教育の質を維持するため、**患者の安全確保**が必須となる（安全配慮義務）。

\* <引用> アンプロフェッショナルな学生の評価  
京都大学医学部学務委員会臨床実習倫理評価小委員会

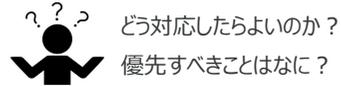
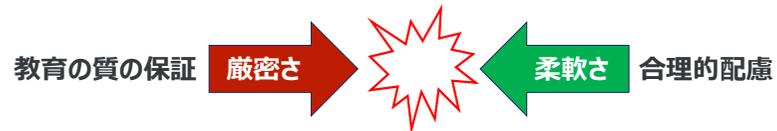
## 発達障害をもつ方の特性

**臨地実習で顕著化する**障害特性は以下の通りある\*。これらは、プロフェッショナリズムまたは安全配慮に影響することがほとんどである。

- ① 初めての学修スタイルへの不安
  - 見通しがもてない
  - 新奇なことへの不安が先立ち、落ち着いて状況を把握できない
- ② 臨機応変な対応
  - 急な予定の変更や突然の指示にうろたえる
- ③ 対人的コミュニケーション
  - 実習担当者との関係・実習生同士・利用者（患者・家族）との関係
- ④ 「事前の相談」「途中の連絡」「事後の報告」
  - 組織、チームとしての役割や、その必要性を認識しにくい
- ⑤ 精神的な緊張感や疲れの自覚
  - 体調の悪さを自覚できない、疲れや緊張のバロメーターがわからない

\* <引用> 独立行政法人日本学生支援機構 令和2年度 障害学生支援専門テーマ別セミナー  
西村優紀美 基調講演「発達障害学生に対する学修支援の在り方～資格取得に係る学部の合理的配慮に関して～」

## 教育の質の保証と合理的配慮の間に生じる問題



特に一見して障害が分かりづらく、臨地実習で苦手とすることが多く求められる発達障害をもつ又は疑われる学生について、教員と実習指導者で、この問題が生じる。

## グループディスカッション

### 課題 1

発達障害をもつ又は疑われる学生について、臨地実習で生じる場面・問題点を具体的に挙げてください。なお、先述の各①～⑤特性に関することに限ってください。

### 課題 2

課題 1 で挙げた各場面・問題点に対する、配慮支援・教育支援策を考えてください。ただし、“医療系教育の質”は保証してください。また、支援内容によっては、方策にスモールステップ\*の考えを反映してください。

\*小さな目標を立てながら少しずつ最終的な目標に近づけてゆく方法

ワークショップ  
プロダクト

# 2023年度 全学FD研修



レクチャー、ワークショップ

テーマ1 「ChatGPTを活用した低学力学生への学習支援方法の  
開発を目指して」

鹿内浩樹 (薬) 進藤つぐみ (薬) 山城寿樹 (薬)  
根津尚史 (歯) 永野恵司 (歯)  
船橋久美子 (看) 橋本菊次郎 (福)

20230803

## 1.ChatGPTは意外と使える



- 使ってみて、思ったより使いやすく、親しみやすかった。

EX.

- 国試問題の作成・解答・解説も可能！
- AIに「役割」を設定してディスカッションを体験
- 「低学力学生は何がわからない？」への回答
- どのような話題でも質問できた！

国試問題の作成・解答・解説も可能！

Default (GPT-3.5)



橋本

フロイトに関する問題を作ってください。

ChatGPT-4を使えばさらに精度の良い回答が得られる。



問題：心理学者フロイトは、心の構造や発達に関する理論を提唱しました。彼の理論によれば、幼児期の重要な発達課題は何でしょうか？

- エディプスコンプレックスの解決
- アイデンティティの確立
- 共感と協力の発達
- 形式思考の発展
- 社会規範の習得

Regenerate

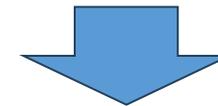
Send a message

Free Research Preview. ChatGPT may produce inaccurate information about people, places, or facts. ChatGPT\_July20\_Version

## 2.ChatGPTを対象学生に どう使ってもらおうか



- 実際には、正確な情報（プロンプト）を伝えないと効果的な回答が得られないため、そこに問題のある低学力学生にとっては課題となる。



- 学生に積極的に活用させる

AIに「役割」を設定してディスカッションを体験

“推しのアバター”

好き♡ならつづけられる！

### 3.ChatGPTの活用のきっかけづくりと継続するために



- ・ **きっかけづくり**  
→ 関心のある主題、趣味から始める（推しアバターに質問させる）  
→ **どのような話題でも質問できた！**
- ・ **低学力の学生に対して**  
→ 楽しむ、親しむという機会づくり、きっかけから、ロジカルな文章を読む・書く機会とする。  
→ 推しアバターと対話させる形（学生は関心を持つ）で、自分の問題に気付かせる。
- ・ **継続のために**  
→ 授業にChatGPTの活用を取り入れる

### 4. ChatGPTを使いこなせるカリキュラム



学生が正しく活用できるように、**ChatGPT**の使用方法に関する講義を行う。

全学的なレクチャー（現在すでに実施中）

+

学部・学科に求められる学修目標に沿ったGPT  
（継続的に使う）

EX. 紙上事例で行っている演習を、APIを活用し事例患者設定を事前に行うことで、学生が自らアバター（事例患者さん）に語りかけながら主体的な情報収集ができる。

### 5.ChatGPTを使いこなせたら



- ・ **学生の思考の言語化力の改善**  
→ わからないことを言葉で伝えられるように工夫する力が身につく  
→ 客観的に物事を考えられる力が身につく
- ・ **アバターとの会話を通して自己分析が可能**  
→ 自分の苦手・わからない部分を見つけられる。  
→ 簡易的な問題解決ツールとして利用できる。
- ・ **前向きに学習を取り組むきっかけづくり**  
→ これまでの机に向かって行うだけの学習ではなく、より手軽に学習に向き合いやすくなる。  
→ 隙間時間を利用した学習がより充実したものになる。

学生の思考力  
アップ

現実のコミュニケーション力の向上

### ご清聴ありがとうございました。



こちらもAIにより生成されたイラスト(アバター)になります。  
[Memeplex.app](#)

## 参考) ChatGPT3.5 の体験を体験して



- ・薬学部の場合、レポートは少ない。低学力の苦手分野に特化して問題を作る  
→手間が省ける。繰り返し、問題を作れます。
- ・学生によって調べる質量が違う  
→低学力の学生は、問題を読み解けてない。  
→ChatGPTに出題の仕方をヒント貰える。
- ・勉強の仕方がわからない学生が多い。苦手な部分を出してもらって、勉強方法を提案してもらう。一連の流れを押させつつ助言等が得られるので、相談相手のように使えると思った。

## 参考) ChatGPT3.5 の体験を体験して



- ・ロールプレイングなど学生にしたら優しいので、学生にとっては良いかもしれない。
- ・批判的な思考について→ChatGPT+教員
- ・低学力の学生をどのように使わせるか？（ロジカルな説明ができないと使えない？）

## 参考) ChatGPT3.5 の体験を体験して



- ・何をしたら良いかわからない学生に対して
- できるだけ、開かれた質問をさせるように
- 最初の質問は教員が決める？
- 質問テンプレートを用意する。
- テスト問題として、誤りを指摘させるもの。
- 学生が使うより、教員がChatGPTを使って、まずは教員側が
- ChatGPT側に質問してもらい、学生が答えるスタイルもできるか。  
(立場を逆転させる)

## 参考) ChatGPT3.5 の体験を体験して



- レポートができている学生は試験も高得点。
- ChatGPTでレポート作成してくる学生は、そのまま（読まずに）提出しそう。試験もできない。
- 楽しむ、親しむという機会づくり、きっかけから、ロジカルな文章を読む機会とする。
- 「ただ、使ってごらん」ではダメ。
- アバター使ったりすると、親しみやすい。

## 発達障害に対する 臨地実習での合理的配慮

### 課題1

発達障害をもつまたは疑われる学生について、臨地実習で生じる場面・問題点を具体的に挙げてください。

### 課題2

課題1で挙げた各場面・問題点に対する、配慮支援・教育支援策を考えてください。但し、医療系教育の質の保証してください。支援内容によっては、方策ステップの考えを反映してください

## 報連相ができない

### 【現象】

- 評価、訓練で勝手な行動をとる
- 虚偽報告をしてしまう
- 遅刻、早退に関することを自己判断してしまう

### 【原因】

- 具体的に言われないと適切な行動ができない
- 想定外の対応ができない
- 優先順位が付けられない

## 対応方法

### 【臨地実習に行くまで】

- 困っていることを言語化できるよう訓練
- 教員へ相談する習慣づけ
- 困ったときのマニュアル作成
  - 学生の特性に合わせた対応を検討
  - 1年生から教員同士で情報共有

### 【臨地実習に行ってから】

- 質問する時間を設けて頂く（報連相しやすい環境作り）
- 指導者側から定期的な確認作業

## 適切なコミュニケーションがとれない

### 【現象】

- 挨拶ができない
- 必要な情報収集ができない
- 失言をしてしまう
- フリートークができない

### 【原因】

- 日常的、一般的ルールが理解できない
- 相手の気持ちを想像できない
- 共感性がもてない
- 会話の仕方を知らない

## 対応方法

### 【臨地実習に行くまで】

- 低学年時からの挨拶指導
- 自身の会話の特徴を理解する
- 自身のコミュニケーション能力を把握する
- コミュニケーション技術を習得する
- 会話フォーマットの作成
- 振り返りを事後にする
- 接遇マナー講師による講義の活用

### 【臨地実習に行ってから】

- 問題が起こった後に何がいけなかったか、どうしたらよかったかを振り返る
- 作成したフォーマットを活用する

## まとめ

合理的配慮を受けながら臨地実習を終えられるために

- 低学年時からのコミュニケーション教育
- 教員の援助がなくても遂行できるようにする
- 発達障害に対する理解を深める

# ワークショップ 感想

実際に ChatGPT を体験して、学生の学習支援における有用性及び教育ツールとしての可能性に感動いたしました。研修会のテーマに沿って考えると、ChatGPT は使い方によっては低学力の学生に対して「個別に適したサポートが提供できる」という点が考えられました。学生が自分のペースで学び、理解しやすい形で情報を得ることができる、という意味で非常に効果的に利用できると思いました。

しかしながら、低学力の学生に特有の問題点も浮き彫りになりました。低学力学生は、①プロンプトに対する理解が甘い、②学習に生成系 AI を利用しようという意欲が低い、という可能性が議論になりました。これらの課題を克服するためには、AI を利用した学習のメリットや可能性を具体的に示すとともに、教員側からの継続的なサポートが必要となる、ということで意見交換がされました。

総じて、ChatGPT の導入は大きな可能性を秘めたものだと感じました。まずは各教員がいろいろ導入して活用に挑戦し、その事例を基にして、より良い使い方について今後議論、共有したいと思っています。

(薬学部 鹿内 浩樹)

「AI」を使った学習・教育についてという、これまでとは異なった学習方法を開拓していくことができ、とても勉強になりました。

実際に ChatGPT を使用してみると、思っていたよりも便利で高機能なものであることがわかり、これからもっと幅広い分野で活用されていく機能であると思います。だからこそ、使いこなす技術がとても重要で、使用者によって可能性の幅が広くも狭くもなると感じます。

自分も含め、学生さんにもこういった AI の活用方法や具体例などのアドバイスについて専門家から受けられる機会を、もっと増やすべきであると感じたとともに、これからの AI の可能性に期待が膨らみました。

まずは、自分の自己研鑽に上手く利用できないかを模索し、効果的な方法を見出せるよう、AI に触れる機会を増やしていこうと考えています。

(薬学部 進藤 つぐみ)

本日、テーマ1の「ChatGPT を活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」についてワークショップに参加いたしました。終始、忌憚のない意見を述べさせていただき、また参加者の皆様も活発に議論しており、大変有意義なものでした。これまで噂程度にしか認識していなかった ChatGPT を実際に利用できたのも大変よかったです。実習課題と同じ内容や、低学力の学生に対する対応策について尋ねると、概ねヒトと同じレベルの解答が得られた上に、定期試験や国家試験の問題・回答の作成まで ChatGPT はこなしてみせました。このことから、

ChatGPTには非常に多くの可能性が秘められていると感じました。しかし、聞き方によっては期待する答えが得られないし、その解答の信憑性に不安が残ると感じました。ワークショップ参加者の間では、その共通認識を得たものと思います。ですが、大学の google アカウントで登録ができるため、利用のハードルが大変低く、ぜひ今回の参加者だけでなく、ぜひ学生だけでなく教員にも ChatGPT を利用してもらいたいと感じました。

(薬学部 山城 寿樹)

この FD では、サブグループ「ChatGPT を活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」に参加した。話題の生成系 AI については、ニュース等で知る程度の知識しかない状態で臨んだため、参加時点では教育、それも低学力・要支援学生への教育に人が介在しない自動「教育」が適切なのか、むしろ疑念を感じていた。しかし、二つの講演を聞き、実際に ChatGPT を試用してみると、問いに対して予想を上回るレベルの回答がなされることに驚いた。その上で、回答に至るプロセスがブラックボックスであること、解決に向けた方法論に従ったものではなく、ランダムに作成した無数のストーリーを篩にかけて生き残った「数打てば当たる」結果が提示されていることを考えると、利用場面を適切に選んで活用するのが良いという印象を強くした。

グループワークを通して、生成系 AI を良い方向に活用しようとポジティブに取り組む姿勢の教員が少なくないことを心強く感じた。グループディスカッションのプロダクトにもまとめられたように、学生が自主的に学習するきっかけ作りの(=敷居を低くする)ツールとして教育に取り入れる価値が十分にあると認識できたほか、試験・演習問題にバリエーションを与えて学生に物事を多面的に考えさせる使い方は特に有効であると感じた。また、ChatGPT の利用に際して「良い答(アウトプット)を得るためには良い質問(インプット)が重要である」ことは、利用者の論理レベルを向上させるトレーニングになり、ツールの利用自体が教育となるという発見があった。

今後、生成系 AI の教育活用を(是非も含めて)論じたり、生成系 AI を利用した教育コンテンツ作りを試行したりする全学教員 FD を設けてみるのも一案かもしれない。

(歯学部 根津 尚史)

午前に行われた二瓶 先生の生成系 AI に関する講演は、たいへんわかりやすく、ChatGPT の概要を理解することができた。また、柳生 先生の合理的配慮の必要な学生対応に関する講演では、教員が対応可能なことと不可能なことについて、具体的に示されていて、わかりやすく勉強になった。午後のワークショップで

は、生成系 AI を学生指導に利用する方法について、実際に ChatGPT を使用しながら議論した。ここでも、二瓶 先生から使用方法を教えてくださいながら行うことができたので、有意義な体験をすることができた。一方、グループ内の議論はかみ合わないことが多く、また、すぐに脱線してしまい、議論を深められなかったと思う。ワークショップの原則として、ファシリテーターはあまり口を出さないことになっているようだが、時間に限りがあるので、議論がそれいていると思われる場合は、躊躇せず介入して欲しいと思う。

(歯学部 永野 恵司)

今回の FD 研修会では、合理的配慮を必要とする学生に対して、臨床実習で生じうる場面を想定し、医療系教育の質を保証しながら、どのような配慮や支援が可能かを話し合った。

話し合いを通して、合理的配慮を有する学生、特に発達障害をもつ学生の問題の多様性ととも、合理的配慮を行う際は画一的な対応ではなく個人の状態に応じた対応が必要であることを改めて実感した。また、通常の業務の中でこうした対応を行う際の教員の負担を減らすためにも、学生の面談情報や実習で生じた問題を効率的に共有するなど、個別対応を組織的に行う枠組みの必要性を感じた。こうした対応は、合理的配慮が必要な学生だけでなく、他の学生に対応する際にも良い影響を生み出すと考えられるので、学生すべてにおいて実行していくことが重要であると考えられる。そうすることで問題が顕在化していない学生が実習先でトラブルを起こすことの予防にもつながることが期待される。

(歯学部 松岡 紘史)

今回、テーマ(1)「ChatGPT を活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」で参加しました。

参加前の私の心情としましては、学生の ChatGPT の使用に関しては、報道等ではネガティブなとらえ方が多く、私もその一人でありましたが、「どこか活用できるものがあれば…」という思いもあり、テーマ(1)を希望したという経緯がありました。

参加前の自身の ChatGPT の使用状況としては、試しでやった程度で、今回レクチャーのあった本来の使用法についての知識は皆無でした。午前中のレクチャーでは、実際の使用法、活用の可能性について学ぶ機会となり、勉強になりました。午後はグループでの討議を行い、「低学力学生への学習支援方法の開発」ということで、プロダクト作成に向けてディスカッションしました。ディスカッションでは、低学力学生の対応について各先生からの報告もあり、本学学生の幅のある学力に応じた教育展開・取り組みが必要であることが共通認識できました。

「ChatGPT を使いこなす」ことが前提になりますが、その活用を具体的に検討し、導入できるというグループの結論ですが、「使いこなす」ことへのリテラシー、スキルを持たせるまでのプロセスも十分な協議や検討が必要だと考えました。

有意義な内容で、大変勉強になった全学 FD 研修でした。

(看護福祉学部 橋本 菊次郎)

Chat GPT の活用には、批判的観点をもって回答の正当性を検証することが重要だということを学ぶことができた。そのためには、生成系 AI が時系列データとして文章を捉えているという特徴や、どのような場面で活用できるかを見極めることが必要である。研修を通して、試験問題の作成や文献検索など、さまざまな側面から活用が可能であることを理解することができた。今後は、活用のために自身が Chat GPT に多く触れる機会をつくっていく必要があること、そして教育への活用として、現在紙上事例で行っている演習を、API により事例情報を設定することで、学生がアバター(事例患者)と対話しながら情報収集していくといった、アクティブラーニングにつなげることができるのではないかと考えている。また、学生が正しく活用するためにも、授業に積極的に取り入れながら、どのように質問することで適切な回答を得やすいのか、得られた回答をどのように解釈するとよいかをディスカッションするというように、回答を導き出すための一つの手段として活用できるよう教育していくことが必要だと考える。

(看護福祉学部 船橋 久美子)

今回のワークショップを通して特に学んだことは、合理的配慮を行う上で重要なことは、教員が発達障害についての理解を深めた上で、問題となる現象が起こっている原因の明確化と、それに応じた対応を検討していくことだ。これまで自分は、学生の問題となる現象に焦点を当て、性格的な要素としてとらえがちであった。しかしそれでは、学生に合わせた合理的配慮は十分に行えないと感じた。他学部の先生方から、学生の現象に対する原因の分析、およびそれに対する様々な対応策が出ており、自分にはない視点からの意見も多く大変勉強になった。当学科においても精神疾患を抱える学生が入学しており、今年度よりその学生は実習に行くこととなる。今回のワークショップを通して、特に低学年からの継続的な配慮が重要であると明らかとなったため、今後担任や領域間で情報を共有しながら、学科の教員がチームとなり個々の学生に合わせて継続的に学修を支援していきたいと考える。

(看護福祉学部 新見 千穂)

合理的配慮に関する概念については全学で理解していただいたように思えま

す。しかし、いざ実際に困っている学生に対して、本学での合理的配慮の申請方法については知っている先生は少ないかもしれません。本学での申請方法についてアナウンスが必要だと思いました。また実際に合理的配慮の例を挙げている合理的配慮ハンドブックというものがありますので、教職員全員で共有してもよいかと思いました。

チャット GPT については、二瓶先生が低学年次の学生に対してきちんと使い方を教えた方がいいなと思いました。二瓶先生の利用方法に関する説明が非常に分かりやすかったです。自分はまだインストールしていなかったのも、大変助かりました。また、自分の教科のレポート課題ではチャット GPT は使ってはいけないと説明しております。R6 年度の「多職種連携」でも利用してよいのか悪いのか、はっきりと伝えておいたほうが良いなと思ったところです(心理の多職種連携担当は私なので)。

(心理科学部 西郷 達雄)

今年度の FD 研修テーマは、「学生を中心とした教育をすすめるために 低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系 AI 活用への探索」であった。午前実施されたレクチャーでは、生成系 AI の現状や合理的配慮、特に発達障害に関する状況を知ることができ、とても参考になる内容であった。

ワークショップでは、「合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けて」というテーマで臨床実習をイメージした支援体制について議論したが、各学部学科教員が臨床実習で様々な問題事例のもとで苦労している現状が共有できた。また、対応策を考えるにあたっては、問題意識が高いテーマであったことから、全員が積極的かつ活発に討論に参加し、様々な意見交換をする中で学部学科を越えた教員同士の良い交流機会となった。ワークショップ全体としては、合理的配慮という問題を見つめ直す有意義な研修であったと感じた。

(リハビリテーション科学部 山口 明彦)

私は「合理的配慮」に関するテーマでのワークショップに参加しました。

事前に合理的配慮に関する柳生先生の小児神経医としての知見や経験を踏まえたお話を聴くことができ、大変勉強になりました。神経発達症の基本的な知識を踏まえると、合理的配慮について考えやすくなると感じました。

その内容を踏まえグループワークに参加し、他学部他学科の先生方とも学生指導に関する現状の問題点を共有し、解決策について議論できたことで大変有意義な機会となりました。私は特別支援学校で勤務していた経験があり、その現場における合理的配慮については理解していたつもりですが、医療系大学の学生に対する合理的配慮という点ではまた違った観点での学びが深まりました。ただ合理的

配慮を考えるケースなのか、それ以前に職業適正の問題なのかといった部分など、やはり難しい課題だと改めて感じました。

今回のFD研修会を通じ、私自身新たな学びを多く得ることができました。今後の学生指導や研究活動等に役立てていきたいと思えます。

(リハビリテーション科学部 依田 泰知)

合理的配慮についての講話やグループワークを通して、合理的配慮をするために、大学内でシステムを作ったり、運用していく難しさを感じました。グループワークでは、各学科の実習体制や合理的配慮(それ相当も含む)が必要な学生の状況等、意見交換ができ、大変参考になりました。発達障がいをもつ学生の対応として、マニュアル化・システム化をすることで、特性があっても単位習得しやすくなることかと思えますが、実習のように臨機応変な対応が求められたり、相手の意図や状況を推測するような場面では、マニュアル化することが難しいと感じました。医療系大学に通う学生への合理的配慮は、全国的にも実例が少ないため、他大学での例を参考にしながら、大学内で情報共有し、ケースを重ねていくことが必要と感じます。一方で、実習は学科ごとに体制等が異なるため(実習にでる学年、実習に教員が同行して指導するか否か等)、学科ごとにも方針や対応を考えていかなければならないものだと思います。また、言語聴覚療学科の場合、リハビリの対象が発達障がいをもつ人が苦手とするコミュニケーションであるため、“学修目標を変えずに、達成できる術を考える”というのがとても難しい課題となるだろうと感じました。

(リハビリテーション科学部 辻村 礼央奈)

今回私の参加したテーマは、「発達障害に対する臨地実習での合理的配慮」についてで、非常に難しい課題でした。臨地実習で実際に生じている問題として大きく二つ挙げディスカッション致しました。一つは「報連相ができない」で、その原因として具体的な指導がないと行動ができず、想定外の対応もできない、そもそも優先順位をつけ行動することができないなどありました。もう一つは「適切なコミュニケーションがとれない」で、相手の気持ちを想像できないことから、フリートークも苦手で治療方針決定やケアに必要な情報収集ができないなどありました。対策方法として低学年時からのコミュニケーション教育など挙げられましたが、我々教育者側も改めて発達障害に対する理解を深め、学生個々人と向かい合っていかなければならないことを改めて感じました。学部間の垣根を払った形でのディスカッションは非常に有意義であり、他学部でも同様な問題に直面していることが分かり、諦めた教育ではなく、少しずつでも改善していく教育方針であることに感銘を受け、自身も見習っていきたく感じました。

最後になりましたが、御指導いただきました FD 委員の先生方に感謝申し上げます。

(医療技術学部 丸川 活司)

今回、私たちのグループは「発達障害に対する臨地実習での合理的配慮」についてのテーマを討議させていただきました。

実際に、発達障害や発達障害疑いがある学生の対応を真剣に考える機会がありませんでした。

改めて発達障害の特性を再確認することができました。

グループワークでは、「医療人を目指している学生が、コミュニケーションがとれない」、「報連相ができない」などの事例が挙げられた。

このことから、会話フォーマットの作成、低学年時から挨拶の練習、教員と学生との報告・連絡・相談や個人面談、実習後のリフレクションなどを密に行い、不安な気持ちや体調不良などを早期に発見することが重要であると感じました。

今後の課題として、低学年時からのコミュニケーション教育を行ったり、発達障害に対する理解を深めることや、教員の援助がなくても遂行できるように支援したり、学修内容を変えず個々のニーズに応じて対応するなど教員間でも共有しながら支援の在り方を考えていかななくてはなりません。私たち教員の立場でも相手の立場になって物事を考え伝えていきたいと改めて思いました。

今回のグループワークで得たことは今後実践できたらと思います。

FD 研修をしていただきました委員の先生方にこの場をお借りし感謝いたします。

(歯科衛生士専門学校 山形 摩紗)

## F D 委員 感想

令和5年8月3日に、「低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系AI活用への探索」というテーマで、平成5年度全学FD研修会が開催された。午前中のレクチャーでは、「生成系AIの現状と活用」(薬学部、二瓶裕之教授)および「合理的配慮の考え方と実践」(心理科学部、柳生一自教授)というテーマで講演が行われ、本テーマに関する最新の考え方が紹介された。午後は2グループに分かれてグループワークが行われた。筆者はファシリテーターとして、「ChatGPTを活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」というテーマのグループワークを拝聴した。討論の最初では、「学生がChatGPTを使用してレポートを作成してくるのではないか。」といったネガティブな懸念が話し合われたが、逆にレポートや研究計画の作成にChatGPTを用いて学生を指導した事例が紹介され、「どのようにChatGPTを教育活動に活用してゆくか。」というポジティブな方向で討論が行われた。そして、「試験問題の作成に使用する」、「試験問題に誤りがないかチェックする」、「学生が質問しながら自習できるようにする」などのアイデアが出された。今後、良くも悪くも生成系AIが生活のあらゆる場面に浸透してくるのは必至であると考えられ、むしろ教育活動に積極的に生かす方策を今から考えてゆくことは大きな意義があると思われた。

(薬学部 泉 剛)

グループ1の課題「ChatGPTを活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」のワークショップにFTとして参加した。午前中の二瓶先生による講義で、遅ればせながらChatGPTが将来の教育システムを変えてしまう可能性を強く感じた。午後は二瓶先生からChatGPTの実際の使用方法を指導してもらい、慣れたところで8名の先生方による課題についての議論が始まった。根津先生がリーダー役となり、若い先生方の意見を聞き出す形で順調に進行した。各学部で状況は異なるが、共通して学力低下の学生が増えている中、ChatGPTの活用策が色々と挙げられた。学生数が多く教員数が少ない薬学部では、教員の代わりにAIを使用することで、個別指導の負担軽減に繋がる可能性を感じた。まずは低学力の学生がAIに興味を示すための試みとして、人気アニメなどのアバターを活用することで使用のハードルを下げる工夫が必要と提案された。教員側としての活用策としては、国家試験対策等の作問業務や論文作成の負担を軽減できることが分かり大変有意義であった。以上のことから、ChatGPTは今後の教育・研究業務を劇的に変えることが推察された。最近増えている文章の内容を読み取れない学生がChatGPTに触れることで、読解力が向上するならば素晴らしい活用方法と思う。本日のFD研修では、60歳にして多くの気づきが生まれたので、今後も生成AI活用策を継続的に学ぶことで、時代の流れに取り残されないように精進したい。

(薬学部 小島 弘幸)

この度、久しぶりに全学FD研修に参加した。2つのテーマはどの教員も関心を寄せ、学びの必要性を感じている適切なテーマであったと思う。ICT系が不得意な私には、実演を交えてChat GTPの活用方法や留意点を学べた収穫は大きく、学生の思考力を奪うのではという危惧は使い方次第で良い教育ツールになり得る可能性が見えて来てワクワクした。

合理的配慮の根幹にある深い思想に触れられたことも印象深く、変えるのは教育方法だけであること、学生の特性に合った配慮を創造し、教育目標は変えずにその達成を目指すという考え方が腑に落ちた。ワークショップでの職種を超えた先生たちの連携力は素晴らしく、学生の困りごとを一緒に困りながらより良い支援方法を探ってきた経験や知識が、意味のあるまとまりとしてプロダクトされたと思う。何事始めるにあたって今ある地点を知ることは最重要である。FD研修では、当校が今、どの地点におり何を課題としてどう取り組もうとしているのかが明確に理解でき、一緒に検討できる仲間がいる心強さも加わった点で私には大変有意義であった。

(看護福祉学部 八木 こずえ)

今回、FD委員として全学FD研修(テーマ編)に参加した。「ChatGPTを活用した低学力学生への学習支援方法の開発を目指して」のグループワークに参加された先生方は、実際にChatGPTを操作する体験を踏まえ、活発なディスカッションを和やかな雰囲気の中で展開された。教員として活用できること、大学生の学習支援として活用できることを踏まえて、低学力学生の学習支援に活用できることを検討されていた。低学力の学生が興味を持って主体的に行えること、気楽に始められ自分事として継続できること、学生が相談相手として質問しながら自分の弱点や躓きに気づけること、そのためにどのように活用可能であるかを検討されている姿から、大学教育で重要なポイントはどのような教材を活用しようと共通であると感じた。ChatGPTの活用可能性を学生と教員で探るスタートに今回のワークショップ体験が位置付けられるのではないかと感じた。

(看護福祉学部 桑原 ゆみ)

2023年度の全学FD研修テーマ編は、2023年8月3日に実施された。筆者は午後のワークショップで、合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けてというテーマ・グループのファシリテーターであった。そのワークショップでは、最初にその基本的な考え方について、下村先生が講義いただき、それに引き続いて討論がなされた。討論では8名の参加者によって積極的に意見が出され、その考えはホワイトボードに付箋で貼り付けながら分類されていった。参加者は司会、書記、発表者などの役割をうまく果たしていた。筆者の脳もよく賦活された。

(リハビリテーション科学部 中川 賀嗣)

生成系AIの可能性についてのワーキンググループにFD委員として加わりました。Web版とAPIの違い、プライバシーの問題などを理解ができました。一方、低学力といっても、多様で新生から薬歯の6年次までいます。一般論としての結論をまとめるのは、かなり大変である印象でした。それでも、生成系AIの使用経験した参加者がほほいらない中で、とりあえず使ってみることで可能性が見えてきたのかと思います。実際、学生や教員が個人的に使うにしても、使い方によってはプラスになることは、明らかに感じられました。

(全学教育推進センター 鈴木 喜一)

今回の研修会では「合理的配慮を必要とする学生への効果的な支援体制の確立に向けて」のWSにファシリテーターとして参加させていただきました。午前のレクチャー、午後のWSを通して、合理的配慮の考え方について多くの気づきを得る機会となりました。

日常を振り返ると、学生の不適切な言動や行動を、理解しようとせずに誤解して捉え対応する場面が多くあることに気がつきました。発達障害やその疑いがある学生と向き合う際には、教員である私たちが障害の本質を理解していないと、学生の困り感に気づくことすらできません。個人の特性に合わせた配慮を行うためにも、まずは自分自身が発達障害についての理解を深めることが重要であることを改めて感じました。

また、今回はChatGPTに関するWSには参加できませんでしたが、午前中のレクチャーから生成AIの可能性についても興味を持ちました。また機会があれば、生成AIの活用についても知りたいと思いました。今回は有意義な研修をありがとうございました。

(歯科衛生士専門学校 千葉 利代)

# 総合評価

# 令和5年度 北海道医療大学全学FD研修（テーマ編） 実施結果（参加者アンケート集計結果）

## <実施概要>

開催日：2023（令和5）年8月3日（木）

開催方法：対面・Zoomハイブリッド〔全体会〕と対面〔レク+WS〕の併用

メインテーマ：学生を中心とした教育をすすめるために

サブテーマ：低学力、要支援学生への対応策の新時代～生成系AI活用への探索

## <アンケート集計概要>

回答者：44名（ワークショップ参加者 25名〔FD委員含む〕、視聴参加者 76名）

※延べ参加者数 101名

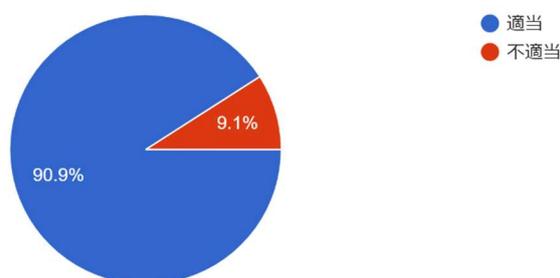
## Q1. FD研修の日程について

今回のFD研修の日程は適当でしたか

| 適当 | 不適当 |
|----|-----|
| 40 | 4   |

Q1

44件の回答



## Q1-2 Q1で不適当を選択した方へ

不適当とご回答の場合はその理由やご意見をお願いします

- ・オープンキャンパスの準備や試験の採点時期と重なるため。
- ・定期試験期間とも重なり研修参加が難しい時期である。
- ・PT学科では毎年この時期に臨床実習1があり、ほぼ同じ教員しか参加できない
- ・まだテスト期間であるので、仕事としては忙しい時期にあたるため。

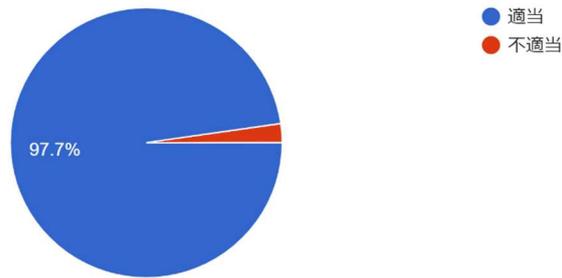
## FD研修の時間配分について

Q2. 時間配分は適当だと感じましたか

|    | 適当   |      | 1 | 不適当  |      |
|----|------|------|---|------|------|
|    | WS参加 | 視聴参加 |   | WS参加 | 視聴参加 |
| 43 | 22   | 21   |   | 1    | 0    |

## Q 2

44 件の回答



### Q 2. で不適当を選択した方へ

#### Q 2-2. 不適当とご回答の場合はその理由やご意見ををお願いします

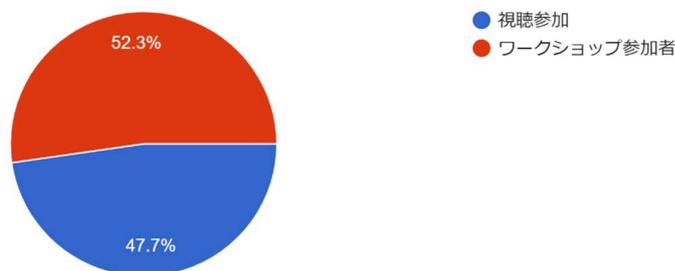
- ・ワークショップが長かった。

### アンケート回答者の参加区分について

| ワークショップ参加 | 視聴参加 |
|-----------|------|
| 23        | 21   |

視聴参加またはワークショップ参加の確認です

44 件の回答



### ワークショップについて

#### Q 3. ワークショップについてのご意見、ご感想をお願いします（回答はワークショップ参加者のみ）

- ・隣のグループと席が近いので声が気になりました。
- ・どの先生も積極的に参加姿勢が素晴らしく、内容も勉強になりました。
- ・色々な学部、学科で苦慮している事例を共有し、対応策を議論することができて大変有意義なものになりました。
- ・今回のワークショップはとても興味深かったので、他学部の先生方とも情報交換ができてよかったです。
- ・今回のワークショップは課題の設定が少し難しかったのですが、興味深い内容で他の参加者とも白熱した議論をすることができたので、非常に有意義でした。ワークショップにおけるハンドアウトが事前配布だけでなく、当日も配布があったり、ハンドアウトに課題の詳細があるなど、もう少し指示が充実しているとより良い活動になったかと思います。
- ・今回は1テーマについて1グループの発表だったので、複数グループの意見も聞いてみたいと思った。
- ・他学科の先生方と意見交流をしながら進められ、とても有意義な時間でした。
- ・参加された先生からいろいろとお話を伺うことができ、わたくしも大変参考になりました。

- ・講師のミニレクチャーを入れて、議論が深まったと思われます。もう少しプロダクト作成の時間が短くても良いかと思いました。発表の時間を守るよう指示が必要かと感じました。
- ・非常に勉強になり、楽しく参加させていただきました。先生方とのディスカッションもとても有意義な時間でした。このような機会を頂戴し感謝申し上げます。
- ・ChatGPT の体験ができたことが非常に大きな収穫でありました。この体験だけでも本学のすべての教員に体験してもらうように検討していただけると良いと思います。
- ・有意義でした。
- ・ChatGPT という技術革新に触れられたことに感謝します。
- ・他学科での実習状況などの情報交換ができてよかったです。
- ・レクチャーを交えたワークショップは、参考となるアイデアが提供されることから、議論がスムーズに進み、とても良い形式だと感じた。
- ・2グループの会話が重なり、聞き取りにくいことがあった。
- ・司会や発表者などの役割分担を最初に決めるのは仕方ない面もあると思うが、向いていない方が担当されると、議論が停滞する。
- ・ChatGPT のイメージが変わりました。言い回しの工夫や使い方次第で活用方法は広がると感じました。学生だけでなく、自分自身の仕事や自己研鑽にも利用していこうと思います。
- ・話し合いをスムーズに行うための環境整備がもう少し行われていると良い。制作物を共有するための道具（モニターや付箋など）。
- ・ワークショップの前にレクチャーがあり、すんなりテーマに入っていた。
- ・大変有意義でした。学部での FD でも同じテーマでワークショップを行おうと思います。
- ・内容は大変、勉強になった内容です。ChatGPT も体験、学ぶことができ、また二瓶先生のサポートがあったのも大変良かったと思います。

## FD 研修全般について

### Q 4. 今回の FD でよかった点、悪かった点についてご記入願います

#### <良かった点>

- ・非常に興味深いテーマのレクチャーでした。それぞれとても分かりやすかったです。
- ・午前中の講演が 2 題とも非常に興味深かったです。
- ・新しい内容で良かった。特に午前の二瓶先生。
- ・AI に関する話題を聞いたのが良かった。
- ・Chat GPT について興味があったので、情報を知れて良かった。
- ・生成系 AI の教育への応用の可能性について学ぶことができ、大変有意義な FD でした。ありがとうございました。
- ・AI と合理的配慮の専門の先生から基礎的な話がお聞きできてよかったです。
- ・生成 AI に対して正しい認識を持つことができる内容が非常によかった。
- ・発表全体でスライドが見やすく、音声も聞きやすかった。二瓶先生の演者のカットイン形式の発表方法はよかったので、やり方を教えてほしい。
- ・チャット GPT の使い方や授業での活かし方を学ぶことができた。低学力の学生に対しての具体的な使い方を考える必要があると思った。また、合理的配慮が必要な学生に対しても対応の仕方について学ぶことができた。
- ・2 つのテーマとも、現在の教育現場で話題、課題となっている内容だったので、興味深かったです。
- ・午前の部のレクチャーをご担当された先生方のご講演が非常に勉強になりました。柳生先生のご講演で動画音声流れなかったのは、画面共有のときにサウンドを共有にチェックを入れず画面共有されたのかもしれないと思ったので(もちろん PC やシステムとの相性もありますが)、動画を使用される演者がいらっしゃる場合は事前に事務の方が確認ないし情報共有して頂けると幸いです(視線と読み上げがどのようにリンクしていたのか興味があったため)。
- ・視聴参加でしたが、ChatGPT についてのレクチャーは、名前以外はあまり知らなかったものについて見聞するよい機会となりました。
- ・合理的配慮に関する概念は理解していただいたと思いますので、実際に申請するまでの流れを知りたいと思いました。

- ・ChatGPT の表面的な良し悪しではなく、仕組みを踏まえた活用について勉強できたところがよかったです。
- ・よかった点は綿密に計画・準備されていた点です。でも共有のための方法として、付箋紙の粘着が弱くてボードに貼り付けても落ちてしまい、セロテープなど文房具もあつたら良かったと思いました。時間超過した点は改善できたら良かったと思います。柳生先生のご講演は大変勉強になりました。
- ・講義の内容がどちらも大変興味深く、勉強になりました。別のワークショップへの参加でしたが、講義を聞いてみると ChatGPT の体験もしてみたくなりました。
- ・特にありません。FD 委員の先生方、準備などありがとうございました。
- ・テーマはどの教員にも興味深く、時代の流れにそった内容でしたので、楽しんで参加することができました。ワークショップはこれまで参加したことがない人もおり、課題に対するアプローチについても多くの部分が丸投げでしたので、もう少し具体的な指示をその場でしていただけるとより有意義な時間になったのかなと感じました。
- ・Chat GPT の具体的な利用例を知ることができて良かったと思います。
- ・ワークショップの前にレクチャーがあつたので、その後のワークショップがスムーズに実施されたと思う。
- ・事前配付資料があつたので分かりやすかつた。
- ・興味深いテーマであり、大変勉強になった。
- ・2つのテーマに絞つたこと、ミニレクチャーを入れたことなどが良かったと思います。
- ・ミニレクチャーがあることにより、スムーズに話し合いができました。
- ・まだ使い方が各個人で確立していない ChatGPT というツールは、低学力の学生に対しての学習方略としてまだまだ議論する必要があり、実際の教育の現場で実践し、その振り返りを継続して精査していくことが必要だと思います。今回の FD はその最初のきっかけになった、という点が良かったと思います。
- ・生成系 AI を知る機会になった点は大変良かった。
- ・両テーマともに各学部で解決すべき内容だったので良かった。両テーマを別々の部屋で議論させた方が集中できて良かったと思います。
- ・当日については特にありません。
- ・レクチャーがあつた点が良かった
- ・教員の交流の効果、普段よりも広い視点での思考ができました。
- ・ワークショップに講師が参加して頂いたことは非常に良かった。講師の先生にもっと積極的に議論に参加してもらいたかつた。
- ・実際に体験して具体的なイメージを掴みやすく、テーマに対する話し合いだけでは終わらずに、これからの自分自身の勉強にもなるテーマでした。とても実のある、研修だつたと感じています。
- ・良かった点は参加された先生が皆さん前向きに取り組んでいた。
- ・他学部の教員と交流が図れた。

#### <悪かつた点>

- ・合理的配慮に関する概念は理解していただいたと思いますので、実際に申請するまでの流れを知りたいかと思いました。
- ・昼食時間が削られ過ぎて、食事を丸飲み込みして走って戻りました。
- ・使用教室の環境。隣のグループと声が混ざり聞き取りにくい部分があつた。
- ・ありません。
- ・休憩の時間が短く、休息や食事の時間が十分に確保できなかつた。
- ・無線を事前に準備しておけばよかつたです。
- ・進行管理がもう少しはっきりしていると時間が守れて良かったかと思いました。
- ・ワークショップの際、もう一方のグループとの距離が近く、こちら側のディスカッションの音が聞きにくいことがあつました。
- ・悪かつた点は個別の問題・合理的配慮のはなしでおわってしまったので、大学の仕組みとしてどのようなものが提案できるか話し合えたら良かった。
- ・ワークショップ直前のレクチャーが片方のみで AI 体験ができなかつたこと。

- ・グループが4グループでも良かったのでは？
- ・内容としては満足であり、時間もこのくらい要することは参加してみて理解できましたが、なかなか1日取られ、また昼休みも移動も含めるとかなり短かったので、大変でした。

#### 今後のFD研修に向けて

#### Q5. 今後のFD研修で取り上げるべきテーマなどのアイデアがあればご提案ください

- ・勉強しない学生がやる気を出す方法を知りたい。
- ・AIについては今後も進歩していくと思われるので、AIの活用例などについては引き続きテーマにしても良いのではないかと。
- ・個人情報保護法関連、著作権関連、情報セキュリティ関連(教職員のICTリテラシー向上のための取り組み)
- ・どこまでの低学力者を救うのか(人的、時間的資源の限界、慢性化すると教員がジリ貧になる)。長い目で見たら入試の段階で切った方がよくなるラインはどこなのか(短期的には学生数減少による授業料収入の低下、長期的にはストレート国試合格率向上による優秀な人材に対する最高の広報効果をどう見るか)。
- ・教員自身の教授方法のスキルアップについて。例えば、グループワークのファシリテートの仕方や効果的な教材の紹介など。
- ・FDとは違うかもしれませんが、ジェンダーに関するトイレ問題は一度話し合ってみてもいいかもしれません。
- ・初等中等教育での学修背景を踏まえた低学力学生への対応について、発達障害グレーゾーンの学生対応について
- ・プレゼンの仕方や魅力的な講義資料の作り方など
- ・特にありません。
- ・全学のFD研修では、今後も教員全体が興味を持てるような内容が良いかと思います。今回の低学力の学生へのアプローチは、今後も引き続きさまざまな角度から取り上げていただきたい大変重要なテーマかと存じます。これに加えて、決して優先順位は高くありませんが、アイデアの一つとして、大学院を目指す学生の発掘、研究活動の充実という面でのテーマも良いかなと感じました。
- ・対話系以外にもある様々なAIを大学教育に取り入れるとしたら、どのような方法があるかななどをディスカッションするなどであろうかと思います
- ・メインテーマは継続して、サブテーマを時期にふさわしいものにしていくと先生方の教育ニーズに合致すると思いました。
- ・生成系AIに関しては引き続き取り上げていただけると嬉しいです。
- ・Chat GPTについて
- ・FD研修はいろいろなテーマで議論されてきたと思います。その中で実践したものを全体で評価する、得られた結果・データを精査するという振り返りのFD、というのはいかがでしょうか。
- ・今回のテーマをレベルアップさせて継続させるべき。
- ・更にChatGPTの活用を模索するテーマが良いと思う。
- ・今回の話題に類似したものが良いように思います。
- ・学内の食事環境の改善。特に、夜や休日でも、それなりに満足できる食事を入手できる店舗や設備の充実について
- ・引き続き、AI技術に発展が見られた場合には随時このような研修(学習や生活に活かせる方法の提案など)を設けていただけると嬉しいです。
- ・とくにありません
- ・来年度もAI関連のテーマを継続してほしいです。
- ・ChatGPTについては継続的に、また同じ内容で他の教員も参加したほうが良いかと思いました。



学務部 教務企画課 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757  
TEL:0133-23-1211 / FAX:0133-23-1669  
URL:<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>